Dell™ OptiPlex™ 740 システム ユーザーズガイド

ミニタワーコンピュータ

デスクトップコンピュータ

スモールフォームファクターコンピュータ

目次に戻る

アドバンス機能

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- LegacySelect テクノロジコントロール
- 管理機能
- セキュリティ機能
- パスワードによる保護
- Trusted Platform Module(TPM)
- セットアップユーティリティ
- USB デバイスからの起動
- ジャンパ設定
- 忘れたパスワードの消去
- CMOS 設定のリセット
- HyperTransport™ およびデュアルコアテクノロジ
- 電力の管理
- RAID 構成について
- Cool 'n' Quiet™ テクノロジの有効化

LegacySelect テクノロジコントロール

LegacySelect テクノロジコントロールは、共通プラットフォーム、ハードディスクドライブイメージ、およびヘルプデスク手続きを基本としたレガシーフル、レガシー限定、またはレガシーフリーソリューションを提供します。管理者は、セットアップユーティリティ、Dell OpenManage™ IT Assistant、または CFI(カスタムファクトリーインテグレーション)を介して管理できます。

LegacySelect を使うことによって、管理者はシリアル / USB コネクタ、パラレルコネクタ、PCI スロット、フロッピードライブ、PS/2 マウスなどのコネクタおよびメディアデバイスを電子的に活動化または非活動化することができます。コネクタおよびメディアデバイスを無効にして、リソースを利用可能にします。変更を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。

管理機能

ASF(Alert Standard Format)

ASF は、「オペレーティングシステム確立以前」または「オペレーティングシステム不在」警告技術を指定する DMTF 管理標準です。オペレーティングシステムがスリープモード、もしくはコンピュータの電源が切れているときに、セキュリティの問題および障害が発生している可能性があるという警告を発するよう設定されています。ASF は、オペレーティングシステム不在の際の従来の警告方法に代わるものとして設計されています。

お使いのコンピュータでは、以下の ASF バージョン 1.03 および 2.0 の警告とリモート機能をサポートしています。

警告	**説明**
Chassis：Chassis Intrusion - Physical Security Violation/Chassis Intrusion- Physical Security Violation Event Cleared	シャーシイントルージョン機能が搭載され有効になっているコンピュータシャーシが開けられたか、またはシャーシイントルージョン警告がクリアされました。
CPU：Emergency Shutdown Event	プロセッサ温度が高すぎるため電源ユニットがシャットダウンしました。
Cooling Device：Generic Critical Fan Failure/Generic Critical Fan Failure Cleared	ファン速度(rpm)が限界値を超えています。ファン速度(rpm)の問題が解決しました。
Temperature：Generic Critical Temperature Problem/Generic Critical Temperature Problem Cleared	コンピュータの温度が限界値を超えているか、またはコンピュータの温度の問題が解決しました。
Battery Low	システムバッテリが 2.2V 以下になりました。

デルの ASF 導入の詳細については、デルサポートサイト**support.jp.dell.com**で入手できる『ASF ユーザーズガイド』および『ASF 管理者ガイド』を参照してください。

Dell OpenManage™ IT Assistant

IT Assistant は、企業のネットワーク上のコンピュータやその他のデバイスを設定、管理、監視します。IT Assistant は、業界標準の管理ソフトウェアを装備したコンピュータの資産、設定、イベント(警告)、セキュリティを管理します。また、SNMP、DMI、および CIM の業界標準に準拠する計装をサポートします。

DMI と CIM を基本にした Dell OpenManage Client Instrumentation(クライアント用ソフトウェア)は、お使いのコンピュータで使用できます。IT Assistant の情報は、デルサポートサイト**support.jp.dell.com**で入手できる『Dell OpenManage IT Assistant ユーザーズガイド』を参照してください。

Dell OpenManage Client Instrumentation(クライアント用ソフトウェア)

Dell OpenManage Client Instrumentation(クライアント用ソフトウェア)は、IT Assistant などのリモート管理プログラムが、以下を実行するのを可能にします。

- お使いのコンピュータについての情報へのアクセス(搭載されているプロセッサの数や実行されているオペレーティングシステムの種類など)。
- コンピュータのステータスの監視(温度プローブからの熱警告やストレージデバイスからのハードディスクドライブ障害警告を受信することなど)。
- お使いのコンピュータのステータスの変更(BIOS のアップデート、またはリモートでのシャットダウンなど)。

管理システムは、IT Assistant を使ってネットワーク上で Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）がセットアップされているコンピュータです。Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）については、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** で入手できる『Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）ユーザーズガイド』を参照してください。

セキュリティ機能

シャーシイントルージョン検出

メモ: システム管理者パスワードが有効な場合、システム管理者パスワードがわからないと **シャーシイントルージョン** 設定をリセットできません。

この機能が搭載され有効になっている場合、シャーシが開けられたことを検出してユーザーに警告します。**シャーシイントルージョン** 設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. セットアップユーティリティを起動します（セットアップユーティリティの起動を参照）。
2. 下矢印キーを押して、**Security** オプションへ移動します。
3. <Enter> を押して、**Security** オプションのポップアップメニューにアクセスします。
4. 下矢印キーを押して、**Chassis Intrusion** 設定へ移動します。
5. <Enter> を押して、オプション設定を選択します。
6. オプション設定のアップデートが終わったら、もう一度 <Enter> を押します。
7. 保存して、セットアップユーティリティを終了します。

オプション設定

- **On** - コンピュータカバーが開けられると、設定が **Detected** に変わり、次回のコンピュータ起動時の起動ルーチン中に、次の警告メッセージが表示されます。

  Alert! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

  Detected の設定をリセットするには、セットアップユーティリティを起動し（セットアップユーティリティの起動 を参照）。**Chassis Intrusion** オプションで、左右矢印キーを押し、**Reset** を選択してから **On**、**On-Silent**、または **Off** を選択します。

- **On-Silent**（デフォルト設定）- コンピュータカバーが開けられると、設定が **Detected** に変わります。次回のコンピュータ起動時の起動順序中に警告メッセージは表示されません。
- **Off** - イントルージョンモニタが行われず、メッセージも表示されません。

パドロックリングとセキュリティケーブルスロット

以下の方法の 1 つを使って、コンピュータを保護します。

- パドロックリングはパドロックのみ、またはパドロックとループ型セキュリティケーブルをいっしょに使用します。

  パドロックだけでコンピュータが開けられることを防ぐことができます。

  固定されたものにセキュリティケーブルを通し、パドロックを取り付けることで、無許可のコンピュータの移動を防ぐことができます。

- コンピュータ背面のセキュリティケーブルスロットに市販の盗難防止デバイスを取り付けます。

メモ: 盗難防止デバイスを購入する前に、お使いのコンピュータのセキュリティケーブルスロットに対応するか確認してください。

通常、盗難防止デバイスには、金属ケーブルに取り付けられているロック装置とキーが付いています。取り付け方法は、デバイスに付属のマニュアルに記載されています。

パスワードによる保護

注意: パスワードはコンピュータ内のデータに対してセキュリティを提供しますが、絶対に安全であるというわけではありません。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご自身でご用意ください。

システムパスワード

注意: システムパスワードを設定せずに操作中のコンピュータから離れたり、コンピュータをロックせずに放置した場合には、第三者がジャンパ設定を変更し、パスワードを解除することができます。その結果、ハードディスクドライブ内のデータへのアクセスが誰にでも可能になります。

オプション設定

以下の 2 つのオプションのいずれかが表示されている場合、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

- **Set** - システムパスワードが設定されています。
- **Disabled** - システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワードが無効になっています。

以下のオプションが表示された場合にのみ、システムパスワードを設定できます。

- **Not Set** - システムパスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト設定）になっています。

システムパスワードの設定

メモ: システムパスワードの設定を途中で中止したい場合は、または <Shift> キーを押して別のフィールドに移動するか、または手順 5 を終了する前に <Esc> を押します。

1. セットアップユーティリティを起動して、**Password Status** が **Unlocked** に設定されているか確認します。

2. **System Password** をハイライト表示して、左または右矢印キーを押します。

   オプション名が **Enter Password** に変わり、その後に 32 文字分の空のフィールドが現れます。

3. 新しいシステムパスワードを入力します。

   32 文字まで入力できます。パスワードの入力の際に、入力した文字を訂正する場合、<Backspace> または左矢印キーを押します。パスワードは、大文字と小文字を区別しません。

   無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせを入力すると、スピーカからビープ音が鳴ります。

   それぞれの文字キー（またはブランクスペースとしてのスペースバー）を押すごとに「*」が表示されます。

4. <Enter> を押します。

   新しいシステムパスワードが 32 文字未満の場合、フィールド全部に「*」が挿入されます。次に、オプション名が **Verify Password** に変わり、その後に 32 文字分の別の空のフィールドが現れます。

5. パスワードを確認するために、もう一度パスワードを入力して <Enter> を押します。

   パスワード設定は **Set** に変わります。

6. セットアップユーティリティを終了します。

   コンピュータを再起動すると、パスワード保護機能は有効になります。

システムパスワードの入力

コンピュータを起動または再起動すると、以下のプロンプトが画面に表示されます。

Password Status が **Locked** に設定されている場合、次のメッセージが表示されます。

```
Type the password and press <Enter>.
```

（パスワードを入力し、<Enter> を押してください。）

システム管理者パスワードが設定されている場合、コンピュータはシステム管理者パスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password.**
```

（パスワードが間違っています）

再び誤ったパスワードまたは不完全なパスワードを入力すると、同じメッセージが表示されます。システムパスワードを 3 回間違えると、それ以降は以下のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
Number of unsuccessful password attempts: 3
System halted! Must power down.
```

（パスワードが間違っています。間違ったパスワード入力の回数：3　システムが停止しました！電源を切ってください。）

コンピュータの電源を入れなおした後でも、再び誤ったシステムパスワード、または不完全なシステムパスワードを入力するたびに、上記のメッセージが表示されます。

メモ: **システムパスワード** および **管理者パスワード** と併用して **Password Status**（パスワードステータス）を使用すると、無許可の変更に対するコンピュータの保護を強化できます。

既存のシステムパスワードの取り消しまたは変更

1. セットアップユーティリティを起動します（セットアップユーティリティの起動を参照）。
2. **System Password** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
3. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
4. <Enter> を 2 回押して、既存のシステムパスワードをクリアします。設定は **Not Set** に変わります。

   Not Set と表示されている場合、システムパスワードは削除されています。**Not Set** が表示されていない場合、<Esc> を押し、左右矢印キーを押して **Save/Exit** をハイライトします。次に <Enter> を押してコンピュータを再スタートし、変更を反映させます。その後、手順 3 と 4 を繰り返します。

5. 新しいパスワードを設定するには、システムパスワードの設定の手順に従います。
6. セットアップユーティリティを終了します。

システム管理者パスワード

オプション設定

次の 2 つのオプションのいずれかが表示された場合は、システム管理者パスワードを変更したり、新しいシステム管理者パスワードを入力することはできません。

- **Set** - 管理者パスワードが設定されています。
- **Disabled** - システム基板のジャンパ設定によって、システム管理者パスワードが無効になっています。

次のオプションが表示された場合のみ、システム管理者パスワードを設定できます。

- **Not Set** - システム管理者パスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト設定）になっています。

管理者パスワードの設定

メモ: 管理者パスワードの設定を途中で中止したい場合は、または <Shift> キーを押して別のフィールドに移動するか、または手順 3 を終了する前に <Esc> を押します。

管理者 **パスワード** とシステムパスワードは同じでも構いません。

メモ: これら 2 つのパスワードが異なる場合は、システム管理者パスワードをシステムパスワードの代わりに使用することができます。ただし、システムパスワードをシステム管理者パスワードの代わりに使用することはできません。

1. セットアップユーティリティを起動し、**Admin Password** が **Not Set に設定されているか確認します**（セットアップユーティリティの起動を参照）。
2. **Admin Password** をハイライト表示して、左右矢印キーを押します。

   パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字を入力した場合、コンピュータからビープ音が鳴ります。

3. パスワードを入力して確認します。

   パスワードの確認が終わると、**Admin Password** の設定は、**Set** に変わります。次回のセットアップユーティリティ起動時に、管理者パスワードの入力が求められます。

4. セットアップユーティリティを終了します。

   Admin Password の変更は、ただちに有効になります（コンピュータを再起動するは必要ありません）。

システム管理者パスワードが有効な場合のコンピュータの操作

セットアップユーティリティを起動すると、**Admin Password** オプションがハイライト表示され、パスワードの入力が求められます（ セットアップユーティリティの起動を参照）。

正しいパスワードを入力しないと、セットアップオプションを変更することはできませんが、セットアップユーティリティ画面は表示されます。

メモ: **Setup Password** と **Password Status** を併用すると、システムパスワードを無許可の変更から保護できます。

既存のシステム管理者パスワードの削除または変更

既存のシステム管理者パスワードを変更するには、システム管理者パスワードを知っている必要があります。

1. セットアップユーティリティを起動します（セットアップユーティリティの起動を参照）。
2. プロンプトでシステム管理者パスワードを入力します。
3. **Admin Password** をハイライト表示し、左または右矢印キーを押して既存のシステム管理者パスワードを削除します。

   設定は **Not Set** に変わります。

   新しい管理者パスワードを設定するには、管理者パスワードの設定の手順を実行します。

4. セットアップユーティリティを終了します。

忘れたパスワードの取り消しと新しいパスワードの設定

システムパスワードまたはシステム管理者パスワードをリセットするには、忘れたパスワードの消去を参照してください。

Trusted Platform Module（TPM）

メモ: オペレーティングシステムで TPM がサポートされている場合にのみ、TPM 機能により暗号化がサポートされます。詳細に関しては、ソフトウェアに同梱されている TPM ソフトウェアのマニュアルおよびヘルプファイルを参照してください。

TPM は、コンピュータ生成の暗号キーを作成および管理することができる、ハードウェアベースの保護機能です。保護ソフトウェアと共に使用することにより、TPM はファイルプロテクション機能や E-メール保護などの機能を有効にして、既存のネットワークおよびコンピュータセキュリティをさらに強化します。TPM 機能はセットアップオプションから有効にします。

注意: TPM のデータおよび暗号化キーを保護するため、EMBASSY Security Center（EMBASSY セキュリティセンター）ヘルプファイルの「Archive and Restore（アーカイブおよび復元）」の項に示されているバックアップの手順に従ってください。バックアップが不完全であったり、紛失、または損傷した場合、デルでは暗号化されたデータのリカバリを援助することはできません。

TPM 機能の有効化

1. TPM ソフトウェアを有効にするには、次の手順を実行します。
   a. コンピュータを再起動し、Power On Self Test（POST）の間に <F2> を押してセットアップユーティリティに入ります。
   b. **Security** と **TPM Security** を順に選択し、<Enter> を押します。
   c. **TPM Security** で **On** を選択します。
   d. <Esc> を押してセットアッププログラムを終了します。
   e. プロンプトが表示されたら、**Save/Exit** をクリックします。
2. TPM セットアッププログラムを有効にします。
   a. コンピュータを再起動し、Power On Self Test（POST）の間に <F2> を押してセットアップユーティリティに入ります。
   b. **Security** と **TPM Activation** を順に選択し、<Enter> を押します。
   c. **TPM Activation** で **Activate** を選択し、<Enter> を押します。

注意: プログラムは一度だけ有効にすれば、以後は必要ありません。

プロセスが完了したら、コンピュータが自動的に再起動するか、コンピュータの再起動を求めるプロンプトが表示されます。

セットアップユーティリティ

概要

セットアップユーティリティは以下の場合に使用します。

- ハードウェアを追加、変更、取り外した後に、システム設定情報を変更する場合
- ユーザーパスワードなどユーザー選択可能オプションを設定または変更する場合
- 現在のメモリの容量を調べたり、取り付けられたハードディスクドライブの種類を設定する場合

セットアップユーティリティを起動する前に、後で参照できるようにセットアップユーティリティ画面の情報を記録しておいてください。

セットアップユーティリティの起動

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. 青色の DELL™ ロゴの画面が表示されたら、F2 プロンプトが表示されるのを注意して待ちます。
3. この F2 プロンプトが表示されたら、すぐに <F2> を押します。

   メモ: F2 プロンプトは、キーボードが初期化されたことを示します。このプロンプトは短時間で表示されるので、プロンプトの表示に注意して、表示されたら <F2> を押してください。プロンプトの表示前に <F2> を押した場合、そのキーストロークは無視されます。

4. キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして（コンピュータの電源を切るを参照）、操作をやりなおします。

セットアップユーティリティ画面

セットアップユーティリティ画面は、お使いのコンピュータの現在のまたは変更可能な設定情報を表示します。画面上の情報は、上部のメニュー、メインウィンドウ、右側のアイテムヘルプフィールド、および下部のキー操作リストの 4 つの領域に分かれています。

<table>
<tr><td rowspan="2">Options List - このフィールドは、セットアップユーティリティウィンドウの左側に表示されます。このフィールドは、取り付けられたハードウェア、省電力機能、およびセキュリティ機能を含む、コンピュータの構成を定義するオプションを表示する、スクロール可能なリストです。

上下矢印キーを使って、一覧を上下にスクロールします。オプションをハイライト表示にすると、Option Field にそのオプションの詳細、現在の設定、および利用可能な設定が表示されます。</td><td>Option Field - このフィールドには、各オプションについての情報が表示されます。このフィールドで、現在の設定を表示させたり設定を変更することができます。

左右矢印キーを使って、オプションをハイライト表示します。<Enter> を押して、選択を有効にします。</td></tr>
<tr><td>Key Functions - このフィールドは Option Field の下に表示され、アクティブなシステムセットアップフィールド内に、キーとその機能が一覧表示されます。</td></tr>
</table>

セットアップオプション

メモ: お使いのコンピュータおよび取り付けられているデバイスによっては、この項に一覧表示された項目とは異なる場合があります。

System	
System Info	コンピュータ名、**BIOS のバージョン**、**サービスタグ**、**エクスプレスサービスコード**（該当する場合）、および **アセットタグ** が表示されます。これらのフィールドは、変更できません。
Processor Info	CPU タイプ、プロセッサクロック速度、バススピード、クロックスピード、および L2 キャッシュサイズを示します。プロセッサがマルチコア可能かどうか、および 64 ビットテクノロジをサポートするかどうかを示します。
Memory Info	取り付けられているメモリのタイプ、サイズ、速度、およびチャネルモード（デュアルまたはシングル）を一覧表示します。
PCI Info	取り付けられているすべての PCI または PCI Express カードを識別します。
Date/Time	現在の日付および時刻設定を表示します。
Boot Sequence	コンピュータはこのリストで指定したデバイスの順番で起動を試みます。
HDD Boot Sequence	BIOS がシステムで利用可能なハードディスクドライブを検索する順番を示します。

Drives	
Diskette Drive （デフォルトは **Internal**）	このオプションでフロッピードライブを有効または無効にします。オプションは **Off**、**USB**、**Internal**、および **Read Only** です。 **メモ: USB** が選択されている場合は、オンボードデバイスの USB コントローラ設定オプションが **On** に設定されていることを確認します。
SATA 0～ SATA n	システム基板の SATA コネクタに接続されたドライバを識別し、有効または無効にして、ハードディスクドライブの容量を表示します。 **メモ:** これらのオプションは、ミニタワーでは **SATA 0 ～ SATA 3**、デスクトップでは **SATA 0 ～ SATA 2** 、スモールフォームファクターおよびウルトラスモールフォームファクターでは、**SATA 0 と SATA 1** と表示されます。
External SATA	システム基板の eSATA コネクタに接続されたドライバを識別し、有効および無効にして、ハードディスクドライブの容量を一覧表示します。
SATA Operation （ミニタワーおよびデスクトップでは、RAID Autodetect/AHCI がデフォルト） （スモールフォームファクターコンピュータでは、AHCI がデフォルト）	ミニタワーおよびデスクトップコンピュータ用のオプション： ・ RAID 自動検出 / AHCI（シングルドライブの場合は RAID、その他の場合は AHCI） ・ RAID 自動検出 / ATA（シングルドライブの場合は RAID、その他の場合は ATA） ・ RAID オン（起動する度に SATA は RAID に設定されます） **メモ:** 自動検出モードでは、RAID シグネチャがドライブで検出された場合、コンピュータはドライブを RAID として設定します。それ以外の場合は、ドライブは AHCI または ATA として設定されます。 スモールフォームファクターコンピュータ用のオプション： ・ AHCI ・ ATA
SMART Reporting （デフォルトは **Off**）	この設定は、システム起動時に内蔵ドライブエラーを報告するかどうかを決定します。

Onboard Devices	
Integrated NIC （デフォルトは **On**）	内蔵 NIC コントローラを有効または無効にします。設定は **Off**、**On**、**On w/ PXE**、**または On w/RPL** です。**On w/ PXE** または **On w/RPL** の設定がアクティブな場合、ネットワークサーバーからの起動ルーチンを使用できなければ、コンピュータは起動順序リストの次のデバイスからの起動を試みます。
Integrated Audio （デフォルトは **On**）	オンボードオーディオコントローラを有効または無効にします。
USB Controller （デフォルトは **On**）	内蔵 USB コントローラを有効または無効にします。**No Boot** オプションでコントローラは有効になりますが、USB デバイスからの起動機能は無効になります。 **メモ:** USB をサポートするオペレーティングシステムでは、**No Boot** 設定になっていても USB フロッピードライブが認識されます。
USB 0～5 （デフォルトは **On**）	コンピュータ背面の USB ポートを有効または無効にします。
Front USB Ports （デフォルトは **On**）	前面の USB ポートを有効または無効にします。
LPT Port Mode （デフォルトは **PS/2**）	内蔵パラレルポートの動作モードを指定します。**AT** はポートを AT 互換用に設定します。**PS/2** はポートを PS/2 互換用に設定します。**EPP** は、ポートをエンハンストパラレルポート双方向プロトコル用に設定します。**ECP** は、ポートを拡張機能ポート双方向プロトコル用に設定します。 **メモ: LPT ポートモード**を **ECP** に設定している場合、**LPT Port DMA** がオプションに表示されます。
LPT Port Address	ビルトインパラレルポートで使用するアドレスを指定します。
Serial Port #1 （デフォルトは **Auto**）	シリアルポートの動作方法を指定します。 デフォルト設定の **Auto** は、コネクタを自動的に特定のポートに設定します（**COM1** または **COM3**）。
Serial Port #2 （デフォルトは **Auto**）	シリアルポートの動作方法を指定します。 デフォルト設定の **Auto** は、コネクタを自動的に特定の指定先（**COM2** または **COM4**）に設定します。
PS/2 Mouse Port	内蔵レガシー PS/2 マウスコントローラを有効または無効にします。

Video	
Primary Video （デフォルトは **Auto**）	この設定は、2 つのビデオコントローラが利用可能な場合に（**PCI**、**Onboard**、**Auto**、および **PEG**）、どのビデオコントローラを優先するかを指定します。この選択は、2 つのビデオコントローラが存在する場合のみ必要です。Auto に設定されている場合、アドインビデオコントローラが使用されます。 **メモ:** PCI Express グラフィックスカードは、オンボードビデオコントローラよりも優先されます。
Video Memory Size （デフォルトは **64 MB**）	この設定によって、オンボードビデオコントローラに予約されるシステムメモリの容量が決まります。設定は Auto、16 MB、32 MB、64MB、128MB、または Off です。

Performance	
HDD Acoustic Mode（デフォルトは **Bypass**）	• **Bypass** - お使いのコンピュータは、現在のアコースティックモードの設定をテストまたは変更しません。 • **Quiet** - ハードディスクドライブは最も静かな設定で動作します。 • **Suggested** - ハードディスクドライブは、ドライブ製造元が推奨する速度レベルで動作します。 • **Performance** - ハードディスクドライブは最大速度で動作します。 **メモ:** Performance モードへ切り替えると、ドライブはより大きなノイズを発生する場合がありますが、動作に影響はありません。アコースティック設定を変更しても、ハードディスクドライブイメージは変わりません。

Security	
Unlock Setup	システム管理者パスワードが使用されている場合、ユーザーがアクセスしてセットアップユーティリティを変更できます。プロンプトでシステム管理者パスワードを入力し、セットアップユーティリティのロックを解除します。ここで正しいパスワードを入力しなかった場合、セットアップユーティリティフィールドは表示されますが、変更はできません。
Admin Password	現在のセットアップユーティリティプログラムのパスワードセキュリティ機能の状態を表示して、新しい管理者パスワードの設定と確認を行います。
System Password （デフォルトは **Not Set**）	システムのパスワードセキュリティ機能の現在の状態が表示され、新しいシステムパスワードを設定したり確認することができます。
Drive 0-n Password （デフォルトは **Not Set**）	ハードディスクドライブのパスワードセキュリティ機能に関する現在の状態が表示され、新しいハードディスクドライブパスワードの設定および確認が可能です。
Password Changes （デフォルトは **Unlocked**）	**System**パスワードと **Admin** パスワード間の作用を指定します。**Locked** に設定されている場合、有効な **Admin** パスワードを持っていなければ **System** パスワードを変更できません。**Unlocked** の場合は、有効な **System** パスワードでシステムパスワードを変更できます。
Chassis Intrusion （デフォルトは **On-Silent**）	有効でスイッチが取り付けられている場合、このオプションはコンピュータの次回の起動時に、コンピュータカバーが開けられたことをユーザーに警告します。設定は **On** または **On-Silent**（デフォルト設定）、および **Off** です。
Intrusion Alert	シャーシイントリュージョン警告を承認およびクリアします。
TPM Security （デフォルトは **Off**）	Trusted Platform Module セキュリティデバイスを有効または無効にします。
TPM Activation （デフォルトは **Deactivate**）	Trusted Platform Module セキュリティデバイスをアクティブまたは非アクティブにします。**Clear** オプションは、以前に TPM をアクティブにして使用したユーザーが保存したデータをクリアします。 **メモ:** Trusted Platform Module をアクティブにするには、**TPM Security** オプションを **On** に設定する必要があります。
Non-Execute Disable（非実行の無効化） （デフォルトは **On**）	メモリ保護テクノロジを有効または無効にします。

Power Management	
AC Recovery （デフォルトは **Off**）	停電後に AC 電源が回復した場合のシステムの対応を指定します。**Off** では、電源が回復してもシステムはオフのままです。システムをオンにするには、前面パネルの電源ボタンを押す必要があります。**On** では、電源が回復するとシステムはオンになります。**Last** では、システムはシステムがオフになる前の電源状態に戻ります。
Auto Power On （デフォルトは **Off**）	コンピュータが自動的にオンになるように設定します。**Off** では、この機能は無効になります。**Everyday** では、毎日 **Auto Power Time** に設定された時刻にコンピュータをオンにします。**Weekdays** は、月曜日から金曜日までの毎日 **Auto Power Time** に設定された時刻にコンピュータをオンにします。 **メモ:** この機能は、電源タップやサージプロテクタのスイッチでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。
Auto Power Time	コンピュータを自動的に起動する時間を設定します。

	時刻は標準の 12 時間形式(時:分)で表示されます。左右矢印キーを押して、数値を増減するか、日付と時間のフィールドの両方に数値を入力して、起動する時間を変更します。
Low Power Mode (デフォルトは **On**)	**Low Power Mode** を選択した場合、Remote Wakeup イベントはオンボードのネットワークコントローラを介してコンピュータを **Hibernate** または **Off** から起動しません。
Remote Wake-Up (デフォルトは **Off**)	このオプションは、Network Interface Controller または Remote Wakeup 機能を持つモデムがウェイクアップ信号を受け取った際に、システムを起動させます。 **On** がデフォルト設定です。**On w/ Boot to NIC** の場合、コンピュータは起動順序を使用する前に、ネットワークから起動しようとします。 **メモ:** 通常、システムはサスペンドモード、休止状態モード、または電源が切れた状態からリモートで起動できます。**Power Management** メニューで **Low Power Mode** が有効な場合、システムは **Suspend** からのみリモートで起動できます。
Suspend Mode (デフォルトは **S3**)	コンピュータのサスペンドモードを設定します。オプションは、**S1**(コンピュータが省電力モードで動作中のサスペンド状態)および **S3**(多数のコンポーネントの電源が低減されているか切られているがシステムメモリは アクティブであるサスペンド状態)です。

Maintenance	
Service Tag	コンピュータのサービスタグを示します。
ASF Mode (デフォルトは **On**)	この設定は、ASF 機能を制御します。**On** はすべての ASF 機能を有効にし、**Alert Only** はイベントまたはエラー発生時に ASF メッセージを送信し、**Off** はすべての ASF 機能を無効にします。
Load Defaults	セットアップオプションを工場出荷時のデフォルト状態に戻します。
Event Log	**イベントログ** を表示します。エントリは、**Read** の **R** および **Unread** の **U** のマークが付けられます。**Mark All Entries Read** を選択すると、すべてのエントリの左側に **R** マークが付けられます。**Clear Log** を選択すると、**イベントログ** が消去されます。

POST Behavior	
Fastboot (デフォルトは **On**)	有効に設定されると、一部の互換性のある手順を省略してコンピュータの起動時間を短縮します。**Off** に設定すると、コンピュータの起動手順をスキップしません。**On** に設定すると、システムの起動時間が短縮されます。
Numlock Key (デフォルトは **On**)	キーボード右側にある数字キーの機能を指定します。**Off** に設定すると、右側のキーパッドキーが矢印として機能します。**Off** に設定すると、右側のキーパッドキーが数字として機能します。
POST Hotkeys	始動画面に、**Setup** プログラムまたは **Quickboot** 機能を起動するのに必要なキーの入力のメッセージを表示するかどうかを決定します。**Setup & Boot Menu** は両方のメッセージ(F2=Setup および F12=Boot Menu)を表示します。**Setup** はセットアップメッセージ(F2=Setup)のみ表示します。 **Boot Menu** は **Quickboot** メッセージ(F12=Boot Menu)のみ表示します。**None** はメッセージは表示されません。
Keyboard Errors	**Report**に設定されていて POST 中にエラーが検知された場合、BIOS によりエラーメッセージが表示され、<F1> を押して続行するか、または <F2> を押してセットアップユーティリティを起動するよう、プロンプトが表示されます。 **Do Not Report** に設定されていて POST 中にエラーが検知された場合、BIOS によりエラーメッセージが表示され、システムの起動が続行されます。

メモ: USB デバイスから起動するには、デバイスが起動可能である必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

一回のみの起動順序の変更

この機能を使用すると、例えば、フロッピードライブ、メモリキー、または CD-RW ドライブなどの USB デバイスからお使いのコンピュータを再起動できます。

メモ: USB フロッピードライブから起動する場合、セットアップユーティリティで **Diskette Drive**を **Off** にする必要があります(セットアップユーティリティを参照)。

1. USB デバイスから起動する場合は、USB デバイスを USB コネクタに接続します(ミニタワーコンピュータの場合は、正面図デスクトップコンピュータの場合は、正面図を参照)。

2. コンピュータの電源を入れます(または再起動します)。

3. 画面の右上角に `F2 = Setup`、`F12 = Boot Menu` と表示されたら、<F12>を押します。

   キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されてしまったら、Microsoft Windows デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして(コンピュータの電源を切るを参照)、操作をやりなおします。

4. 矢印キーを使って、**Continue** を選択します。

   使用可能な起動デバイスをすべて一覧表示した、**Boot Device Menu** が表示されます。

5. 矢印キーを使って、適切なデバイスを選択します(現在の起動のみ)。

メモ: USB デバイスから起動するには、デバイスが起動可能である必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

次回からの起動順序の変更

1. セットアップユーティリティを起動します（セットアップユーティリティの起動を参照）。
2. 左右の矢印キーを使って **Boot** メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押してメニューにアクセスします。

   メモ: 後で元に戻すこともできるように、現在の起動順序を記録します。

3. 上下の矢印キーを押して適切な **Boot Device** オプションをハイライト表示します（利用可能なオプションは **1st～4th Boot Device**です）。
4. デバイスのリスト内を移動するには、上下矢印キーを押します。
5. <Enter> を押して、適用されるとおりに、**1st**、**2nd**、**3rd**、または **4th の Boot Device** になるデバイスを選択します。

USB デバイスからの起動

メモ: USB デバイスから起動するには、デバイスが起動可能である必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

メモリキー

1. USB ポートにメモリキーを挿入して、コンピュータを再起動します。
2. 画面の右上角に `F12 = Boot Menu` と表示されたら、<F12> を押します。

   BIOS がデバイスを認識し、USB デバイスオプションを起動メニューに追加します。

3. 起動メニューから、USB デバイスの隣に表示されている番号を選択します。

   コンピュータは USB デバイスから起動します。

フロッピードライブ

1. セットアップユーティリティで、**Diskette Drive** オプションを **USB** に設定します。
2. 保存して、セットアップユーティリティを終了します。
3. USB フロッピードライブに接続し、起動フロッピーを挿入して、システムを再起動します。

ジャンパ設定

ミニタワー、デスクトップ、およびスモールフォームファクターコンピュータ

メモ: ミニタワーシステム基板が表示されていますが、ジャンパの位置はいずれのコンピュータでも同じです。

ジャンパ	設定	説明
PSWD	[ジャンパあり]	パスワード機能が有効になっています（デフォルト設定）。
	[ジャンパなし]	パスワード機能が無効になっています。
[ジャンパあり] ジャンパあり [ジャンパなし] ジャンパなし		

忘れたパスワードの消去

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

注意: この手順を行うと、システムパスワードとシステム管理者パスワードの両方が消去されます。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. スモールフォームファクターコンピュータでパスワードを消去する場合は、ハードディスクドライブを取り外してください（ドライブを参照）。
3. システム基板上の 2 ピンパスワードジャンパ（PSWD）の位置を確認し、ジャンパを取り外してパスワードをクリアします（ジャンパ設定を参照）。
4. スモールフォームファクターコンピュータでパスワードを消去した場合は、ハードディスクドライブを取り付けてください（ドライブを参照）。
5. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付けを参照）。
6. コンピュータとモニタをコンセントに接続して、電源を入れます。
7. Microsoft® Windows® デスクトップがコンピュータに表示されたら、コンピュータをシャットダウンします。（コンピュータの電源を切るを参照）。
8. モニタの電源を切って、コンセントから外します。
9. コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外し、電源ボタンを押して、システム基板の静電気を除去します。
10. コンピュータカバーを開きます（ミニタワーコンピュータの場合、コンピュータカバーの取り外しを参照、デスクトップコンピュータの場合、コンピュータカバーの取り外しを参照、およびスモールフォームファクターコンピュータの場合はコンピュータカバーの取り外しを参照）。
11. ハードディスクドライブを取り外します（ハードディスクドライブの取り外し）。
12. システム基板の 2 ピンパスワードジャンパの位置を確認し、ジャンパを取り付けてパスワード機能を再度有効にします。
13. ハードディスクドライブを取り付けます（ハードディスクドライブの取り付け）。
14. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付けを参照）。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

15. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

メモ: これで、パスワード機能は有効になります。セットアップユーティリティを実行するとき、システムパスワードオプションとシステム管理者パスワードオプションの両方が **Not Set** と表示されます。つまり、パスワード機能は有効ですが、パスワードは設定されていません（セットアップユーティリティの起動を参照）。

16. 新しいシステムパスワード、またはシステム管理者パスワードを設定します。

CMOS 設定のリセット

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

メモ: システムの電源を切らない限り、CMOS 設定は消去されません。

2. スモールフォームファクターコンピュータで CMOS 設定を消去する場合、ハードディスクドライブを取り外します（ハードディスクドライブの取り外し）。

3. 現在の CMOS 設定をリセットします。

   a. パスワードおよび CMOS ジャンパの場所を確認します。パスワード（PSWD）ジャンパと CMOS（RTC_RST）ジャンパは、システム基板上にあります（ジャンパ設定を参照）。

   b. パスワードジャンパプラグをピンから取り外します。

   c. パスワードジャンパプラグを RTC_RST ピンに取り付け、約 5 秒待ちます。

   d. ジャンパプラグを RTC_RST ピンから取り外し、パスワードピンに取り付けなおします。

4. スモールフォームファクターコンピュータで CMOS 設定を消去した場合、ハードディスクドライブを取りハードディスクドライブの取り付け を参照）。

5. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付けを参照）。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

6. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

HyperTransport™ およびデュアルコアテクノロジ

HyperTransport テクノロジは、I/O ボトルネックを除去し、システム帯域幅を増やし、システムレイテンシを減少させることで、コンピュータ性能を全体的に高めます。完全に統合化された DDR メモリコントローラにより、プロセッサとメインメモリの直接接続が可能になります。デュアルコアは、1 つのプロセッサパッケージに 2 つの物理計算ユニットを集積し、それによって計算効率とマルチタスク機能を向上させたテクノロジです。

多くのプログラムは、HyperTransport およびデュアルコアテクノロジの恩恵を受けることになりますが、これらのテクノロジ用に最適化されていないプログラムもあります。それらのプログラムは、ソフトウェア製造元によるアップデートが必要な場合があります。お使いのソフトウェアでの HyperTransport またはデュアルコアテクノロジの使用に際するアップデートやその他の情報については、ソフトウェア製造元にお問い合わせください。ご使用中のコンピュータがハイパースレッディングテクノロジに対応しているかどうかは、セットアップユーティリティの Performance タブにある Hyper-Threading で確認できます（セットアップユーティリティを参照）。

電力の管理

お使いのコンピュータは、作業しない場合に少ない電力で動作するよう設定できます。コンピュータにインストールされたオペレーティングシステムおよびセットアップユーティリティの特定のオプション設定を使って、電力使用を制御します。節電されている期間を「スリープモード」と呼びます。

メモ: スリープモードになるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントが休止状態モードまたはスタンバイモード機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細に関しては、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。

- **スタンバイ** と呼ばれるこのスリープモードでは、冷却ファンを含むほとんどのコンポーネントへの電力は低減されているか、切られています。しかし、システムメモリは活動状態にあります。
- **休止状態** と呼ばれるこのスリープモードでは、システムメモリのすべてのデータをハードディスクドライブに書き込み、次に、システム電源を切ることによって、電力消費を最小にします。このモードからウェイクアップするとコンピュータが再起動し、メモリの内容が回復されます。その後、コンピュータは休止状態モードに入る前の動作状態に戻ります。
- **シャットダウン** と呼ばれるこのスリープモードでは、補助用のわずかな量を除いてコンピュータからすべての電源を切ります。コンピュータがコンセントに接続されている限り、自動的にまたはリモートで起動することができます。たとえば、セットアップユーティリティ の **Auto Power On** オプションを使うと、コンピュータを特定の時間に自動的に起動することができます。また、ネットワーク管理者は電源管理イベント（Remote Wake Up など）を使って、コンピュータをリモートで起動することができます。

次の表に、スリープモードとそれぞれのモードから復帰させるために使用できる方法を示します。

スリープモード	ウェイクアップの方法（Windows XP）
スタンバイ	・電源ボタンを押す ・オートパワーオン ・マウスを動かすかクリックする ・キーボードで入力する ・USB デバイスアクティビティ ・電源管理イベント
休止状態	・電源ボタンを押す ・オートパワーオン ・電源管理イベント
シャットダウン	・電源ボタンを押す ・オートパワーオン ・電源管理イベント

メモ: 電源管理の詳細に関しては、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

RAID 構成について

注意: データを失わずに RAID 構成を変換するために移行オプションを使用するには、ドライブにオペレーティングシステムがロードされる前に、ハードディスクドライブが、単一ドライブの RAID 0 アレイとしてセットアップされている必要があります（手順に関してはNVIDIA MediaShield ROM ユーティリティの使い方を参照してください）。

この項では、コンピュータのご購入時に選択された可能性のある RAID 構成の概要について説明します。コンピュータ業界では異なる使用目的のために多数の RAID 構成があります。お使いの OptiPlex コンピュータの、Dell ミニタワーおよびデスクトップモデルは、RAID レベル 0 および RAID レベル 1 をサポートします（スモールフォームファクターモデルでは RAID はサポートされていません）。RAID レベル 0 構成は高性能プログラム用に、また RAID レベル 1 構成は、高度なレベルのデータ統合を必要とする場合にお勧めします。

メモ: RAID レベルは、階層を示すものではありません。RAID レベル 1 構成は、RAID レベル 0 構成より本質的に優れても劣ってもいません。

お使いのコンピュータに搭載されている NVIDIA RAID コントローラは、2 つの物理ドライブを使用する RAID レベル設定のみを構成できます。大きいほうのドライブに未割り当ての（つまり使用できない）領域が生じないようにするためには、同じサイズのドライブを使用することが必要です。

メモ: RAID 搭載のデルコンピュータを購入した場合には、同じサイズの 2 個のハードディスクドライブで構成されています。

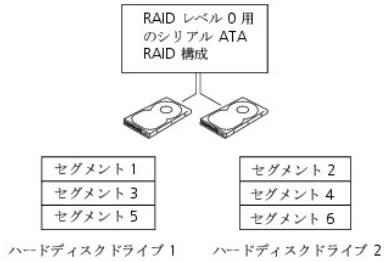
RAID の動作の検証

お使いのコンピュータは、オペレーティングシステムをロードする前の起動時に RAID 構成に関連する情報を表示します。RAID が設定されていない場合には、お使いのコンピュータに取り付けられている物理ドライブのリストに続き、**RAID Volumes**（RAID ボリューム）の下にメッセージ、`none defined`（未定義）が表示されます。RAID ボリュームが認識されている場合は、**Status**（ステータス）フィールドで、現在の RAID 構成の状況を確認することができます。**Status**（ステータス）フィールドには、次の状態についての情報があります。

- **Normal**（正常）- お使いの RAID 構成は、正しく機能しています。
- **Degraded**（低下）- お使いのハードディスクドライブの 1 つに障害があります。コンピュータは起動可能ですが、RAID は機能しておらず、データは他のドライブにコピーされません。
- **Rebuild**（再構築）- 低下状態に続き、コンピュータはセカンダリハードディスクドライブへの交換および接続を検出し、次回オペレーティングシステムがロードされるときに RAID 構成を自動的に回復します。

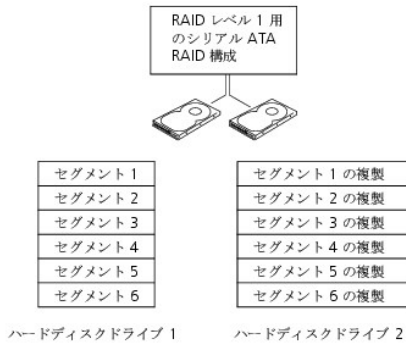
RAID レベル 0 構成

注意: RAID レベル 0 構成はデータの冗長性を提供しないので、1 つのドライブが故障した場合、すべてのデータが失われます。RAID レベル 0 構成を使用する場合は、データを保護するために定期的にバックアップを行ってください。

RAID レベル 0 構成は、データストライピングというストレージ技術を使用して、高いデータアクセス速度を提供します。データストライピングとは、連続するデータセグメント（ストライプ）を複数の物理ドライブに順次書き込むことで、大容量の仮想ドライブを作成する方法です。データストライピングにより、1 台のドライブでデータを読み込む間に、別のドライブで次のブロックの検索と読み込みができます。

RAID レベル 0 のもう 1 つの利点は、ドライブの最大ストレージ容量を利用できることです。たとえば、120 GB のハードディスクドライブが 2 台取り付けられている場合は、240 GB のハードディスクドライブ領域をデータの保存に使用することができます。

メモ: RAID レベル 0 構成では、構成のサイズは最小ドライブサイズに、その構成内のドライブの台数を掛けた値になります。

RAID レベル 1 構成

RAID レベル 1 は、データ保全性を向上するためにミラーリングと呼ばれる、データの冗長性を持たせたストレージ技術を使用します。データがプライマリドライブに書き込まれると、RAID を構成する他のドライブに複製、つまりミラーリングされます。RAID レベル 1 構成では、データの冗長性の利点を重視しているため、データアクセス速度が犠牲になります。

ドライブが故障すると、次の読み出し / 書き込み動作は、正常に動作しているドライブで行われます。正常に動作しているドライブを使って、交換用のドライブでデータを再構築することができます。

メモ: RAID レベル 1 構成のサイズは、構成内の最小ドライブのサイズと等しくなります。

お使いのハードディスクドライブを RAID に構成する

コンピュータ購入時に RAID 構成を選ばなかった場合でも、コンピュータを RAID 構成にすることができます。RAID レベルの説明とそれらの要件については、RAID 構成についてを参照してください。ハードディスクドライブの取り付け方法については、ミニタワーコンピュータの場合は ハードディスクドライブの取り付け、デスクトップコンピュータの場合は ハードディスクドライブの取り付けを参照してください。

RAID ハードディスクドライブボリュームを構成するには、2 つの手順の 1 つを使用してできます。最初の手順は、NVIDIA MediaShield ROM ユーティリティを使用し、ハードディスクドライブにオペレーティングシステムをインストールする前に実行します。二番目の手順は、NVIDIA MediaShield を使用し、オペレーティングシステムとNVIDIA RAID ドライバをインストールした後に実行します。どちらの手順でも、開始する前にお使いのコンピュータを RAID 有効モードに設定する必要があります。

コンピュータの RAID 対応モードへの設定

1. セットアップユーティリティを起動します（セットアップユーティリティの起動を参照）。
2. 上下矢印キーを押して、**Drives** をハイライト表示してから、<Enter> を押します。
3. 上下矢印キーをを押して、適用する SATA ドライブをハイライト表示して、<Enter> を押します。
4. 左右矢印キーを押して、**RAID On** をハイライト表示してから、<Enter> を押し、次に を押します。必要に応じて、この処理を各 SATA ハードディスクドライブに対して繰り返します。

   メモ: RAID オプションの詳細に関しては、セットアップオプションを参照してください。

5. <Esc> を押し、左右矢印キーを押して **Save/Exit** をハイライト表示し、<Enter> を押して、セットアップユーティリティを終了し、起動プロセスを再開します。

NVIDIA MediaShield ROM ユーティリティの使い方

注意: 次の手順ではお使いのハードディスクドライブ上の全データが消失することがあります。続行する前に、必要なデータのバックアップを作成してください。

メモ: 既存の RAID 構成を RAID レベルを移行するときには、この手順を使用しないでください。ある RAID 構成から別の RAID 構成への変換を参照してください。

RAID 構成を作るにはどのようなサイズのハードディスクドライブも使えます。ただし、理想的には未割り当てや未使用領域を作らないよう、同じサイズのドライブを使用します。RAID レベルとその要件についての説明は、RAID 構成についてを参照してください。ハードディスクドライブの取り付け方法についての情報は、ミニタワーコンピュータは ハードディスクドライブの取り付け、デスクトップコンピュータの場合は ハードディスクドライブの取り付けを参照してください。

1. お使いのコンピュータの適用可能なハードディスクドライブで RAID を有効にします（コンピュータの RAID 対応モードへの設定を参照）。

2. コンピュータを再起動します。

3. RAID BIOS の起動を求めるプロンプトが表示されたら、<Ctrl><n> を押します。

   メモ: オペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft Windows のデスクトップが表示されるまで待ち、お使いのコンピュータをシャットダウンして再度試みます。

   Define a New Array（新しいアレイの定義）ウィンドウが表示されます。

4. を押して、**RAID Mode**（RAID モード）フィールドまで移動します。

   RAID 0 構成を作成するには、矢印キーを使用して **Striping**（ストライピング）を選択します。

   RAID 1 構成を作成するには、矢印キーを使用して **Mirroring**（ミラーリング）を選択します。

5. を押して、**Free Disks**（空きディスク）フィールドに進みます。

6. 上下の矢印キーを使用して、RAID アレイに含めるハードディスクドライブを選択し、次に右矢印キーを使用して、選択したドライブを **Free Disks**（空きディスク）フィールドから **Array Disks**（アレイディスク）フィールドに移動します。RAID アレイに含める各ディスクについて、この手順を繰り返します。

   メモ: お使いのコンピュータは、RAID アレイごとに 2 台までのドライブをサポートします。

7. ハードディスクドライブをアレイに割り当てたら、<F9> を押します。

   Clear disk data（ディスクデータの消去）プロンプトが表示されます。

注意: 次の手順で、選択したドライブ上のデータがすべて消去されます。

8. 選択したドライブからすべてのデータを消去するには、<y> を押します。

   Array List（アレイの一覧）ウィンドウが表示されます。

9. セットアップしたアレイの詳細を確認するには、矢印キーを使用して **Array Detail** （アレイの詳細）ウィンドウ内のアレイをハイライト表示し、<Enter> を押します。

   Array Detail （アレイの詳細）ウィンドウが表示されます。

   メモ: アレイを削除するには、矢印キーを使用してアレイを選択し、<d> を押します。

10. <Enter> を押すと、前の画面に戻ります。

11. RAID BIOS を終了するには、<Ctrl><x> を押します。

NVIDIA MediaShield の使い方

NVIDIA MediaShield により、RAID 構成の作成、表示、および管理ができます。

メモ: 既存の（非 RAID ）単一ハードディスクドライブコンピュータに新しくハードディスクドライブを追加する場合、および RAID アレイに新しいドライブを組み入れたい場合にのみ、NVIDIA MediaShield を使用してRAID 構成を作成します。

NVIDIA MediaShield を用いて RAID 構成を作成するには、任意容量のハードディスクドライブが使用できます。ただし、理想的には未割り当てや未使用領域を作らないよう、同じサイズのドライブを使用します。RAID のレベルとその要件の説明については、RAID 構成についてを参照してください。

RAID アレイの作成

注意: 次の手順を実行すると、ハードディスクドライブのすべてのデータが失われます。続行する前に、必要なすべてのデータのバックアップを作成してください。

メモ: 既存の RAID 構成を RAID レベルを移行するときには、この手順を使用しないでください。ある RAID 構成から別の RAID 構成への変換を参照してください。

1. お使いのハードディスクドライブで RAID を有効にします（コンピュータの RAID 対応モードへの設定 を参照）。
2. お使いのコンピュータを再起動した後、NVIDIA MediaShield を始動します。
3. **System Tasks**（システムタスク）で **Create**（作成）をクリックします。

   NVIDIA Create Array Wizard（アレイ作成ウィザード）が表示され、構成に利用可能なディスクの一覧が表示されます。

4. **Next**（次へ）をクリックします。
5. **Custom**（カスタム）をクリックし、**Next**（次へ） をクリックします。
6. ドロップダウンボックスで**Striping**（ストライピング）（RAID 0）または **Mirroring**（ミラーリング）（RAID 1）を選択します。
7. **Next**（次へ）をクリックします。

   Free Disk Selection（空きディスクの選択）ウィンドウが現れます。

メモ: RAID が有効になっているハードディスクドライブだけが、空きディスクとして表示されます。

8. RAID 構成に組み込むドライブをクリックして選択し、**Next**（次へ） をクリックし、もう一度 **Next**（次へ） をクリックします。

   メモ: お使いのコンピュータは、各 RAID アレイにつき最大 2 台のドライブをサポートします。

   Clearing System Data（システムデータの消去）ウィンドウが表示されます。

注意: Clear System Data（システムデータの消去）オプションは、選択したドライブ上のデータをすべて消去します。

9. **Next**（次へ）をクリックします。
10. **Finish**（完了）をクリックし、RAID 構成を作ります。

    MediaShield RAID 管理ユーティリティウィンドウが表示され、取り付けられている他のハードディスクドライブと共にアレイが表示されます。

RAID アレイの削除

注意: この手順では RAID 1 ボリュームが削除されますが、RAID 1 ボリュームはパーティションで 2 つの 非 RAID ハードディスクドライブに分割され、既存のデータファイルはそのまま残ります。それに反して、RAID 0 ボリュームを削除した場合は、ボリューム上の全データが消滅します。

注意: お使いのコンピュータが現在 RAID で起動している場合、その RAID ボリュームを削除すると、コンピュータは起動不可能となります。

1. NVIDIA MediaShield を始動します。
2. 削除したいアレイをクリックして選択します。
3. **System Tasks**（システムタスク）ペインで **Delete Array**（アレイの削除）を選択します。

   NVIDIA Delete Array Wizard（アレイの削除ウィザード）が表示されます。

4. **Next**（次へ）をクリックします。

   削除の指定をしたアレイの名前とサイズが確認画面に表示されます。

5. **Finish**（完了） をクリックして、その RAID 構成を削除します。

   MediaShield RAID 管理ユーティリティウィンドウが表示され、インストールされている他のハードディスクドライブと共に、残りのアレイが表示されます。

ある RAID 構成から別の RAID 構成への変換

注意: データを失わずに RAID 構成を変換するために移行オプションを使用するには、ドライブにオペレーティングシステムがロードされる前に、ハードディスクドライブが、単一ドライブの RAID 0 アレイとしてセットアップされている必要があります(手順はNVIDIA MediaShield ROM ユーティリティの使い方を参照してください)。

NVIDIA MediaShield は、データを失うことなく、ディスクまたはアレイの現在の状態を変更するために、移行(migrating)という単一ステップの処理を利用します。必要な場合は、単一ドライブの RAID 0 構成を 2 ドライブの RAID 0 構成に変換することを含め、既存のアレイに追加のハードディスクドライブを加えることができますが、それによってできるアレイの容量は、元の構成サイズと同じかそれ以上でなければなりません。

移行プロセスで RAID 1 から RAID 1 への変換を行うことはできません。

注意: 移行後のアレイで使用される追加のハードディスクドライブは、現在の構成中のどのドライブよりも同じか大きくなければなりません。

メモ: RAID 構成で使用されるドライブが、すべて RAID が有効になっていることを確認してください(コンピュータの RAID 対応モードへの設定を参照)。

1. NVIDIA MediaShield を起動します。
2. 変換したいアレイをクリックして選択します。
3. **System Tasks**(システムタスク)ペインの **Convert Array**(アレイの変換)をクリックします。

   NVIDIA Convert Array Wizard(アレイの変換ウィザード)が表示されます。

4. **Next**(次へ)をクリックします。
5. **RAID Mode Selection**(RAID モードセレクション)で、ドロップダウンメニューから **Mirroring**(ミラーリング)または **Striping**(ストライピング)を選択します。
6. **Next**(次へ)をクリックします。

注意: 次の手順で、選択したドライブ上のデータがすべて消去されます。

7. **Free Disk Selection**(空きディスクの選択)で、移行後のアレイに含めたいハードディスクドライブを、それらの横にあるチェックボックスをクリックして選択します。
8. **Finish**(完了)をクリックします。

   MediaShield RAID 管理ユーティリティウィンドウが表示され、他のインストール済のハードディスクドライブと共に、アップグレードおよびマイグレーションプロセスのステータスが表示されます。

   メモ: アレイの変換に要する時間は、プロセッサのスピードや使用しているハードディスクドライブのタイプおよびサイズ、オペレーティングシステムといった複数の要因に依存します。

RAID 構成の再構築

RAID アレイ内のハードディスクドライブの 1 台に障害が発生した場合は、交換用ドライブにデータを復元することで、アレイを再構築できます。

メモ: アレイの再構築は、RAID 1 構成でのみ実行できます。

1. NVIDIA MediaShield を始動します。
2. 管理ユーティリティウィンドウで、お使いの RAID 構成(**Mirroring**(ミラーリング))をクリックして選択します。
3. **System Tasks**(システムタスク)ペインで **Rebuild Array**(アレイの再構築)を選択します。

   NVIDIA Rebuild Array Wizard(アレイリビルドウィザード)が表示されます。

4. **Next**(次へ)をクリックします。
5. 横のチェックボックスをクリックして、再構築するハードディスクドライブを選択します。
6. **Next**(次へ)をクリックします。
7. **Finish**(完了)をクリックします。

   MediaShield RAID 管理ユーティリティウィンドウが表示され、再構築プロセスの状態を表示します。

メモ: コンピュータはアレイを再構築している場合でも使用できます。

メモ: アレイの再構築には、利用可能な(RAID 対応モードの)空きディスクをどれでも使用できます。

Cool 'n' Quiet™ テクノロジの有効化

Cool 'n' Quiet テクノロジは、その場のタスクに応じて動作周波数および電圧を動的に調節しながら、コンピュータのプロセッサ性能を自動的に制御します。アプリケーションで全性能を必要としない場合は、大幅な節電が可能です。必要に応じて最大限のプロセッサ性能を提供し、可能な場合は自動的に節電する、反応のよい性能設計になっています。

1. **電源オプションのプロパティ** ウィンドウにアクセスするには、**スタート**→ **設定**→ **コントロールパネル** → **電源オプション** とクリックします。
2. **電源設定** タブの電源設定ドロップダウンメニューをクリックし、**最小限の電力の管理** を選択して、**OK** をクリックします。

   Cool 'n' Quiet テクノロジは、これで有効になります。

目次に戻る

目次に戻る

バッテリ

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- バッテリの取り付け

バッテリの取り付け

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

コイン型バッテリは、コンピュータの設定、日付、時間の情報を保持します。バッテリの寿命は数年間です。

起動ルーチン中に日付や時刻が間違っていて、次のメッセージが表示される場合、バッテリを交換する必要があります。

`Time-of-day not set - please run SETUP program`（日時が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください。）

または

`Invalid configuration information -`
`please run SETUP program`（無効な設定情報 – セットアップユーティリティを実行してください。）

または

`Strike the F1 key to continue, F2 to run the setup utility`
（続けるには F1 キーを、セットアップユーティリティを起動するには F2 キーを押してください。）

バッテリの交換が必要かどうか確認するには、セットアップユーティリティで日付と時刻を再入力し、プログラムを終了してその情報を保存します。コンピュータの電源を切り、コンセントから 2～3 時間外しておきます。次に、コンピュータをコンセントに接続しなおし、電源を入れてセットアップユーティリティを起動します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。セットアップユーティリティに表示される日付と時刻が間違っている場合、バッテリを交換します。

バッテリがなくてもコンピュータは動作しますが、電源をオフにしたり、コンセントから電源プラグを抜いた場合、コンピュータ設定情報は消去されます。その場合、セットアップユーティリティを起動して、設定オプションを再設定する必要があります。

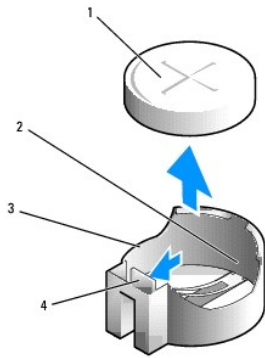
警告: 新しいバッテリを取り付ける場合、正しく取り付けてください。破裂する場合があります。 交換するバッテリは、デルが推奨する型、または同等の製品をご利用ください。 使用済みのバッテリは、製造元の指示に従って廃棄してください。

バッテリを取り外すには次の手順を実行します。

1. セットアップユーティリティの設定情報をまだ記録していない場合は、ここで記録しておきます（セットアップユーティリティ を参照）。
2. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
3. スモールフォームファクターシャーシをお持ちの場合、ハードディスクドライブを取り外してシステム基板のバッテリにアクセスできるようにします（ハードディスクドライブの取り外し を参照）。
4. バッテリソケットの場所を確認します（ミニタワーコンピュータの場合は システム基板コンポーネント を参照、デスクトップコンピューの場合は システム基板コンポーネント を参照、スモールフォームファクターコンピュータの場合はシステム基板コンポーネント を参照）。

注意: 道具（先端の鋭くないもの）を使用して、バッテリをソケットから取り出す場合は、道具がシステム基板に触れないよう注意してください。必ず、バッテリとソケットの間に道具を確実に挿入してから、バッテリを外します。 それを怠ると、バッテリソケットが外れたり、システム基板の回路を切断するなど、システム基板に損傷を与える恐れがあります。

注意: バッテリコネクタへの損傷を防ぐために、バッテリを取り外す際はコネクタをしっかりと支えておく必要があります。

5. システムバッテリを取り外します。
   a. コネクタのプラス側をしっかり押さえ込んで、バッテリコネクタを支えます。
   b. バッテリコネクタを支えたまま、バッテリタブを押してコネクタのプラス側から離し、バッテリをコネクタのマイナス側にある固定タブから持ち上げて取り外します。

1	システムバッテリ	2	バッテリコネクタのプラス側	3	バッテリソケット
4	バッテリソケットタブ				

注 意: バッテリコネクタへの損傷を防ぐために、バッテリを取り付ける際はコネクタをしっかりと支えておく必要があります。

6. 新しいシステムバッテリを取り付けます。
   a. コネクタのプラス側をしっかり押さえ込んで、バッテリコネクタを支えます。
   b. バッテリの「＋」側を上に向け、コネクタのプラス側にある固定タブの下にスライドさせます。
   c. バッテリがカチッと所定の位置に収まるまで、コネクタをまっすぐに押し下げます。
7. スモールフォームファクターシャーシをお持ちの場合は、ハードディスクドライブを取り付けます（ハードディスクドライブの取り付け ）。
8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。
9. セットアップユーティリティを起動し、手順 1で記録しておいた設定に戻します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。
10. 『製品情報ガイド』で説明してあるように、古いバッテリを適切に廃棄します。

目次に戻る

目次に戻る

作業を開始する前に

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- 奨励するツール
- コンピュータの電源を切る
- コンピュータ内部の作業を始める前に

本章では、コンピュータのコンポーネントの取り付けおよび取り外しの手順について説明します。特に指示がない限り、それぞれの手順では以下の条件を満たしていることを前提とします。

- コンピュータの電源を切るとコンピュータ内部の作業を始める前にの手順をすでに完了していること。
- Dell™『製品情報ガイド』の安全に関する情報をすでに読んでいること。
- 取り外しの手順と逆の手順を行うことで部品の取り付けが可能であること。

奨励するツール

このドキュメントで説明する操作には、以下のようなツールが必要な場合があります。

- 細めのマイナスドライバ
- プラスドライバ
- フラッシュ BIOS アップデートプログラムのフロッピーディスク、CD、USB キー

コンピュータの電源を切る

注意: データの損失を避けるため、コンピュータの電源を切る前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

1. オペレーティングシステムをシャットダウンします。
   a. 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
   b. **スタート** ボタンをクリックして、**終了オプション** をクリックします。
   c. **コンピュータの電源を切る** ウィンドウで、**電源を切る** を選択して **OK** をクリックします。

   オペレーティングシステムのシャットダウンプロセスが終了した後に、コンピュータの電源が切れます。

2. コンピュータと取り付けられているすべてのデバイスの電源が切れているか確認します。

   オペレーティングシステムをシャットダウンした際に、コンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

   注意: オペレーティングシステムをシャットダウンせずにコンピュータの電源を切ると、データが失われる場合があるのでお勧めしません。ただし、必要な場合には、電源ボタンを 6 秒間押すことで、シャットダウンせずに電源を切ることができます。

コンピュータ内部の作業を始める前に

コンピュータの損傷を防ぎ、ご自身の身体の安全を守るために、以下の点にご注意ください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 部品やカードの取り扱いには十分注意してください。カード上の部品や接続部分には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケットの部分を持ってください。プロセッサのようなコンポーネントは、ピンの部分ではなく端を持つようにしてください。

注意: コンピュータシステムの修理は、資格を持っているサービス技術者のみが行ってください。デルが許可していない修理による損傷は、保証できません。

注意: ケーブルを外すときは、コネクタまたはストレインリリーフループの部分を持ち、ケーブル自身を引っ張らないでください。ケーブルによってはコネクタにロックタブが付いていることがあります。このタイプのケーブルを外す場合は、ロックタブを押し込んでからケーブルを抜いてください。コネクタを抜く際には、コネクタピンを曲げないように、まっすぐ引き抜いてください。また、ケーブルを接続する際は、両方のコネクタの向きが合っていることを確認してください。

注意: コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行します。

1. コンピュータの電源を切ります。

注意: ネットワークケーブルを外すには、まずネットワークケーブルをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

2. コンピュータからすべての電話線または通信回線を取り外します。

3. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を除去します。

4. コンピュータスタンドが取り付けられている場合は、コンピュータスタンドを取り外します（手順については、コンピュータスタンド付属のマニュアルを参照してください）。

警告: 感電防止のため、カバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

5. コンピュータカバーを取り外します。

   - ミニタワーコンピュータカバーを取り外します（コンピュータカバーの取り外しを参照）。
   - デスクトップコンピュータカバーを取り外します（コンピュータカバーの取り外し を参照）。
   - スモールフォームファクターコンピュータカバーを取り外します（コンピュータカバーの取り外し を参照）。

注意: コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

目次に戻る

[目次に戻る]

コンピュータのクリーニング

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- コンピュータ、キーボード、およびモニタ
- マウス
- フロッピードライブ
- CD および DVD

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

コンピュータ、キーボード、およびモニタ

警告: コンピュータをクリーニングする前に、コンピュータの電源ケーブルをコンセントから抜きます。コンピュータのクリーニングには、水で湿らせた柔らかい布をお使いください。液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。可燃性物質を含んでいる場合があります。

- キーボードのキーの間のほこりをクリーニングするには、圧縮空気の缶スプレーを使用します。

注意: 反射防止コーティングがはがれるのを防ぐため、ディスプレイを石鹸やアルコールで拭かないでください。

- モニタ画面をクリーニングするには、水で軽く湿らした柔らかくて清潔な布を使います。画面クリーニング専用ティッシュまたはモニタの帯電防止コーティング用に適した溶液も使用できます。
- キーボード、コンピュータ、およびモニタのプラスチック部分は、水と中性液体洗剤を 3 対 1 の割合で混ぜ合わせた溶液で湿らした柔らかで清潔な布を使って拭きます。

  この溶液に布を浸さないでください。また、コンピュータやキーボードの内部に溶液が入らないようにしてください。

マウス

注意: クリーニングの前に、マウスをコンピュータから外します。

画面のカーソルが飛んだり、異常な動きをする場合、マウスをクリーニングします。

非光学式マウスのクリーニング

1. 低刺激性の清浄液で湿らせた布でマウスの外側のケースを拭きます。
2. マウスの底の固定リングを反時計回りに回し、次にボールを取り出します。
3. 清潔で糸くずのでない布でボールを拭きます。
4. ボールケージの中に慎重に風を送るか、または圧縮空気を使用し、ほこりやくずを取り除きます。
5. ボールケージの中にあるローラーが汚れている場合、消毒用アルコール（イソプロピルアルコール）を軽く浸した綿棒を使って、ローラーの汚れを拭き取ります。
6. ローラーが溝からずれてしまった場合、中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
7. ボールと固定リングをマウスに取り付けて、固定リングを時計回りに回して元の位置にはめ込みます。

光学式マウスのクリーニング

低刺激性の清浄液で湿らせた布でマウスの外側のケースを拭きます。

フロッピードライブ

注意: 綿棒でドライブヘッドを拭かないでください。ヘッドの位置がずれてドライブが動作しなくなることがあります。

市販のクリーニングキットでフロッピードライブをクリーニングします。これらのキットには、通常の使用時にドライブヘッドに付いた汚れを落とすように前処理されたフロッピーディスクが入っています。

CD および DVD

注意: 光学ドライブのレンズの手入れには、必ず圧縮空気を使用して、圧縮空気に付属しているマニュアルに従ってください。ドライブのレンズには絶対に触れないでください。

CD や DVD がスキップしたり、音質や画質が低下したりする場合、ディスクを掃除します。

1. ディスクの外側の縁を持ちます。中心の穴の縁にも触ることができます。

注意: 円を描くようにディスクを拭くと、ディスク表面に傷を付ける恐れがあります。

2. 糸くずの出ない柔らかな布で、ディスクの裏面（ラベルのない面）をディスクの中心から外側に向けて丁寧にまっすぐ拭きます。

   頑固な汚れは、水、または水と刺激性の少ない石鹸の希釈溶液で試してください。ディスクの汚れを落とし、ほこりや指紋、ひっかき傷などからディスクを保護する市販のディスククリーナーもあります。CD 用のクリーナーは DVD にも使用できます。

目次に戻る

[目次に戻る]

デスクトップコンピュータ

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- お使いのデスクトップコンピュータについて
- コンピュータ内部

お使いのデスクトップコンピュータについて

正面図

1	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスからの起動については、セットアップユーティリティを参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
2	LAN インジケータライト	このライトは、ローカルエリアネットワーク（LAN）接続が確立されていることを示します。
3	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意:** データの損失を防ぐため、電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。詳細に関しては、コンピュータの電源を切る を参照してください。 **注意:** お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
4	デルバッジ	このバッジを回転させて、コンピュータの方向に合わせることができます。バッジを回転させるには、バッジの外回りに指を置き、しっかり押してバッジを回します。バッジの下側近くにあるスロットを使って回転させることもできます。
5	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで以下のさまざまな動作状態を示します。 l 消灯 - コンピュータの電源は切れています。 l 緑色の点灯 - コンピュータは、通常の動作状態です。 l 緑色の点滅 - コンピュータは、省電力モードです。 l 橙色の点滅または点灯 - 電源の問題 を参照してください。 省電力モードから復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスが設定されている場合、キーボードかマウスを使います。スリープモードおよび省電力モードからの復帰の詳細については、電力の管理 を参照してください。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、システムライトを参照してください。
6	診断ライト	診断ライトは、診断コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細は、診断ライトを参照してください。
7	ハードディスクドライブ動作ライト	ハードディスクドライブがアクセスされているときに、このライトが点滅します。
8	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカを取り付けることができます。
9	マイク用コネクタ	マイクのコネクタを使ってマイクを取り付けます。

10	フロッピードライブ	フロッピーディスクをドライブに入れます。
11	光学ドライブ	サポートされている場合は、メディアをこのドライブに入れます。

背面図

1	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。
2	背面パネルコネクタ	シリアルデバイスや USB デバイスなどを、正しいコネクタに接続します（背面パネルコネクタ を参照）。
3	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
4	電圧切り替えスイッチ	お使いのコンピュータには、手動電圧切り替えスイッチが付いています。 手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、スイッチはお使いになる地域の AC 電源に最も合った電圧に設定してください。 **注意:** 日本の AC 電源は 100 V ですが、電圧設定スイッチは 115 V の位置に設定してください。 また、モニタやコンピュータに接続している周辺機器もお使いになる地域の AC 電源で動作するように設定してください。
5	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
6	カバーリリースラッチ	コンピュータカバーを開くことができます。

背面パネルコネクタ

1	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ:** パラレルコネクタを持つカードが内蔵パラレルコネクタと同じアドレスに設定されていることをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細は、セットアップオプション を参照してください。
2	リンク保全ライト	• 緑色 - 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 橙色- 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • 黄色 - 1 Gbps（または 1000 Mbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。

		l オフ - コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ:** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用して、ネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
4	ネットワーク動作ライト	黄色のライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している時に点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタを使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン入力コネクタ	ライン入力コネクタにカセットプレーヤー、CDプレーヤー、または VCR(ビデオカセットレコーダー)などの録音 / 再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	USB 2.0 コネクタ（5）	プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。
8	ビデオコネクタ	VGA 互換モニタからのケーブルを青色のコネクタに差し込みます。 **メモ:** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。キャップは取り外さないでください。お使いのモニタをグラフィックスカードのコネクタに接続します。 **メモ:** デュアルモニタをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
9	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 **メモ:** オプションの PS2/シリアルアダプタを使用している場合は、シリアルコネクタ 2 しかありません。 詳細は、セットアップオプション を参照してください。

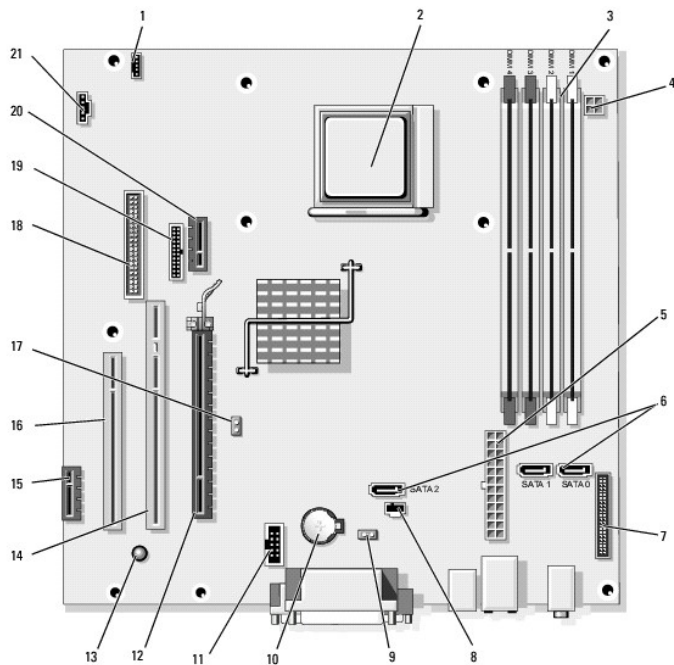
コンピュータ内部

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータカバーを開く際に、ケーブルをシステム基板から外してしまうことがないよう注意してください。

1	ドライブリリースラッチ	2	光学ドライブ	3	電源装置
4	シャーシイントルージョンスイッチ（オプション）	5	システム基板	6	カードスロット
7	ヒートシンクアセンブリ	8	前面 I/O パネル		

システム基板コンポーネント

1	スピーカコネクタ（INT_SPKR）	2	プロセッサソケット（CPU）	3	メモリモジュールコネクタ（DIMM_1、DIMM_2、DIMM_3、DIMM_4）
4	電源コネクタ（PW_12V_A1）	5	電源コネクタ（POWER1）	6	SATA ドライブコネクタ（SATA0、SATA1、SATA2）
7	前面パネルコネクタ（FRONTPANEL）	8	イントルージョンスイッチコネクタ（INTRUDER）	9	CMOS リセットジャンパ（RTCRST）
10	バッテリソケット（BATTERY）	11	内蔵 USB（USB1）	12	PCI Express x16 コネクタ（SLOT1）
13	スタンバイ（AUX_PWR_LED）	14	PCI コネクタ（SLOT2）	15	PCI Express x1 コネクタ（SLOT4）
16	PCI コネクタ（SLOT3）	17	パスワードジャンパ（PSWD）	18	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

19	シリアルコネクタ（PS2/SER2）	20	オプションの DVI カードコネクタ（DVI_HDR）	21	ファンコネクタ（FAN_CPU）

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ 740 ユーザーズガイド

デスクトップコンピュータ

お使いのコンピュータについて
情報の検索方法
デスクトップコンピュータ
デスクトップコンピュータ（モデル ＃ DCNE）仕様
アドバンス機能
コンピュータのクリーニング
ドライバとオペレーティングシステムの 再インストール
問題の解決
MicrosoftR WindowsR XP および Windows VistaR の特徴
トラブルシューティングツールと ユーティリティ
困ったときは
保証について
FCC 規制モデル（米国のみ）
用語集

部品の取り外しと取り付け
作業を開始する前に
コンピュータカバーの取り外し
シャーシイントルージョンスイッチ
I/O パネル
ドライブ
PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ
電源装置
プロセッサ
バッテリー
システム基板の交換
メモリ
コンピュータカバーの取り付け

メモ、注意、警告

メモ: コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

モデル DCNE, DCSM および DCCY

2007 年 11 月　　P/N RP699　　Rev. A02

目次に戻る

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ

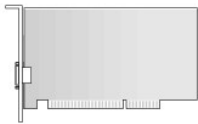
PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

お使いの Dell™ コンピュータは PS/2 シリアルポートアダプタをサポートしており、次の PCI カードおよび PCI Express カード用のコネクタを備えています。

- ロープロファイル PCI カードスロットを 2 つ
- ロープロファイル PCI Express x16 カードスロットを 1 つ

メモ: お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

PCI カード

PCI カードの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

メモ: PCI カードの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、開口位置でカチッと収まるまで回してください。

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に手順 5 に進みます。

4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合は、既存のカードを取り外します（PCI カードの取り外し を参照）。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。次に手順 6に進みます。

5. カードを取り付ける準備をします。

メモ: カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

1	リリースタブ	2	カード固定ラッチ	3	カード
4	カードエッジコネクタ	5	カードコネクタ		

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

6. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	完全に装着されたカード	2	完全に装着されていないカード	3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット				

7. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

8. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

9. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

メモ: カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

10. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのライン入力コネクタに接続しないでください（背面パネルコネクタ を参照）。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。
    b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。

12. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

メモ: PCI カードの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、開口位置でカチッと収まるまで回してください。

3. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

4. カードの上端の角をつかみ、コネクタからそっと引き抜きます。

1	リリースタブ	2	カード固定ラッチ	3	カード
4	カードエッジコネクタ	5	カードコネクタ		

5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

6. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。
    - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
    - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

7. 所定の位置にカチッと収まるまでカード固定ラッチを閉じて、残りのカードを固定します。

8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

9. カードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

10. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

b. 外付けオーディオデバイスをコンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. ネットワークアダプタカードコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続します。

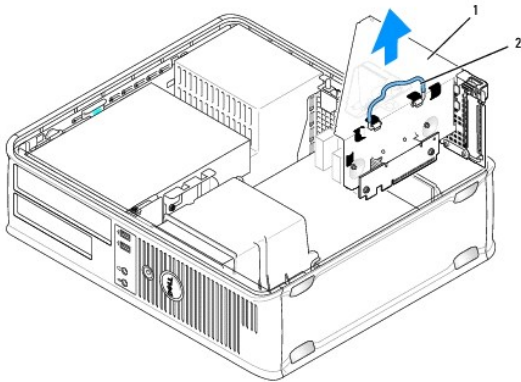
PCI カードのライザーカードケージへの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. 該当する場合は、システム基板の PCI3 コネクタに取り付けられているカードを取り外します（PCI カードの取り外し を参照）。

3. ライザーカードケージを取り外すには、次の手順を実行します。

a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。コンピュータから取り外すと、短くてライザーカードケージに届かなくなるケーブルをすべて外します。

b. ライザーカードケージのハンドルを回し上げて、慎重に引っ張り、ライザーカードケージを持ち上げてコンピュータから取り出します。

1	ライザーカードケージ	2	ハンドル

4. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を作ります。

5. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。

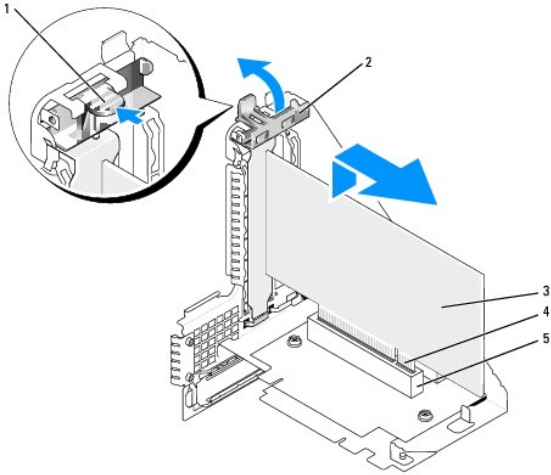
6. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

7. カードの角を持って、コネクタからそっと取り外します。

メモ: カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

8. 新しいカードを取り付ける準備をします。

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

9. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、開口位置でカチッと収まるまで回してください。

1	リリースタブ	2	カード固定ラッチ	3	カード
4	カードエッジコネクタ	5	カードコネクタ		

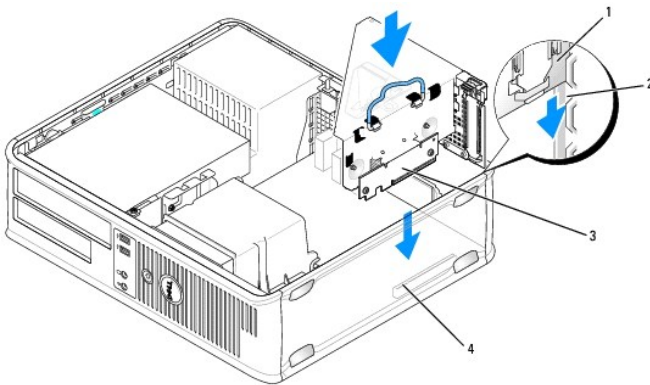
10. カードをライザーカードケージのカードコネクタにしっかりと挿入します。

11. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

12. ライザーカードケージを取り付けるには、次の手順を実行します。

    a. ライザーカードケージ側面のタブをコンピュータ側面のスロットに合わせ、ライザーカードケージを所定の位置へ押し下げます。

    b. ライザーカードコネクタがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

    c. ライザーカードケージのハンドルを回して降ろします。

1	ライザーカードケージ	2	スロット	3	ライザーカード（2）
4	システム基板コネクタ（2）				

13. 手順 3 で取り外したすべてのケーブルを接続します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

14. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

15. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

16. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのライン入力コネクタに接続しないでください（背面パネルコネクタ を参照）。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

17. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**オンボードデバイス** グループから **内蔵 NIC** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。

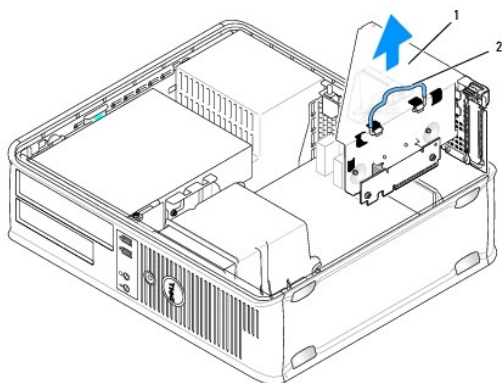
18. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードのライザーカードケージからの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. ライザーカードケージを取り外すには、次の手順を実行します。

   a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。コンピュータから取り外すと、短くてライザーカードケージに届かなくなるケーブルをすべて外します。

   b. ライザーカードケージのハンドルを回し上げて、慎重に引っ張り、ライザーカードケージを持ち上げてコンピュータから取り出します。

1	ライザーカードケージ	2	ハンドル

3. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、開口位置でカチッと収まるまで回してください。

4. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

5. カードの上端の角をつかみ、コネクタからそっと引き抜きます。

6. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

7. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。

   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

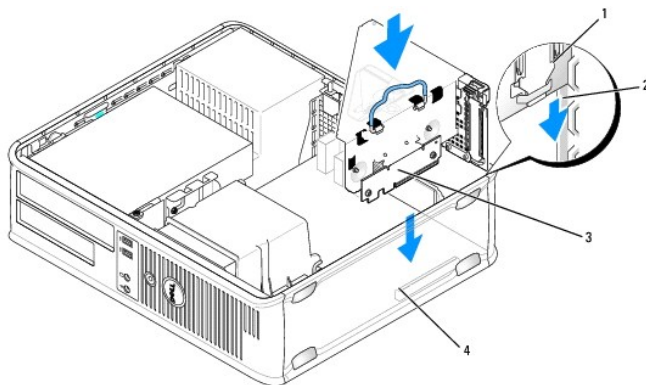
注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

8. 所定の位置にカチッと収まるまでカード固定ラッチを閉じて、残りのカードを固定します。

9. ライザーカードケージを取り付けるには、次の手順を実行します。

   a. ライザーカードケージ側面のタブをコンピュータ側面のスロットに合わせ、ライザーカードケージを所定の位置へ押し下げます。

   b. ライザーカードコネクタがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

   c. ライザーカードケージのハンドルを回して降ろします。

1	ライザーカードケージ	2	スロット	3	ライザーカード（2）
4	システム基板コネクタ（2）				

10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

11. カードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

12. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. 外付けオーディオデバイスをコンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. ネットワークアダプタカードコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続します。

PCI Express および DVI カード

お使いのコンピュータは、ロープロファイル PCI Express x16 カード 1 枚をサポートしています。お使いのコンピュータにライザーカードケージが搭載されている場合、ライザーカードケージによってシステム基板上の DVI カード（DVI_HDR）コネクタはブロックされるので、PCI Express DVI カードを取り付けることはできません。

別のタイプの PCI Express カードを取り付ける場合は、オペレーティングシステムからカード用の現在のドライバを削除します。詳細については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

PCI Express x16 カードまたは DVI カードの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

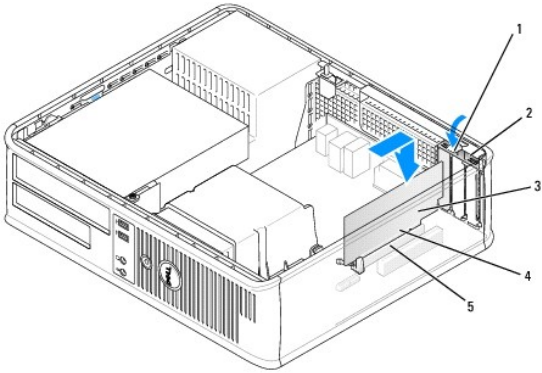
メモ: PCI カードの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。

3. 新しい PCI Express x16 カードまたは DVI カードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に、手順 5 に進みます。

4. PCI Express x16 カードまたは DVI カードを取り付ける場合は、既存のカードを取り外します（PCI Express x16 カードまたは DVI カードの取り外し を参照）。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。次に手順 6 に進みます。

5. カードを取り付ける準備をします。

メモ: カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

1	リリースタブ	2	カード固定ラッチ	3	カード
4	カードエッジコネクタ	5	カードコネクタ		

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

6. カードをコネクタに置き、しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	PCI Express x16 または DVI カード	2	PCI Express x16 カードコネクタ

1	PCI Express x16 カード	2	DVI カードコネクタ	3	PCI Express x16 カードコネクタ

1	完全に装着されたカード	2	完全に装着されていないカード	3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット				

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

7. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

8. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。

   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

9. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

メモ: カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

11. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのライン入力コネクタに接続しないでください（背面パネルコネクタ を参照）。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

12. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。
b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。

13. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express x16 カードまたは DVI カードの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、開口位置でカチッと収まるまで回してください。

3. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

4. カードクリップタブが解除されるまで、親指を使ってカードクリップレバーを押します。

   PCI Express x16 カードを取り外す場合は、手順 5 に進みます。

   DVI カードを取り外す場合は、手順 6 に進みます。

5. レバーを押しながらカードを引き上げて、カードコネクタから引き抜きます。

1	PCI Express x16 カード	2	レバー	3	固定スロット（すべてのカードに付いているわけではありません）
4	固定タブ	5	PCI Express x16 カードコネクタ		

6. レバーを押しながら、取り外し用プルタブを引き上げ、カードコネクタからカードを取り外します。

1	PCI Express x16 DVI カード	2	取り外し用プルタブ	3	DVI カードコネクタ
4	レバー	5	固定スロット	6	固定タブ
7	PCI Express x16 カードコネクタ				

7. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

8. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。
   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

9. 所定の位置にカチッと収まるまでカード固定ラッチを閉じて、残りのカードを固定します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

メモ: カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

11. カードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

12. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。
    b. 外付けオーディオデバイスをコンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

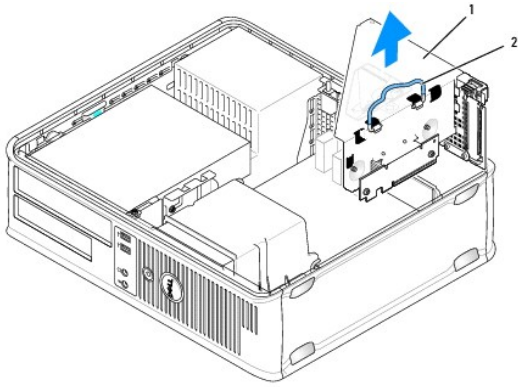
注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. ネットワークアダプタカードを取り外した場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティを参照）。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続します。

PCI Express カードのライザーカードケージへの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. 該当する場合は、システム基板の PCI3 コネクタに取り付けられているカードを取り外します（PCI カードの取り外し を参照）。

3. ライザーカードケージを取り外すには、次の手順を実行します。
   a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。コンピュータから取り外すと、短くてライザーカードケージに届かなくなるケーブルをすべて外します。
   b. ライザーカードケージのハンドルを回し上げて慎重に引っ張り、ライザーカードケージをコンピュータから取り出します。

1	ライザーカードケージ	2	ハンドル

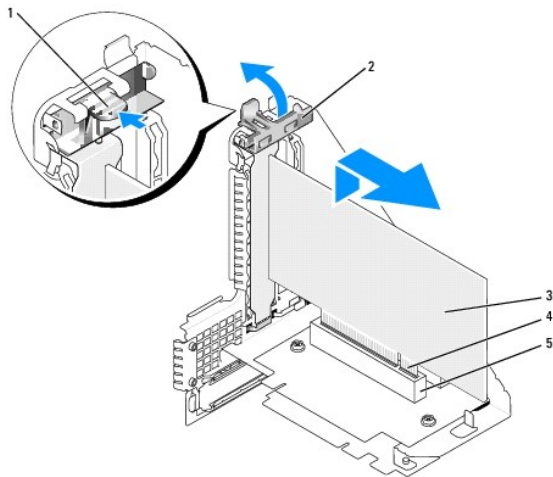
4. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を作ります。

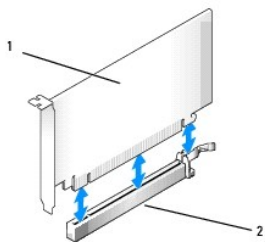
   コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。カードの角を持って、コネクタからそっと取り外します。

メモ: カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

5. 新しいカードを取り付ける準備をします。

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

6. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、開口位置でカチッと収まるまで回してください。

1	リリースタブ	2	カード固定ラッチ	3	カード
4	カードエッジコネクタ	5	カードコネクタ		

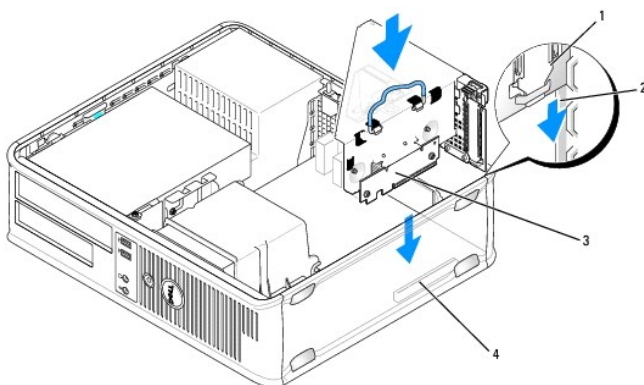
7. カードをライザーカードケージのカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	PCI Express x16 カード	2	PCI Express x16 カードコネクタ

8. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

9. ライザーカードケージを取り付けるには、次の手順を実行します。

   a. ライザーカードケージ側面のタブをコンピュータ側面のスロットに合わせ、ライザーカードケージを所定の位置へ押し下げます。

   b. ライザーカードコネクタがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

   c. ライザーカードケージのハンドルを回して降ろします。

1	ライザーカードケージ	2	スロット	3	ライザーカード(2)
4	システム基板コネクタ(2)				

注意: カードケーブルをカードの上に配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

10. 手順 3 で取り外したすべてのケーブルを接続します。

11. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

12. コンピュータカバーを取り付けます(コンピュータカバーの取り付け を参照)。

13. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **Off** に変更します(セットアップユーティリティ を参照)。

   b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのライン入力コネクタに接続しないでください(背面パネルコネクタ を参照)。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

14. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices**グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **Off** に変更します(セットアップユーティリティ を参照)。

   b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。

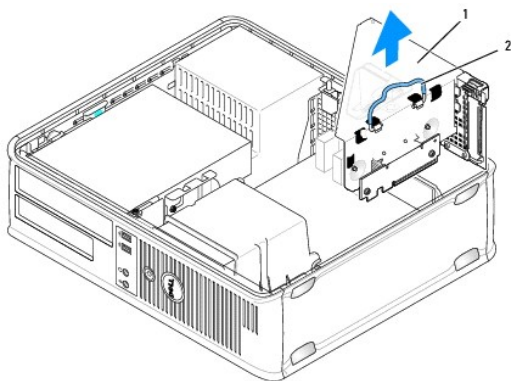
15. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express カードのライザーカードケージからの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. ライザーカードケージを取り外すには、次の手順を実行します。

    a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。コンピュータから取り外すと、短くてライザーカードケージに届かなくなるケーブルをすべて外します。

    b. ライザーカードケージのハンドルを回し上げて、慎重に引っ張り、ライザーカードケージを持ち上げてコンピュータから取り出します。

1	ライザーカードケージ	2	ハンドル

3. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、開口位置でカチッと収まるまで回してください。

4. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

5. カードクリップタブが解除されるまで、親指を使ってカードクリップレバーを押します。

6. レバーを押しながらカードを引き上げて、カードコネクタから引き抜きます。

1	PCI Express x16 カード	2	レバー	3	固定スロット（すべてのカードに付いているわけではありません）
4	固定タブ	5	PCI Express x16 カードコネクタ		

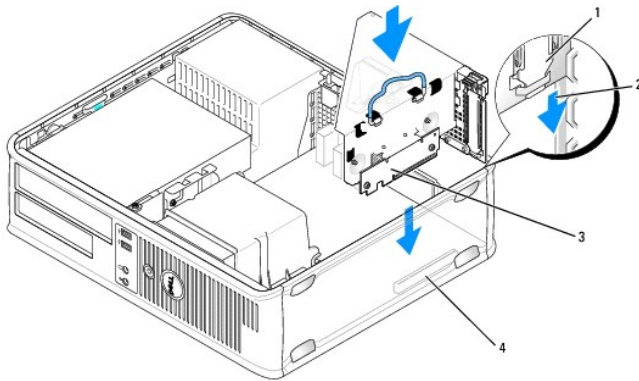
7. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

8. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。
   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

9. 所定の位置にカチッと収まるまでカード固定ラッチを閉じて、残りのカードを固定します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

10. ライザーカードケージを取り付けるには、次の手順を実行します。
   a. ライザーカードケージ側面のタブをコンピュータ側面のスロットに合わせ、ライザーカードケージを所定の位置へ押し下げます。
   b. ライザーカードコネクタがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。
   c. ライザーカードケージのハンドルを回して降ろします。

1	ライザーカードケージ	2	スロット	3	ライザーカード（2）
4	システム基板コネクタ（2）				

11. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

12. カードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

13. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。
   b. 外付けオーディオデバイスをコンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

14. ネットワークアダプタカードコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。
   b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続します。

PS/2 シリアルポートアダプタ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

PS/2 シリアルポートアダプタの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、開口位置でカチッと収まるまで回してください。

3. フィラーブラケットが取り付けられている場合は、取り外します。

メモ: コンピュータに合わせたアダプタの設定、内部の接続、またはカスタマイズの情報については、アダプタに付属のマニュアルを参照してください。

4. PS/2 シリアルポートアダプタブラケットを固定スロットに揃えて、しっかりと押し込みます。アダプタがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

5. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。
   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

6. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

1	リリースタブ	2	アダプタ保持ラッチ	3	シリアルポートアダプタブラケット
4	シリアルポートアダプタコネクタ	5	シリアルポートアダプタシステム基板コネクタ（PS2/SER2）		

7. システム基板の PS/2 シリアルポートアダプタコネクタ（PS2/SER2）にアダプタケーブルを接続します（システム基板コンポーネント を参照）。

メモ: ケーブル接続については、PS/2 シリアルポートアダプタに付属のマニュアルを参照してください。

8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

PS/2 シリアルポートアダプタの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、開口位置でカチッと収まるまで回してください。

3. システム基板から PS/2 シリアルポートケーブルを外します（システム基板コンポーネント を参照）。

4. PS/2 シリアルポートアダプタブラケットの上端の角をつかみ、コネクタからそっと取り外します。

5. アダプタを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

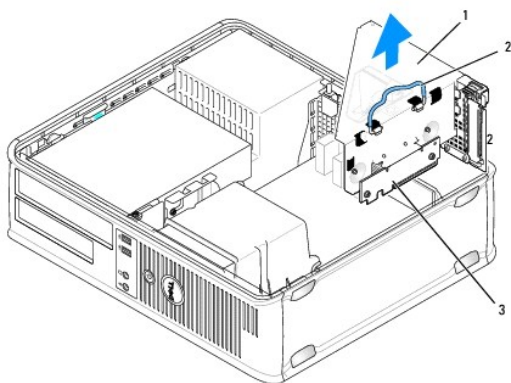
6. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。
   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

7. 所定の位置にカチッと収まるまでカード固定ラッチを閉じて、残りのカードを固定します。

8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

シリアルポートアダプタのライザーカードケージへの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. ライザーカードケージを取り外すには、次の手順を実行します。
   a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。コンピュータから取り外すと、短くてライザーカードケージに届かなくなるケーブルをすべて外します。
   b. ライザーカードケージのハンドルを回し上げて、慎重に引っ張り、ライザーカードケージを持ち上げてコンピュータから取り出します。

1	ライザーカードケージ	2	ハンドル	3	ライザーカード（2）

3. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、開口位置でカチッと収まるまで回してください。

4. 新しいシリアルポートアダプタを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。

5. コンピュータに取り付けられているアダプタを交換する場合は、アダプタを取り外します。

6. アダプタに接続されているケーブルがあれば外します。

7. シリアルポートアダプタの上端の角をつかみ、コネクタからそっと取り外します。

8. シリアルポートアダプタを取り付ける準備をします。

警告: 感電を防ぐため、カードまたはアダプタを装着する前にコンピュータの電源プラグをコンセントから必ず抜いておいてください。

9. PS/2 シリアルポートアダプタブラケットを固定スロットに揃えて、しっかりと押し込みます。アダプタがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

10. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。

- すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
- カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

11. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

12. システム基板の PS/2 シリアルポートアダプタコネクタ（PS2/SER2）にアダプタケーブルを接続します（システム基板コンポーネント を参照）。

13. ライザーカードケージを取り付けるには、次の手順を実行します。

a. ライザーカードケージ側面のタブをコンピュータ側面のスロットに合わせ、ライザーカードケージを所定の位置へ押し下げます。

b. ライザーカードコネクタがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

c. ライザーカードケージのハンドルを回して降ろします。

14. 取り外したケーブルをすべて接続します。

15. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

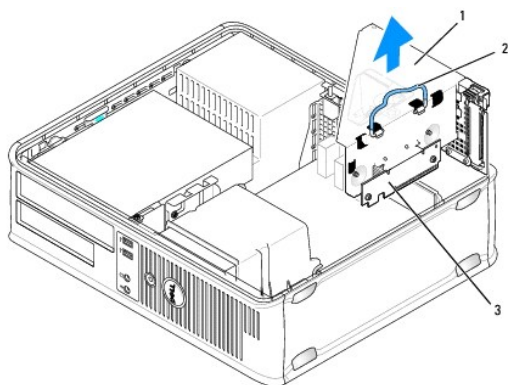
16. シリアルポートアダプタに必要なドライバをインストールします。

シリアルポートアダプタのライザーカードケージからの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. ライザーカードケージを取り外すには、次の手順を実行します。

a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。コンピュータから取り外すと、短くてライザーカードケージに届かなくなるケーブルをすべて外します。

b. ライザーカードケージのハンドルを回し上げて、慎重に引っ張り、ライザーカードケージを持ち上げてコンピュータから取り出します。

1	ライザーカードケージ	2	ハンドル	3	ライザーカード（2）

3. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、開口位置でカチッと収まるまで回してください。

4. システム基板から PS/2 シリアルポートケーブルを外します（システム基板コンポーネント を参照）。

5. PS/2 シリアルポートアダプタブラケットの上端の角をつかみ、コネクタからそっと取り外します。

6. アダプタを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

7. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。
   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている
8. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。
9. ライザーカードケージを取り付けるには、次の手順を実行します。
   a. ライザーカードケージ側面のタブをコンピュータ側面のスロットに合わせ、ライザーカードケージを所定の位置へ押し下げます。
   b. ライザーカードコネクタがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。
   c. ライザーカードケージのハンドルを回して降ろします。
10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。
11. アダプタのドライバをアンインストールします。手順については、アダプタ付属のマニュアルを参照してください。

目次に戻る

目次に戻る

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

● プロセッサ

プロセッサ

⚠ **警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

プロセッサの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. ヒートシンクアセンブリの両端にあるネジを緩めます。

⚠ **警告: プラスティック製のシールドがあっても、ヒートシンクアセンブリは正常な動作中に過熱する場合があります。十分な時間を置いて温度が下がったのを確認してから、ヒートシンクアセンブリに触るようにします。**

注意: ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させる前に、ヒートシンクとプロセッサを接合しているサーマルグリースを剥がしやすくするため、アセンブリを左右にひねります。これにより、プロセッサに損傷を与えずに、ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させながらソケットからプロセッサを引き出すことができます。

3. ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させ、コンピュータから取り外します。

   サーマルグリースが付いた面を上に向けて、ヒートシンクアセンブリを上向きに置きます。

1	ヒートシンクアセンブリ	2	ネジハウジング（2）

注意: 新しいプロセッサに新しいヒートシンクが不要な場合、プロセッサを交換する際は、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

4. プロセッサが外れるまで、リリースレバーをまっすぐ引き上げます。

1	プロセッサ	2	リリースレバー	3	ソケット

注意: プロセッサをソケットから取り外す際は、ピンを曲げないように注意してください。ピンが曲がると、プロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

5. プロセッサをソケットから取り外します。

   ソケットに新しいプロセッサを取り付けられるよう、リリースレバーはリリースの位置に上げたままにして、プロセッサの取り付け に進みます。

注意: プロセッサを取り外した後は、プロセッサピンにサーマルグリースが付かないように気を付けてください。ピンにサーマルグリースが付くと、プロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

プロセッサの取り付け

注意: コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を除去してください。

注意: プロセッサを取り付ける際は、ピンを曲げないように気を付けてください。ピンが曲がると、プロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

注意: プロセッサを開封する際は、ピンを曲げないように気を付けてください。ピンが曲がると、プロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

2. ピンを曲げないように気を付けながら、新しいプロセッサを開封します。

   注意: コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できない損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

3. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。

4. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印	2	プロセッサ	3	リリースレバー
4	プロセッサソケット				

注意: プロセッサへの損傷を防ぐため、プロセッサとソケットがきちんと揃っているか確認します。プロセッサを取り付ける際は、力を入れすぎないでください。

5. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。

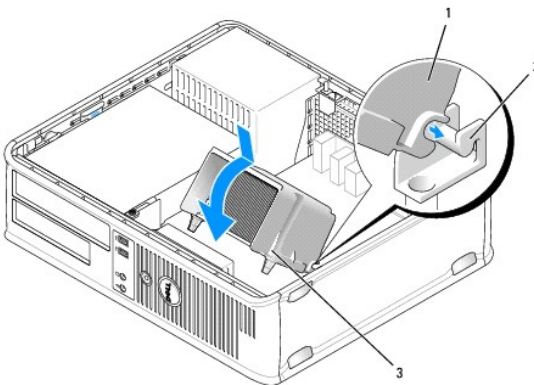
6. プロセッサをそっと押し下げながら、リリースレバーをシステム基板の所定の位置にカチッと収まるまで押し下げ、プロセッサを固定します。

7. ヒートシンク底面に付いているサーマルグリースを拭き取ります。

注意: サーマルグリースを新たに塗布してください。新しいサーマルグリースは、オプションのプロセッサが動作するために必要なサーマルボンディングを十分に確保するために重要です。

8. プロセッサの表面に、新しいサーマルグリースを塗ります。

9. ヒートシンクアセンブリを取り付けます。
   a. ヒートシンクアセンブリをヒートシンクアセンブリブラケットに元のように配置します。
   b. ヒートシンクアセンブリをコンピュータベースへ向けて下向きに回転させ、2 本のネジがシステム基板の穴に揃っていることを確認します。
   c. 2 本のネジを締めます。

注意: ヒートシンクアセンブリが正しく装着され、しっかり固定されているか確認します。

1	ヒートシンクアセンブリ	2	ヒートシンクアセンブリブラケット	3	ネジハウジング（2）

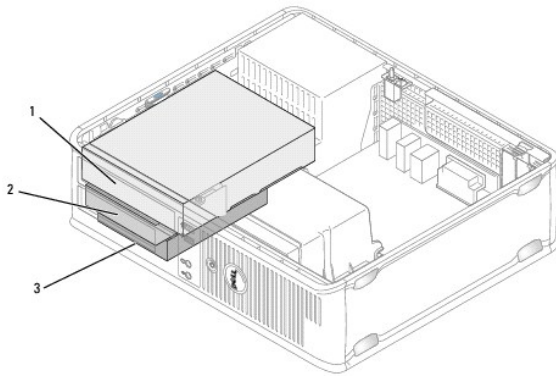
10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

[目次に戻る](#)

● ドライブ

ドライブ

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- SATA ハードディスクドライブを 1 台
- オプションのフロッピードライブまたはメディアカードリーダーを 1 台、または 2 台目の SATA ハードディスクドライブを 1 台
- オプションのオプティカル（CD または DVD ）ドライブを 1 台

1	光学ドライブ	2	フロッピードライブまたはメディアカードリーダー、または SATA ハードディスクドライブ	3	ハードディスクドライブ

一般的な取り付けガイドライン

SATA ハードディスクドライブは、「SATA0」というラベルの付いたコネクタに接続します。SATA CD または DVD ドライブは、システム基板の「SATA1」というラベルの付いたコネクタに接続します。オプションの 2 台目のハードディスクドライブを「SATA2」というラベルの付いたコネクタに接続します。システム基板コネクタについての情報は、システム基板コンポーネントを参照してください。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

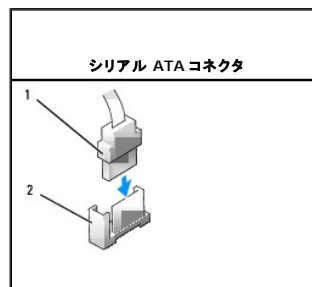
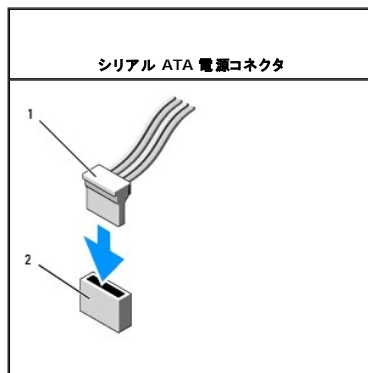
ドライブインタフェースコネクタ

シリアル ATA コネクタ

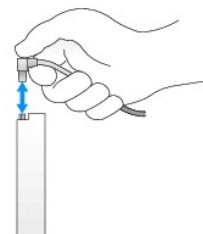
1	インタフェースケーブルコネクタ	2	インタフェースコネクタ

インタフェースコネクタは、カードを正しく挿入できるように設計されています。

電源ケーブルコネクタ

シリアル ATA 電源コネクタ

1	電源ケーブル	2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

SATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持って作業を行います。

光学ドライブ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

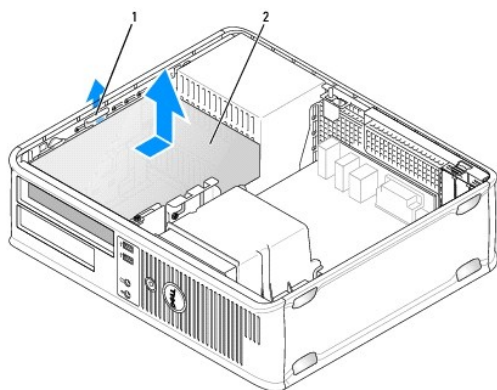
警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

光学ドライブの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. コンピュータカバーを取り外します（コンピュータカバーの取り外し を参照）。

注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

3. ドライブリリースラッチを引き上げ、ドライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。次に、ドライブをコンピュータから持ち上げて取り外します。

1	ドライブリリースラッチ
2	光学ドライブ

4. 電源ケーブルおよびデータケーブルを、ドライブの背面から取り外します。

5. この時点で光学ドライブを取り付けない場合は、光学ドライブカバーをカチッと所定の位置に収まるまでドライブベイに押し下げます。ドライブベイカバーが必要な場合は、デルにお問い合わせください。

光学ドライブの取り付け

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

   ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。

2. ドライブリリースラッチを引き上げ、ドライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。次に、ドライブを持ち上げてコンピュータから取り外します。

3. 新しいドライブを取り付ける場合は、以下の手順を行います。

   a. カバーを取り外します。

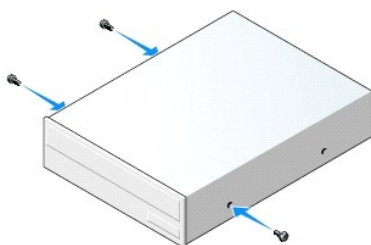
   b. カバーから外した 3 本の肩付きネジを、新しいドライブの両側に差し込んで締めます。

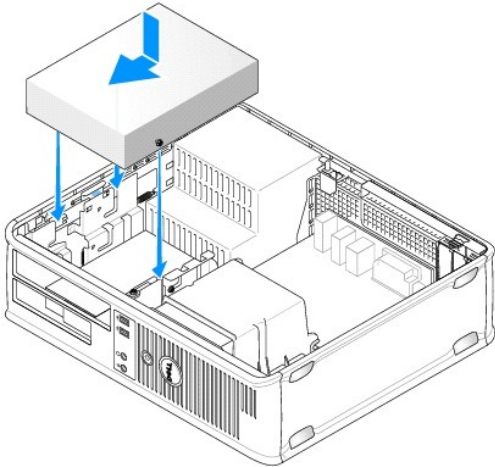
   c. ドライブリリースラッチを持ち上げ、新しい光学ドライブを差し入れます。

4. 既存のドライブを交換する場合は、以下の作業を行います。

   a. 光学ドライブの取り外し の手順に従い、既存のドライブを取り外します。

   b. 既存のドライブから 3 本の肩付きネジを外します。

   c. 3 本の肩付きネジを新しいドライブの側面に挿入して締めます。

5. 電源ケーブルおよびデータケーブルをドライブに接続します。

6. 肩付きネジをネジガイドに合わせ、カチッという感触がある所定の位置に収まるまでドライブをベイにスライドさせます。

7. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

8. コンピュータカバーを取り付けます(コンピュータカバーの取り外し を参照)。

9. **Drives** の **Drive** オプション(**0** または **1**)を設定し、構成情報をアップデートします。詳細に関しては、セットアップユーティリティの起動 を参照してください。

10. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します(Dell Diagnostics(診断)プログラム を参照)。

フロッピードライブ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

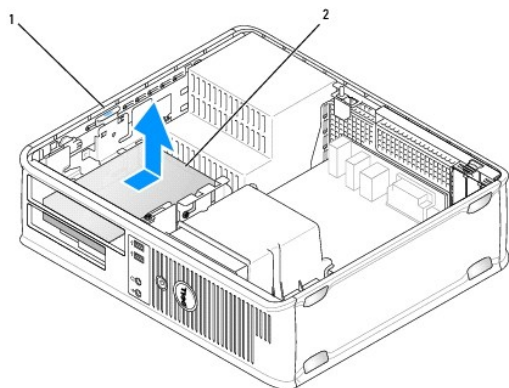
フロッピードライブの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

メモ: 以下の手順では、光学ドライブを完全に取り外す必要はないので、光学ドライブを接続しているケーブルを外す必要はありません。

2. 光学ドライブを取り外し(光学ドライブの取り外し を参照)、注意して横へ置いておきます。

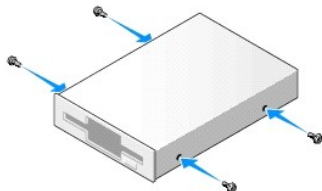
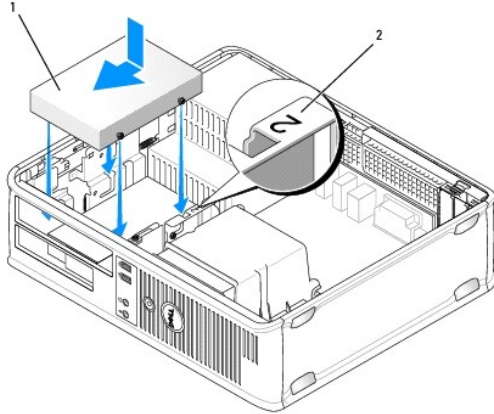
注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

3. ドライブリリースラッチを引き上げ、フロッピードライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。次に、ドライブを持ち上げてコンピュータから取り外します。

1	ドライブリリースラッチ	2	フロッピードライブ

4. 電源ケーブルおよびデータケーブルを、フロッピードライブの背面から取り外します。

フロッピードライブの取り付け

1. 新しいドライブを取り付ける場合は、以下の手順を行います。
   a. ドライブベイカバーの背面で、細めのマイナスドライバを使って、慎重にベイカバーを外します。
   b. ドライブベイカバーから 4 本の肩付きネジを外します。
2. 既存のドライブを交換する場合は、以下の作業を行います。

   既存のドライブから 4 本の肩付きネジを外します。
3. 4 本の肩付きネジを新しいフロッピードライブの側面に挿入して締めます。

4. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに接続します。
5. フロッピードライブケーブルをシステム基板の DSKT コネクタに接続します（コネクタの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください）。
6. 肩付きネジをネジガイドに合わせ、カチッという感触がある所定の位置に収まるまでドライブをベイにスライドさせます。

1	フロッピードライブ	2	スロット検証番号

7. 光学ドライブを取り付けます（光学ドライブの取り付け を参照）。

8. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

9. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

10. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいフロッピードライブを有効に設定します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

11. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。

メディアカードリーダー

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

メディアカードリーダーの取り外し

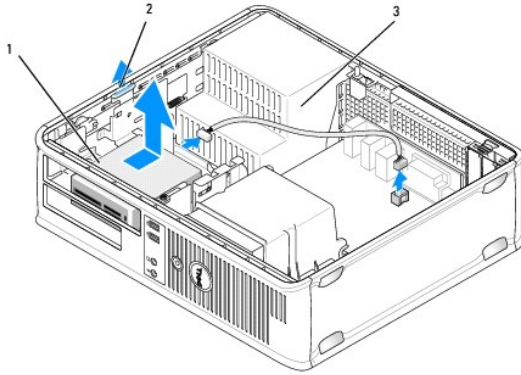
1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

メモ: 以下の手順では、光学ドライブを完全に取り外す必要はないので、光学ドライブを接続しているケーブルを外す必要はありません。

2. 光学ドライブを取り外し（光学ドライブの取り外し を参照）、注意して横へ置いておきます。

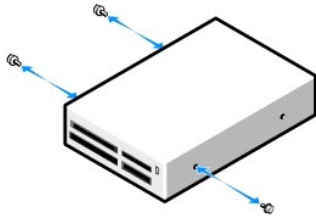
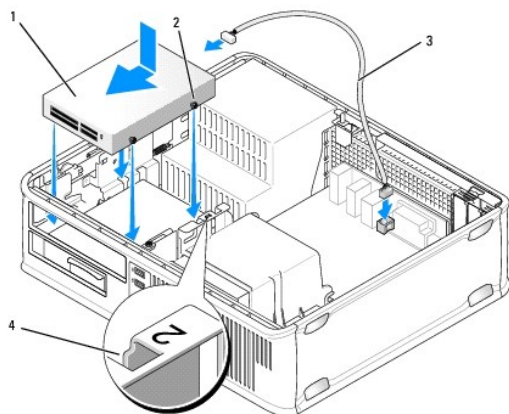
注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

3. ドライブリリースラッチを上げて、メディアカードリーダーをコンピュータの背面に向けてスライドさせます。メディアカードリーダーを持ち上げてコンピュータから取り外します。

4. メディアカードリーダーの背面から、メディアカードリーダーケーブルを取り外します。

1	メディアカードリーダー	2	ドライブリリースラッチ	3	メディアカードリーダーケーブル

メディアカードリーダーの取り付け

1. 新しいメディアカードリーダーを取り付ける場合は、以下の手順を行います。
   a. ドライブベイカバーの背面で、細めのマイナスドライバを使って、慎重にベイカバーを外します。
   b. ドライブベイカバーから 4 本の肩付きネジを外します。
2. 既存のメディアカードリーダーを交換する場合は、以下の手順を行います。

   既存のメディアカードリーダーから 4 本の肩付きネジを外します。
3. 4 本の肩付きネジを新しいメディアカードリーダーの側面に挿入して締めます。

4. メディアカードリーダーにメディアカードリーダーケーブルを取り付けます。
5. カードリーダーケーブルをシステム基板の USB1 コネクタに接続します（コネクタの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください）。
6. 肩付きネジを 2 番の番号が付いたネジガイドに合わせて、カチッと所定の位置に収まるまでメディアカードリーダーをベイの中にスライドさせます。

1	メディアカードリーダー	2	肩付きネジ（4）	3	メディアカードリーダーケーブル
4	肩付きネジスロット（2）				

7. 光学ドライブを取り付けます（光学ドライブの取り付け を参照）。

8. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

9. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

10. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいメディアカードリーダーを有効に設定します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

11. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

ハードディスクドライブ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

メモ: 2 台のハードディスクドライブが取り付けられている場合は、2 台目のハードディスクドライブの取り外しと取り付けについて2 台目のハードディスクドライブの取り外しと取り付けを参照してください。

ハードディスクドライブの取り外し

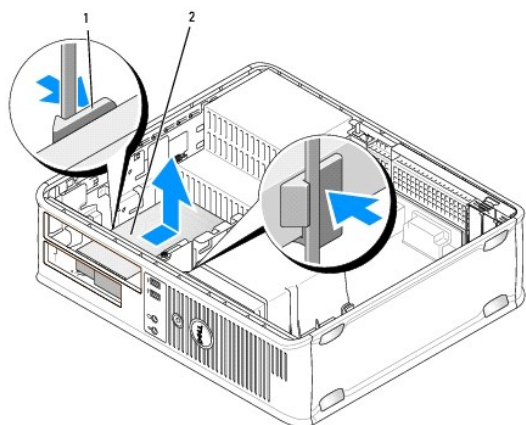
1. 残しておきたいデータが保存されているハードディスクドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

2. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

メモ: 以下の手順では、光学ドライブおよびフロッピードライブを完全に取り外す必要はないので、これらの 2 つのドライブを接続しているケーブルを外す必要はありません。

3. 光学ドライブをベイから取り外し（光学ドライブの取り外し を参照）、注意して横へ置いておきます。

4. フロッピードライブ、メディアカードリーダー、または 2 台目のハードディスクドライブが取り付けられている場合は、それらを取り外し（フロッピードライブの取り外し、メディアカードリーダーの取り外し、または 2 台目のハードディスクドライブの取り外しと取り付けを参照）、注意して横へ置きます。

5. ハードディスクドライブ両端の 2 つのプラスチックの固定クリップを押し込み、ドライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。

1	固定クリップ（2）	2	ハードディスクドライブ

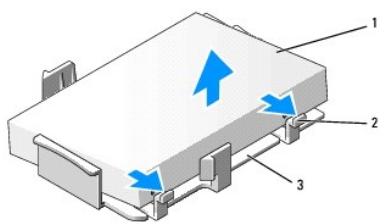
注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

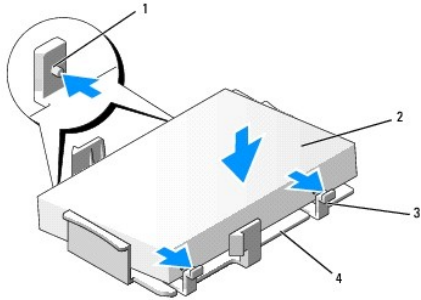
6. ドライブを持ち上げてコンピュータから出し、電源ケーブルおよびハードディスクドライブケーブルをドライブから外します。

ハードディスクドライブの取り付け

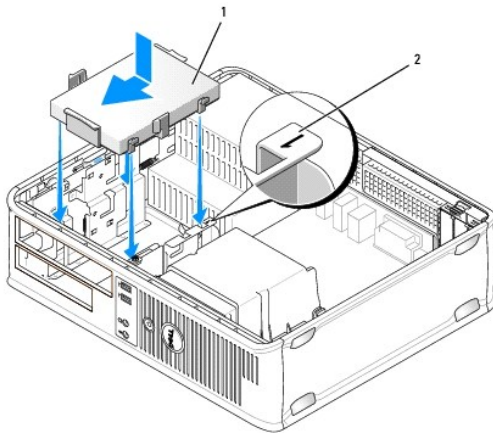
1. 交換用のハードディスクドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。

注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

2. 交換用のハードディスクドライブにプラスチックのハードディスクドライブブラケットがない場合は、既存のドライブからブラケットをカチッと取り外します。

1	ハードディスクドライブ	2	リリースタブ（2）	3	プラスチック製のハードディスクドライブブラケット

3. 2 つの固定タブをハードディスクドライブの取り付け穴に揃えてから、ドライブを下向きに回転させてブラケットに嵌め込むことにより、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

1	固定タブ（2）	2	ドライブ	3	リリースタブ（2）
4	プラスチック製のハードディスクドライブブラケット				

4. 電源ケーブルおよびデータケーブルをドライブに接続します。

5. ドライブの正しいスロットの位置を確認し、カチッという感触がある所定の位置に収まるまでドライブをベイにスライドさせます。

1	ハードディスクドライブ	2	スロット検証番号

6. フロッピー、ドライブ、メディアカードリーダー、または 2 台目のハードディスクドライブを取り外します（フロッピードライブの取り付け、メディアカードリーダーの取り付け、または2 台目のハードディスクドライブの取り外しと取り付けを参照）。

7. 光学ドライブを取り付けます（光学ドライブの取り付けを参照）。

8. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。

9. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

10. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。

11. コンピュータの電源を入れます。

12. セットアップユーティリティを起動し、適切な **Primary Drive** オプション（**0** または **2**）をアップデートします（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

13. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

14. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

15. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。

16. ハードディスクドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

 手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

2 台目のハードディスクドライブの取り外しと取り付け

RAID 構成に関しては、RAID 構成についてを参照してください。

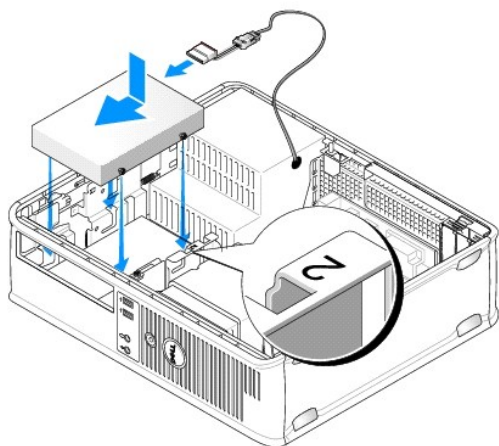
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

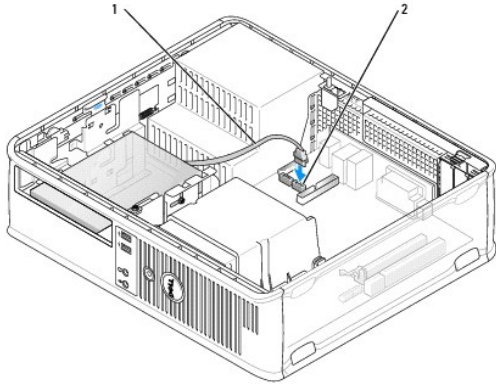
警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

注意: 残しておきたいデータが保存されているハードディスクドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

メモ: 2 台目のハードディスクドライブの取り付けは、デスクトップコンピュータの一部の構成に制限されています。

1. マニュアルまたはドライブを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
2. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
3. コンピュータカバーを取り外します（コンピュータカバーの取り外し を参照）。
4. 光学ドライブを取り外します（システムでご使用の場合）（光学ドライブの取り外しを参照）。
5. 2 台目のハードディスクドライブを取り外すには、次の手順を実行します。
   a. ドライブリリースラッチを引き上げ、ハードディスクドライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。
   b. データおよび電源ケーブルケーブルを、ドライブの背面から取り外します。
   c. 次に、ドライブを持ち上げてコンピュータから取り外します。
6. 2 台目のハードディスクドライブを取り付けるには、次の手順を実行します。
   a. 肩付きネジをネジガイドに合わせ、カチッという感触がある所定の位置に収まるまでドライブをベイにスライドさせます。
   b. 電源ケーブルおよびデータケーブルを、ドライブの背面に接続します。

7. 2 台目のハードディスクドライブからデータケーブルがシステム基板の SATA1 コネクタに接続されたままであることを確認します。

注意: 2 台目のハードディスクドライブを取り付ける（交換する）場合には、必ずデータケーブルを SATA1 コネクタに接続してください。

1	データケーブル	2	ハードディスクドライブシステム基板コネクタ

8. 光学ドライブを取り付けます（お使いの構成に含まれている場合）。光学ドライブの取り付け を参照してください。

9. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外し を参照）。

10. コンピュータの電源を入れます。

11. 交換用の 2 台目のハードディスクドライブを取り付け終わったら、手順 12 から手順 16 を完了させてください。

12. セットアップユーティリティを起動して、**Drives** オプションリストの SATA ポートオプションをアップデートします（セットアップユーティリティの起動を参照）。

13. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

14. お使いのドライブをパーティションで区切り、論理的なフォーマットを行います。

   メモ: 手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

15. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードディスクドライブをテストします（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。

16. 新しい（2 台目の）ハードディスクドライブにお使いのオペレーティングシステムをインストールします。

   メモ: 手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ 740 ユーザーズガイド

デスクトップコンピュータ

お使いのコンピュータについて
情報の検索方法
デスクトップコンピュータ
デスクトップコンピュータ(モデル ＃ DCNE)仕様
アドバンス機能
コンピュータのクリーニング
ドライバとオペレーティングシステムの 再インストール
問題の解決
MicrosoftR WindowsR XP および Windows VistaR の特徴
トラブルシューティングツールと ユーティリティ
困ったときは
保証について
FCC 規制モデル(米国のみ)
用語集

部品の取り外しと取り付け
作業を開始する前に
コンピュータカバーの取り外し
シャーシイントルージョンスイッチ
I/O パネル
ドライブ
PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ
電源装置
プロセッサ
バッテリー
システム基板の交換
メモリ
コンピュータカバーの取り付け

メモ、注意、警告

メモ: コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

モデル DCNE, DCSM および DCCY

2009 年 9 月　　P/N RP699　　Rev. A04

目次に戻る

- I/O パネル

I/O パネル

I/O パネルの取り外し

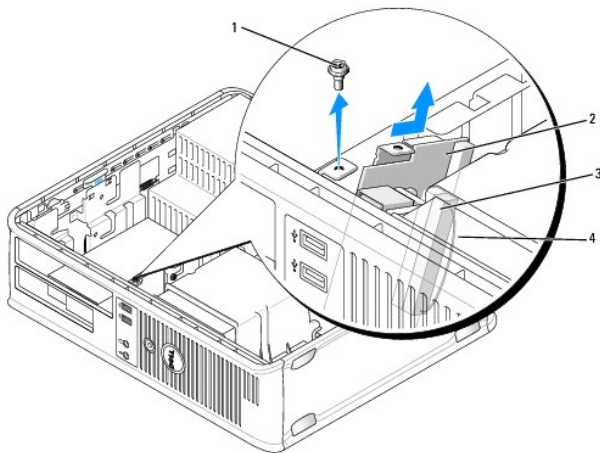
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

メモ: ケーブルを外す前に、新しい I/O パネルを取り付けるときに正しく配線できるよう、ケーブルのすべての配線経路をメモしておいてください。

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. ケーブルのプルループを引っ張って、I/O パネルからケーブルを外します。
3. I/O パネルをデスクトップコンピュータに固定しているネジを外します。

注意: I/O パネルをコンピュータから引き出すときには、特に注意を払ってください。注意を怠ると、ケーブルコネクタおよびケーブル配線クリップに損傷を与える場合があります。

4. I/O パネルを慎重に動かして、コンピュータから引き出します。

1	固定ネジ	2	I/O パネル	3	I/O ケーブルコネクタ
4	I/O コネクタプルループ				

I/O パネルの取り付け

1. I/O パネルを取り付けるには、取り外し手順を逆の順序で実行します。

メモ: I/O パネルブラケットにあるガイドを使って I/O カードを正しい位置に合わせ、I/O パネルブラケットにある切り込みを使ってカードを設置してください。

目次に戻る

目次に戻る

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

● 電源装置

電源装置

電源装置の交換

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

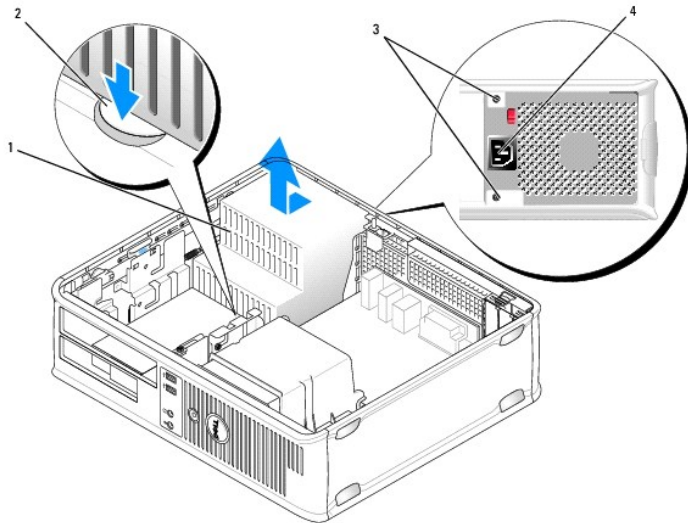
1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

   DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータシャーシ内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

3. コンピュータシャーシの背面に電源装置を取り付けている 2 本のネジを外します。

4. 光学ドライブを取り外し、注意して横へ置いておきます（光学ドライブの取り外し を参照）。

5. コンピュータシャーシの底面にあるリリースボタンを押します。

1	電源装置	2	リリースボタン	3	ネジ（2）
4	AC 電源コネクタ				

6. 電源装置をコンピュータの前面の方へ約 2.5 cm スライドさせます。

7. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。

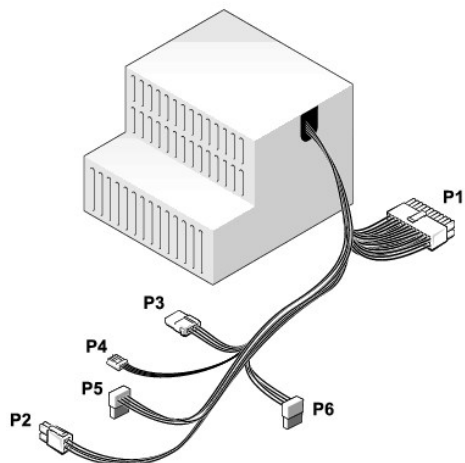
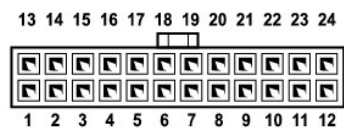
8. 交換用の電源装置をスライドさせて所定の位置に入れます。

9. 電源装置をコンピュータシャーシの背面に固定するネジを取り付けます。

10. DC 電源ケーブルを再接続します（コネクタの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください）。

11. 光学ドライブを取り付けます（光学ドライブの取り付け を参照）。

12. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

13. AC 電源ケーブルを AC 電源コネクタに接続します。

DC 電源コネクタ

DC 電源コネクタ P1

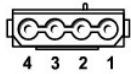
13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

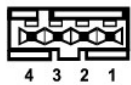
ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	GND	黒色
4	VCC（+5 V）	赤色
5	GND	黒色
6	VCC（+5 V）	赤色
7	GND	黒色
8	PS_PWRGOOD	灰色
9	P5AUX	紫色
10	V_12P0_DIG	黄色
11	V_12P0_DIG	黄色
12	+3.3 V	橙色
13	+3.3 V	橙色
14	-12 V*	青色
15	GND	黒色

16	PWR_PS_ON	緑色
17	GND	黒色
18	GND	黒色
19	GND	黒色
20	NC	N/C
21	VCC（+5V）	赤色
22	VCC（+5V）	赤色
23	VCC（+5V）	赤色
24	GND	黒色
* 18 AWG ワイヤの代わりに 22 AWG ワイヤを使用		

DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	COM	黒色
2	COM	黒色
3	+12 VDC	黄色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+12VDC	黄色
2	COM	黒色
3	COM	黒色
4	+5 VDC	赤色

DC 電源コネクタ P4

ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
1	+5 VDC	赤色
2	COM	黒色

3	COM	黒色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P5 および P6

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	COM	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	COM	黒色
5	+12 VDC	黄色

目次に戻る

[目次に戻る]

● コンピュータカバーの取り外し

コンピュータカバーの取り外し

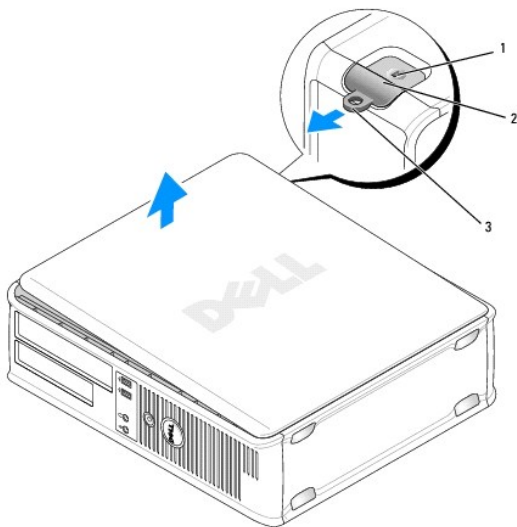
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. 背面パネルのパドロックリングにパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

3. 図に示されているカバーリリースラッチを確認します。次に、カバーを持ち上げながらリリースラッチを後方にスライドさせます。

警告: グラフィックカードのヒートシンクは、通常の動作でもかなり熱くなることがあります。グラフィックカードのヒートシンクに触れる前には十分に時間をかけ、ヒートシンクの温度が下がっていることを確認してください。

1	セキュリティケーブルスロット	2	カバーリリースラッチ	3	パドロックリング

4. コンピュータカバーの側面を持ち、ヒンジタブをてこの支点としてカバーを上に動かします。

5. カバーをヒンジタブから取り外し、柔らかく傷が付きにくい場所に置いておきます。

[目次に戻る]

目次に戻る

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

● デスクトップコンピュータ（モデル # DCNE）仕様

デスクトップコンピュータ（モデル # DCNE）仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサの種類	AMD Phenom™ プロセッサ **メモ:** AMD Phenom プロセッサは、8 Mb NVRAM チップを必要とすることから、8 Mb NVRAM チップ搭載のモデルでのみ使用されます。お使いのコンピュータが 8 Mb NVRAM チップとAMD Phenom プロセッサ内蔵の場合、enhanced という文字が BIOS 画面およびセットアップユーティリティ画面内のタイトルに表示されます。 AMD Athlon™ 64 X2 デュアルコアプロセッサ AMD Athlon 64
内蔵キャッシュ	AMD Phenom クアドコア: 2 MB L2 専用キャッシュおよび 2 MB 共有 L3 キャッシュ AMD Phenom トリプルコア: 1.5-MB L2 専用キャッシュおよび 2 MB 共有 L3 キャッシュ AMD Athlon 64 X2: 2 MB L2 専用キャッシュ AMD Athlon 64 X2: 1 MB L2 専用キャッシュ AMD Athlon: 1 MB L2 専用キャッシュ AMD Athlon: 512 KB L2 専用キャッシュ

メモリ	
タイプ	533、667、または 800 MHz DDR2 SDRAM
メモリのコネクタ	4
対応するメモリモジュール	256MB、512MB、1GB、または 2GB 非 ECC
最小メモリ	デュアルチャネル 512 MB シングルチャンネル: 256 MB
最大搭載メモリ	8 GB

コンピュータ情報	
チップセット	nVidia GeForce 6150LE/NForce 430
RAID サポート	RAID 0 および RAID 1 **メモ:** RAID サポートは特定のモデルでのみ利用できます。
データバス幅	64 ビット
アドレスバス幅	40 ビット
DMA チャネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ（NVRAM）	8 Mb または 4 Mb **メモ:** AMD Phenom プロセッサは、8 Mb NVRAM チップを必要

	とすることから、8 Mb NVRAM チップ搭載のモデルでのみ使用されます。お使いのコンピュータが 8 Mb NVRAM チップとAMD Phenom プロセッサ内蔵の場合、enhanced という文字が BIOS 画面およびセットアップユーティリティ画面内のタイトルに表示されます。
NIC	DMTF によって定義されている ASF 1.03 および 2.0 サポートを組み込んだ内蔵ネットワークインタフェース 10/100/1000 通信が可能

ビデオ	
タイプ	nVidia 内蔵ビデオ(DirectX 9.0c Shader Model 3.0 Graphics Processing Unit)または PCI Express x16 グラフィックスカードまたは DVI グラフィックスカード

オーディオ	
タイプ	Sigma Tel 9200 CODEC(2.1 チャネルオーディオ)
ステレオ変換	24 ビット AD 変換および 24 ビット DA 変換

コントローラ	
ドライブ	2 台の 3.5 インチデバイスをサポートする SATA コントローラ(2 台の 3.5 インチハードディスクドライブをサポート)

拡張バス	
バスのタイプ	PCI 2.3 PCI Express 1.0A SATA 1.0A および 2.0 USB 2.0
バス速度	PCI: 133 MB/s PCI Express x16: 40 GB/秒(双方向速度) SATA: 1.5 Gbps および 3.0 Gbps USB: 480 Mbps ハイスピード、12 Mbps フルスピード、1.2 Mbps ロースピード
カード	オプションのライザーカードケージでハーフレングスカードおよびフルハイトカードをサポート
デフォルト: ライザーカードケージなし	ロープロファイルカードをサポート
PCI	
コネクタ	2 つ
カードサイズ	ロープロファイル
コネクタサイズ	124 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	32 ビット
PCI Express	
コネクタ	x16 × 1
カードサイズ	ロープロファイル
電源	最大 25 W
コネクタサイズ	164 ピン(× 16)
コネクタデータ幅(最大)	16 PCI Express レーン(× 16)
オプション: フルハイト PCI Express ライザーカードケージ	ロープロファイルカードおよびフルハイトカードをサポート

ドライブ	
外部アクセス可能	1 台の 3.5 インチドライブ光学ドライブまたは、オプションの 2 台目のハードディスク用シングルベイ、2 台までの 3.5 インチハード

	ディスクドライブをサポート
内部アクセス可能	1 インチ幅ハードディスクドライブ用ベイ × 1

コネクタ	
外付けコネクタ:	
シリアル	9 ピンコネクタ、16550C 互換
パラレル	双方向 25 ピンコネクタ（メス）
ビデオ	15 ピン VGA コネクタ（メス）
ネットワークアダプタ	RJ-45 コネクタ
セカンダリシリアルポートアダプタ付き PS/2（オプション）	6 ピンミニ DIN × 2 **メモ:** このオプションは PCI スロットの内の 1 つを使用します。
オプションの DVI	36 ピンコネクタ **メモ:** このオプションは PCI スロットの内の 1 つを使用します。
USB	USB 2.0 互換コネクタ（前面パネルに 2 つ、背面パネルに 5 つ）
オーディオ	ライン入力およびライン出力用の 2 つのコネクタ、前面パネルのヘッドフォンおよびマイク用の 2 つのコネクタ
システム基板コネクタ:	
SATA	3 つの 7 ピンコネクタ
フロッピードライブ	38 ピンコネクタ
シリアル	オプションのセカンドシリアルポートカード用 24 ピンコネクタ
ファン	5 ピンコネクタ
PCI 2.3	124 ピンコネクタ × 2
PCIe-X16	164 ピンコネクタ
内蔵 USB	10 ピンコネクタ
イントルージョンスイッチ	3 ピンコネクタ
スピーカ	5 ピンコネクタ
メモリモジュール	240 ピンコネクタ × 4
12V 電源	4 ピンコネクタ
電源	24 ピンコネクタ
バッテリ	2 ピンソケット
前面パネル	40 ピンコネクタ

キーの組み合わせ	
<Ctrl> <Alt> <Del>	Microsoft® Windows® XP および Windows Vista® では、Windows Security ウィンドウを表示、MS-DOS® モードでは、コンピュータを再スタート（再起動）
<F2> または <Ctrl> <Alt> <Enter>	内蔵のセットアップユーティリティを起動（システム起動時のみ）
<Ctrl> <n>	RAID がセットアップユーティリティでオンになっている場合、RAID セットアップメニューを起動
<F12> または <Ctrl> <Alt> <F8>	ユーザーが単一起動用のデバイスを入力できる起動デバイスメニュー（システム起動時のみ）、またハードディスクドライブおよびシステム診断プログラムを実行するオプションを表示

ボタンとライト	
電源ボタン	前面パネル-押しボタン
電源ライト	緑色のライト 緑色のライトは、スリープモードのときは緑色に点滅、電源がオンのときは緑色に点灯 黄色のライト 黄色の点滅は、インストールされたデバイスに問題があることを示し、黄色の点灯は内蔵電源の問題を示す（電源の問題を参照）

ハードディスクドライブアクセスライト	前面パネル - 緑色
リンクライト	前面パネル - 緑色の点灯はネットワーク接続を示す
リンク保全ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	背面パネル - 10 Mb 伝送時は緑色のライト、100 Mb 伝送時は橙色のライト、1000 Mb（1 Gb）伝送時は黄色のライト
動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	背面パネル - 黄色の点滅
診断ライト	前面パネル - 前面パネルに 4 つのライト。診断ライト を参照してください。
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

電源	
DC 電源装置:	
ワット数	280 W
熱消費	最大 955.39 BTU/時
電圧	手動選択電源装置 90～135 V（50/60 Hz）、180～265 V（50/60 Hz）
バックアップバッテリ	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリ

寸法	
縦幅	11.4 cm
横幅	39.9 cm
長さ	35.3 cm
重量	10.4 kg

環境	
温度:	
動作時	10～35 ℃
保管時	-40～65 ℃
相対湿度	20～80 %（結露しないこと）
最大耐久震度:	
動作時	0.25 G（3～200 Hz、0.5 オクターブ / 分）
保管時	0.5 G（3～200 Hz、1 オクターブ / 分）
最大耐久衝撃:	
動作時	50.8 cm / 秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm / 秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ
高度:	
動作時	-15.2～3,048 m
保管時	-15.2～10,668 m

目次ページへ戻る

Dell™ Optiplex™ 740 Systems
ユーザーズガイド

● スピーカー

スピーカー

スピーカーの取り付け

注意：本セクションの作業を始める前に、『製品情報ガイド』に記載しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。

注意：コンピュータ内部のコンポーネントを静電気による損傷から防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体の静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

1. 「作業を始める前に」の手順に従ってください。
2. コンピューターのカバーを取り外します（「コンピューターカバーの取り外し」を参照）。
3. コンピューターのシャーシのシステムファンにスピーカーを取り付けます。
4. システム基板にケーブルを接続します。
5. コンピューターのカバーを取り付けます。
6. コンピューターの電源を入れます。

スピーカーの取り外し

注意：本セクションの作業を始める前に、『製品情報ガイド』に記載しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。

注意：コンピュータ内部のコンポーネントを静電気による損傷から防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体の静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

1. 「作業を始める前に」の手順に従ってください。
2. コンピューターのカバーを取り外します（「コンピューターカバーの取り外し」を参照）。
3. システム基板からケーブルを外します。
4. コンピューターのシャーシのシステムファンからスピーカーを取り外します。
5. コンピューターのカバーを取り付けます。
6. コンピューターの電源を入れます。

目次ページへ戻る

目次に戻る

FCC 規制モデル(米国のみ)

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

次の情報は、FCC 規則に準拠する本書で取り扱う装置に関するものです。

- 製品名: Dell™ OptiPlex™ 740
- モデル番号: DCNE、DCSM、および DCCY
- 会社名:
  Dell Inc.
  Worldwide Regulatory Compliance & Environmental Affairs
  One Dell Way
  Round Rock, TX 78682 USA
  512-338-4400

 メモ: 追加の FCC およびその他の規制当局に関する情報は、『製品情報ガイド』(お使いのコンピュータに付属)をご覧ください。情報はインターネットで **dell.com/regulatory_compliance** にアクセスしてご覧になることもできます。

目次に戻る

目次に戻る

情報の検索方法

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

メモ: 一部の機能やメディアはオプションなので、出荷時にコンピュータに搭載されていない場合があります。特定の国では使用できない機能やメディアもあります。

メモ: 追加の情報がコンピュータに同梱されている場合があります。

何をお探しですか?	こちらをご覧ください
コンピュータの診断プログラム コンピュータのドライバ デバイスのマニュアル DSS（デスクトップシステムソフトウェア）	**Drivers and Utilities メディア** **メモ:** 『Drivers and Utilities』メディアはオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。 マニュアルおよびドライバは、本コンピュータにすでにインストールされています。『Drivers and Utilities』メディアを使用して、ドライバを再インストールしたり（Microsoft® Windows Vista® および Windows® XP の再インストールを参照）、Dell Diagnostics（診断）プログラム（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）を実行します。 メディア内に Readme ファイルが含まれている場合があります。この Readme ファイルでは、コンピュータの技術的変更に関する最新のアップデートや、技術者または専門知識をお持ちのユーザーを対象とした高度な技術資料を参照できます。 **メモ:** ドライバおよびマニュアルのアップデート版は、**support.jp.dell.com** で入手できます。
コンピュータのセットアップ方法 基本的なトラブルシューティングの情報 Dell Diagnostics（診断）プログラムの実行方法 エラーコードおよび診断ライト ツールとユーティリティ マイコンピュータのセットアップ方法についての追加情報 トラブルシューティングおよび問題解決の方法 部品の取り外しおよび取り付け方法	**クイックリファレンスガイド** **メモ:** このマニュアルはオプションの場合があるため、必ずしもお使いのコンピュータに付属しているとは限りません。 **メモ:** このマニュアルは、PDF 形式のものをウェブサイト（**support.jp.dell.com**）でご覧いただけます。
安全にお使いいただくための注意 認可機関の情報 作業姿勢に関する情報 エンドユーザライセンス契約	**Dell™ 製品情報ガイド**

• サービスタグとエクスプレスサービスコード • Microsoft Windows ライセンスラベル	**サービスタグおよび Microsoft® Windows® ライセンス** **メモ:** お使いのコンピュータのサービスタグおよび Microsoft® Windows® ライセンスラベルはお使いのコンピュータに貼られています。 お使いのコンピュータのサービスタグには、サービスタグナンバーおよびエクスプレスサービスコードが含まれています。 • サービスタグは、**support.jp.dell.com** をご参照の際に、またはサポートへのお問い合わせの際に、コンピュータの識別に使用します。 • エクスプレスサービスコードを利用すると、サポートに直接電話で問い合わせることができます。 お使いのオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合は、Microsoft Windows ライセンスラベル上のプロダクトキーを使用します。 • お使いのオペレーティングシステムを再インストールする場合、ライセンスラベル上の Product Key(プロダクトキー)を使用します。 **メモ:** セキュリティ対策の強化として、新たにデザインされた Microsoft Windows ライセンスラベルには、ラベルの一部が欠けている「穴」が組み込まれ、ラベルが剥がれにくくなっています。
• 技術情報 — トラブルシューティングのヒント、技術者による論説、およびよくあるお問い合わせ(FAQ) • サービスと保証 - 問い合わせ先、保証、および修理に関する情報 • サービスおよびサポート - サービス契約 • Dell テクニカル Update Service - お使いのコンピュータに関するソフトウェアおよびハードウェアのアップデートを E-メールにて事前に通知するサービスです。 • 参照資料 - コンピュータのマニュアル、コンピュータの設定の詳細、製品の仕様、およびホワイトペーパー • ダウンロード — 認定されたドライバ、パッチ、およびソフトウェアのアップデート • デスクトップシステムソフトウェア(DSS)- お使いのコンピュータでオペレーティングシステムを再インストールする場合は、DSS ユーティリティも再インストールする必要があります。DSS は、お使いのオペレーティングシステムのための重要な更新を提供し、Dell™ 3.5 インチ USB フロッピードライブ、AMD™ プロセッサ、光学ドライブ、および USB デバイスをサポートします。DSS はお使いの Dell コンピュータが正しく動作するために必要なものです。ソフトウェアはお使いのコンピュータおよびオペレーティングシステムを自動的に検知して、設定に適した更新をインストールします。	**デルサポートサイト — support.jp.dell.com** **メモ:** 適切なサポートサイトを表示するには、お住まいの地域または業務部門を選択します。 デスクトップシステムソフトウェアは、**support.jp.dell.com** にてダウンロードできます。 **メモ: support.jp.dell.com** のユーザーインタフェースは、選択の仕方によって異なります。 **メモ:** お使いのコンピュータモデルでデスクトップシステムソフトウェアが使用できない場合もあります。
• ソフトウェアのアップグレードおよびトラブルシューティングのヒント - よくあるお問い合わせ(FAQ)、最新トピック、およびお使いのコンピュータ環境の一般的な状態	**Dell Support 3(デルサポート 3)** Dell Support 3(デルサポート 3)は、お使いのコンピュータにインストールされている自動的なアップグレードおよび通知システムです。このサポートは、お使いのコンピュータ環境のリアルタイムの状態スキャン、ソフトウェアアップデート、および関連するセルフサポート情報を提供します。Dell Support 3(デルサポート 3)は、タスクバーの アイコンからアクセスします。
• コンピュータおよびコンポーネントに関する情報の検索方法 • インターネットへの接続の仕方 • 他のユーザー用のユーザーアカウントの追加方法 • 別のコンピュータからのファイルおよび設定の転送方法	**Windows ウェルカムセンター** はじめてコンピュータを使用する際には、Windows ウェルカムセンターが自動的に表示されます。コンピュータの起動時にいつも表示されるようにするには、**Run at startup**(スタートアップで実行)のチェックボックスにチェックマークを入れます。ウェルカムセンターにアクセスする別の方法は、Windows Vista スタートボタン をクリックし、次に **Welcome Center**(ウェルカムセンター)をクリックします。
• Microsoft Windows XP または Windows Vista® の使い方	**Windows ヘルプとサポート**

l プログラムとファイルの操作方法 l デスクトップのカスタマイズ方法	Microsoft Windows XP 1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。 2. リスト表示されたトピックの 1 つを選択するか、問題に関連する用語や文節を **検索** ボックスに入力して、矢印アイコンをクリックし、次に問題に関連するトピックスをクリックします。 3. 画面に表示される指示に従ってください。 Microsoft Windows Vista 1. Windows Vista スタートボタン をクリックし、**Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。 2. Search Help（ヘルプの検索）で、問題に関連する単語または語句を入力して、<Enter> を押すか、虫メガネのアイコンをクリックします。 3. 問題に関連するトピックをクリックします。 4. 画面に表示される指示に従ってください。
l リモートヘルプでのコンピュータのトラブルシューティング	**DellConnect™ サービスおよびサポート** デルの担当者がブロードバンド接続を介して、遠隔地からお使いのコンピュータを診断し、修復します。DellConnect の詳細および開始方法は、**support.jp.dell.com** にアクセスして、**Revolutionary remote help**（革命的リモートヘルプ）**-DellConnect** をクリックします。
l オペレーティングシステムの再インストール方法	**オペレーティングシステムメディア** **メモ:**『オペレーティングシステム』メディアはオプションなので、出荷時にお使いのコンピュータに必ずしも付属しているわけではありません。 オペレーティングシステムは、本コンピュータにすでにインストールされています。お使いのオペレーティングシステムを再インストールするには、『オペレーティングシステム』メディアを使用します。Microsoft® Windows Vista® および Windows® XP の再インストール を参照してください。 オペレーティングシステムを再インストールしたら、オプションの『Drivers and Utilities』メディアを使用してコンピュータに同梱のデバイスのドライバを再インストールします。 オペレーティングシステムの Product key（プロダクトキー）ラベルは、コンピュータに貼付されています。 **メモ:** 注文されたオペレーティングシステムによって、メディアの色が違います。

目次に戻る

目次に戻る

困ったときは

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- テクニカルサポート
- ご注文に関する問題
- 製品情報
- 保証期間中の修理または返品について
- お問い合わせになる前に
- デルへのお問い合わせ

テクニカルサポート

警告: コンピュータカバーを取り外す必要がある場合、まずコンピュータの電源ケーブルとモデムケーブルをすべてのコンセントから取り外します。

1. 問題の解決 の手順を完了します。
2. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します(Dell Diagnostics(診断)プログラム を参照)。
3. Diagnostics(診断)チェックリスト をコピーしてから、(Diagnostics(診断)チェックリスト を参照)記入します。
4. インストールとトラブルシューティングの手順については、デルサポート(**support.jp.dell.com**)から、広範囲をカバーするオンラインサービスを利用してください。
5. これまでの手順で問題が解決されない場合、デルにお問い合わせください。

メモ: デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。サポート担当者がコンピュータでの操作をお願いすることがあります。

オンラインサービス

デルサポートへは、**support.jp.dell.com** でアクセスすることができます。**サポートサイトへようこそ** のページから、サポートツール、情報などをお選びください。

インターネット上でのデルへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- World Wide Web

  www.dell.com/

  www.dell.com/ap/(アジア / 太平洋諸国)

  www.dell.com/jp(日本)

  www.euro.dell.com(ヨーロッパ)

  www.dell.com/la/(南アメリカおよびカリブ海地域)

  www.dell.ca(カナダ)

- サポートウェブサイト

  mobile_support@us.dell.com

  support@us.dell.com

  la-techsupport@dell.com(ラテンアメリカおよびカリブ海諸国)

  apsupport@dell.com(アジア太平洋地域)

  support.jp.dell.com(日本)

  support.euro.dell.com(ヨーロッパ)

24 時間納期案内電話サービス

注文した Dell™ 製品の状況を確認するには、**support.jp.dell.com** にアクセスするか、または、24 時間納期案内電話サービスにお問い合わせください。音声による案内で、注文について調べて報告するために必要な情報をお伺いします。

サポートサービス

デル製品に関するお問い合わせは、デルのサポートサービスをご利用ください。 サポートスタッフはその情報を元に、正確な回答を迅速に提供します。

テクニカルサポートにお問い合わせになる場合は、まずテクニカルサポート を参照してから、デルへのお問い合わせ に記載されているお住まいの地域の番号にご連絡ください。

ご注文に関する問題

欠品、誤った部品、間違った請求書などの注文に関する問題があれば、デルカスタマーケアにご連絡ください。お電話の際は、納品書または出荷伝票をご用意ください。

製品情報

デルが提供しているその他の製品に関する情報が必要な場合や、ご注文になりたい場合は、デルウェブサイト **www.dell.com/jp** をご覧ください。お住まいの地域のお問い合わせ先電話番号および販売担当者の電話番号に関しては、デルへのお問い合わせ を参照してください。

保証期間中の修理または返品について

『サービス & サポートのご案内』をご覧ください。

お問い合わせになる前に

メモ: お電話の際は、エクスプレスサービスコードをご用意ください。エクスプレスサービスコードがおわかりになると、デルで自動電話サポートシステムをお受けになる場合に、より効率良くサポートが受けられます。また、お客様のサービスタグをお尋ねする場合もございます（お使いのコンピュータの背面または底面にあります）。

必ず Diagnostics（診断）チェックリスト（Diagnostics（診断）チェックリスト を参照）に記入してください。デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。キーボードからコマンドを入力したり、操作時に詳細情報を説明したり、コンピュータ自体でのみ可能な他のトラブルシューティング手順を試してみるようにお願いする場合があります。システムのマニュアルがあることを確認してください。

警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

Diagnostics（診断）チェックリスト
名前：
日付：
住所：
電話番号：
サービスタグ（コンピュータの背面または底面にあるバーコード）：
エクスプレスサービスコード：
返品番号（デルサポート担当者から提供された場合）：
オペレーティングシステムとバージョン：
周辺機器：
拡張カード：
ネットワークに接続されていますか？　はい　いいえ
ネットワーク、バージョン、およびネットワークアダプタ：
プログラムとバージョン：
システムのスタートアップファイルの内容を確認するときは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。コンピュータにプリンタを接続している場合、各ファイルを印刷します。印刷できない場合、各ファイルの内容を記録してからデルにお問い合わせください。
エラーメッセージ、ビープコード、または診断コード：
問題点の説明と実行したトラブルシューティング手順：

デルへのお問い合わせ

米国に居住するお客様は、800-WWW.DELL（800-999-3355）へお電話ください。

メモ: 有効なインターネット接続が利用できない場合、お問い合わせ先の情報はお買い上げ明細書、梱包内容明細書、請求書、または Dell 製品カタログでご参照いただけます。

デルでは、各種のオンラインとお電話によるサポートおよびサービスのオプションを提供しています。国および製品によって、対応範囲に違いがあり、サービスによってはお客様の地域でご利用いただけない場合があります。営業、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスについてデルにお問い合わせになる場合は、

1. **support.jp.dell.com** へアクセスします。
2. ページの下部にある **国 / 地域** ドロップダウンメニューで、お客様の国または地域を確認します。
3. ページの左側にある **お問い合わせ** をクリックします 。
4. 必要に応じて、適切なサービスまたはサポートのリンクを選択します。
5. ご都合に合ったデルへのお問い合わせ方法をお選びください。

目次に戻る

目次に戻る

用語集

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

この用語集に収録されている用語は、情報の目的として提供されています。お使いのコンピュータに搭載されている機能についての記載がない場合もあります。

A

AC — alternating current（交流）- コンピュータの AC アダプタ電源ケーブルをコンセントに差し込むと流れる電気の方式のことです。

ACPI — advanced configuration and power interface - Microsoft® Windows® オペレーティングシステムがコンピュータをスタンバイモードや休止状態モードにして、コンピュータに接続されている各デバイスに供給される電力量を節約できる電源管理規格です。

AGP — accelerated graphics port - システムメモリをビデオ関連の処理に使用できるようにする専用のグラフィックスポートです。AGP を使うとビデオ回路とコンピュータメモリ間のインタフェースが高速化され、True-Color のスムーズなビデオイメージを伝送できます。

AHCI — Advanced Host Controller Interface - SATA ハードディスクドライブ対応のホストコントローラです。AHCI を使用することにより、ストレージドライバでネイティブコマンドキューイング（NCQ）やホットプラグなどのテクノロジが使用可能になります。

ALS — 環境照明センサー - ディスプレイの輝度を調整する機能です。

ASF — alert standards format - ハードウェアおよびソフトウェアの警告を管理コンソールに報告する方式を定義する標準です。ASF は、どのプラットフォームやオペレーティングシステムにも対応できるように設計されています。

B

BIOS — basic input/output system（基本入出力システム）- コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つプログラム（またはユーティリティ）です。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。セットアップユーティリティとも呼ばれています。

Bluetooth® ワイヤレステクノロジ - 短距離内（9 メートル）にある複数のネットワークデバイスが、お互いを自動的に認識できるようにするワイヤレステクノロジ標準です。

bps — ビット / 秒 - データの転送速度を計測する標準単位です。

BTU — British thermal unit（英国熱量単位）- 熱量の単位です。

C

C — セルシウス（摂氏）- 温度の単位で、水の氷点を 0 度、沸点を 100 度としています。

CD-R — CD recordable - 書き込み可能な CD です。CD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

CD-RW — CD rewritable - 書き換え可能な CD です。データを CD-RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます（再書き込み）。

CD-RW ドライブ — CD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能なCD）ディスクや CD-R（書き込み可能なCD）ディスクにデータを書き込むことができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

CD-RW / DVD ドライブ — コンボドライブとも呼ばれます。CD および DVD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込んだりすることができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

COA — Certificate of Authenticity（実物証明書）- Windows の英数文字のコードで、コンピュータのラベルに印刷されています。Product Key（プロダクトキー）や Product ID（プロダクト ID）とも呼ばれます。

CRIMM — continuity rambus in-line memory module（連続式 RIMM）- メモリチップの搭載されていない特殊なモジュールで、使用されていない RIMM スロットに装着するために使用されます。

D

DDR SDRAM — double-data-rate SDRAM（ダブルデータ速度 SDRAM）- データバーストサイクルを倍にして、システムの性能を向上させる SDRAM の一種です。

DDR2 SDRAM — double-data-rate 2 SDRAM（ダブルデータ速度 2 SDRAM）- 4 ビットのプリフェッチおよびその他のアーキテクチャの変更を使用して、メモリスピードを 400 MHz 以上に向上させる、DDR SDRAM の一種です。

DIMM — dual in-line memory module（デュアルインラインメモリモジュール）- システム基板上のメモリモジュールに接続する、メモリチップ搭載の回路基板です。

DIN コネクタ — 丸い、6 ピンのコネクタで、DIN（ドイツ工業規格）に準拠しています。通常は、PS/2 キーボードまたはマウスケーブルのコネクタを接続するために使用します。

DMA — direct memory access （直接メモリアクセス）- DMA チャネルを使うと、ある種の RAM とデバイス間でのデータ転送がプロセッサを介さずに行えるようになります。

DMTF — Distributed Management Task Force - 分散型デスクトップ、ネットワーク、企業、およびインターネット環境における管理基準を開発するハードウェアおよびソフトウェア会社の団体で

す。

DRAM — dynamic random-access memory - コンデンサが搭載された集積回路に情報を保存するメモリです。

DSL - Digital Subscriber Line（デジタル加入者回線）- アナログ電話回線を介して、安定した高速インターネット接続を提供するテクノロジです。

DVD-R — DVD recordable - 記録可能な DVD です。DVD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

DVD+RW — DVD rewritable - 書き換え可能な DVD です。データを DVD+RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます（再書き込み）。（DVD+RW テクノロジは DVD-RW テクノロジとは異なります。）

DVD+RW ドライブ — DVD やほとんどの CD メディアを読み込んだり、DVD+RW（書き換え可能 DVD）に書き込んだりすることができるドライブです。

DVI — digital video interface（デジタルビデオインタフェース）- コンピュータとデジタルビデオディスプレイ間のデジタル転送用の標準です。

E

ECC — error checking and correction（エラーチェックおよび訂正） — メモリにデータを書き込んだり、メモリからデータを読み取る際に、データの正確さを検査する特別な回路を搭載しているメモリです。

ECP — extended capabilities port - 改良された双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタのデザインです。EPP に似て、ECP はデータ転送にダイレクトメモリアクセスを使用して性能を向上させます。

EIDE — enhanced integrated device electronics - ハードディスクドライブと CD ドライブ用の IDE インタフェースの改良バージョンです。

EMI — electromagnetic interference（電磁波障害） — 電磁放射線によって引き起こされる電気障害です。

ENERGY STAR® - Environmental Protection Agency（米国環境保護局）が規定する、全体的な電力の消費量を減らす要件です。

EPP — enhanced parallel port - 双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタのデザインです。

ESD — electrostatic discharge（静電気放出） — 静電気の急速な放電のことです。ESD は、コンピュータや通信機器に使われている集積回路を損傷することがあります。

ExpressCard — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。ExpressCard の一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。ExpressCard は、PCI Express と USB 2.0 の両規格をサポートします。

F

FBD — fully-buffered DIMM - DDR2 DRAM チップ、および DDR2 SDRAM チップとシステム間の通信を高速化するアドバンスドメモリバッファ（AMB）を搭載した DIMM です。

FCC — Federal Communications Commission（米国連邦通信委員会） — コンピュータやその他の電子機器が放出する放射線の量を規制する通信関連の条例を執行するアメリカの機関です。

FSB — front side bus — マイクロプロセッサと RAM 間のデータ経路と物理的なインタフェースです。

FTP — file transfer protocol（ファイル転送プロトコル） — インターネットに接続されたコンピュータ間で、ファイルを交換するための標準インターネットプロトコルです。

G

G — グラビティ - 重力の計測単位です。

GB — ギガバイト - データの単位です。1 GB は 1024 MB（1,073,741,824 バイト）です。ハードディスクドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000,000 バイトに切り捨てられることもあります。

GHz — ギガヘルツ — 周波数の計測単位です。1 GHz は 10 億 Hz または 1,000 MHz です。通常、コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は GHz 単位で計測されます。

GUI — graphical user interface - メニュー、ウィンドウ、およびアイコンでユーザーと相互にやり取りするソフトウェアです。Windows オペレーティングシステムで動作するほとんどのプログラムは GUI です。

H

HTTP — hypertext transfer protocol — インターネットに接続されたコンピュータ間でファイルを交換するためのプロトコルです。

HyperTransport — HyperTransport は、ボトルネックを除去し、システム帯域幅を増やし、システムレイテンシを減少させることによって、コンピュータ性能を全体的に向上させる AMD™ テクノロジです。

Hz — ヘルツ - 周波数の単位です。1 秒間 1 サイクルで周波数 1 Hz です。コンピュータや電子機器では、キロヘルツ（kHz）、メガヘルツ（MHz）、ギガヘルツ（GHz）、またはテラヘルツ（THz）単位で計測される場合もあります。

I

IC — integrated circuit（集積回路）- コンピュータ、オーディオ、およびビデオ装置用に製造された、何百万もの小電子コンポーネントが搭載されている半導体基板、またはチップです。

IDE — integrated device electronics - ハードディスクドライブまたは CD ドライブにコントローラが内蔵されている大容量ストレージデバイス用のインタフェースです。

IEEE 1394 — Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. - コンピュータにデジタルカメラや DVD プレーヤーなどの、IEEE 1394 互換デバイスを接続するのに使用される高性能シリアルバスです。

I/O — input/output（入出力）- コンピュータにデータを入力したり、コンピュータからデータを出力する動作、またはデバイスです。キーボードやプリンタは I/O デバイスです。

I/O アドレス — 特定のデバイス（シリアルコネクタ、パラレルコネクタ、または拡張スロットなど）に関連する RAM のアドレスで、プロセッサがデバイスと通信できるようにします。

IrDA — Infrared Data Association - 赤外線通信の国際規格を標準化する団体です。

IRQ — interrupt request（割り込み要求）- デバイスがプロセッサと通信できるように、特定のデバイスに割り当てられた電子的経路です。すべてのデバイス接続に IRQ を割り当てる必要があります。2 つのデバイスに同じ IRQ を割り当てることはできますが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ISP — Internet service provider（インターネットサービスプロバイダ）- ホストサーバーへのアクセスを可能にし、インターネットへの直接接続、E-メールの送受信、およびウェブサイトへのアクセスなどのサービスを提供する会社です。通常、ISP はソフトウェアのパッケージ、ユーザー名、およびアクセス用の電話番号を有料（月払い）で提供します。

K

Kb — キロビット — データの単位です。1 Kb は、1,024 ビットです。メモリ集積回路の容量の単位です。

KB — キロバイト — データの単位です。1 KB は 1,024 バイトです。または、1,000 バイトとすることもあります。

kHz — キロヘルツ — 1,000 Hz に相当する周波数の単位です。

L

LAN — local area network（ローカルエリアネットワーク） — 狭い範囲にわたるコンピュータネットワークです。LAN は通常、1 棟の建物内や隣接する 2、3 棟の建物内に限定されます。LAN は電話回線や電波を使って他の離れた LAN と接続し、WAN（ワイドエリアネットワーク）を構成できます。

LCD — liquid crystal display（液晶ディスプレイ） — ノートブックコンピュータのディスプレイやフラットパネルディスプレイに用いられる技術です。

LED — light-emitting diode（発光ダイオード） — コンピュータの状態を示す光を発する電子部品です。

LPT — line print terminal — プリンタや他のパラレルデバイスへのパラレル接続のためのポートです。

M

Mb — メガビット — メモリチップ容量の単位です。1 Mb は 1,024 Kb です。

Mbps — メガビット / 秒 — 1,000,000 ビット / 秒です。通常、ネットワークやモデムなどのデータ転送速度の計測単位に使用します。

MB — メガバイト — 1,048,576 バイトに相当するデータストレージの単位です。または 1,024 KB を表します。ハードディスクドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000 バイトに切り捨てられて表示されることもあります。

MB/sec — メガバイト / 秒 — 1,000,000 バイト / 秒です。通常、データの転送速度の計測単位に使用します。

MHz — メガヘルツ — 周波数の単位です。1 秒間に 1,000,000 サイクルで 1 MHz です。通常、コンピュータのマイクロプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は MHz 単位で計測されます。

MP — メガピクセル — デジタルカメラで使用される画像の解像度の単位です。

ms — ミリ秒 — 1,000 分の 1 秒に相当する時間の単位です。ストレージデバイスなどのアクセス速度の計測に使用します。

N

NIC — ネットワークアダプタを参照してください。

ns — ナノ秒 — 10 億分の 1 秒に相当する時間の単位です。

NVRAM — nonvolatile random access memory（不揮発性ランダムアクセスメモリ） — コンピュータの電源が切られたり、外部電源が停止した場合にデータを保存するメモリの一種です。NVRAM は、現在の日付、時刻、およびお客様が設定できるその他のセットアップオプションなどのコンピュータ設定情報を維持するのに利用されます。

P

PC カード — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。PC カードの一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。

PCI — peripheral component interconnect — PCI は、32 ビットおよび 64 ビットのデータ経路をサポートするローカルバスで、プロセッサとビデオ、各種ドライブ、ネットワークなどのデバイス間に高速データ経路を提供します。

PCI Express — プロセッサとそれに取り付けられたデバイスとのデータ転送速度を向上させる、PCI インタフェースの修正版です。PCI Express は、250 MB/ 秒～ 4 GB/ 秒の速度でデータを転送できます。PCI Express チップセットおよびデバイスが異なる速度で使用できる場合は、動作速度が遅くなります。

PCMCIA — Personal Computer Memory Card International Association — PC カードの規格を協議する国際的組織です。

PIO — programmed input/output — データパスの一部としてプロセッサを経由した、2 つのデバイス間のデータ転送方法です。

POST — power-on self-test（電源投入時の自己診断） — BIOS が自動的にロードする診断プログラムです。メモリ、ハードディスクドライブ、およびビデオなどのコンピュータの主要コンポーネントに基本的なテストを実行します。POST で問題が検出されなかった場合、コンピュータは起動を続行します。

PS/2 — personal system/2 — PS/2 互換のキーボード、マウス、またはキーパッドを接続するコネクタの一種です。

PXE — pre-boot execution environment — WfM（Wired for Management）標準で、オペレーティングシステムのないネットワークコンピュータを設定して、リモートで起動できるようにします。

R

RAID — redundant array of independent disks — データの冗長性を提供する方法です。一般的に実装される RAID には RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、および RAID 50 があります。

RAM — random-access memory（ランダムアクセスメモリ） — プログラムの命令やデータを保存するコンピュータの主要な一時記憶領域です。RAM に保存されている情報は、コンピュータをシャットダウンすると失われます。

readme ファイル — ソフトウェアのパッケージまたはハードウェア製品に添付されているテキストファイルです。通常、readme ファイルには、インストール手順、新しく付け加えられた機能の説明、マニュアルに記載されていない修正などが記載されています。

RFI — radio frequency interference（無線電波障害） — 10 kHz から 100,000 MHz までの範囲の通常の無線周波数で発生する障害です。無線周波は電磁周波数帯域の低域に属し、赤外線や光などの高周波よりも障害を起こしやすい傾向があります。

ROM — read-only memory（読み取り専用メモリ） — コンピュータが削除したり書き込みできないデータやプログラムを保存するメモリです。RAM と異なり、ROM はコンピュータの電源が切れても内容を保持します。コンピュータの動作に不可欠のプログラムで ROM に常駐しているものがいくつかあります。

RPM — revolutions per minute — 1 分間に発生する回転数です。ハードディスクドライブ速度の計測に使用します。

RTC — real time clock（リアルタイムクロック） — システム基板上にあるバッテリで動く時計で、コンピュータの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

RTCRST — real-time clock reset（リアルタイムクロックリセット） — いくつかのコンピュータに搭載されているシステム基板上のジャンパで、問題が発生した場合のトラブルシューティングに利用できます。

S

SAS — serial attached SCSI — 原型の SCSI パラレルアーキテクチャとは対照的に、より高速のシリアルバージョンの SCSI インタフェースです。

SATA — serial ATA（シリアル ATA） — より高速のシリアルバージョンの ATA（IDE）インタフェースです。

SCSI — small computer system interface — ハードディスクドライブ、CD ドライブ、プリンタ、スキャナなどのデバイスをコンピュータに接続するための高速インタフェースです。SCSI では、単一のコントローラを使って多数のデバイスを接続できます。SCSI コントローラバスでは、個々の識別番号を使って各デバイスにアクセスします。

SDRAM — synchronous dynamic random-access memory（同期ダイナミックランダムアクセスメモリ） — DRAM のタイプで、プロセッサの最適クロック速度と同期化されています。

SIM — サブスクライバ識別モジュール — SIM カードには、音声通信およびデータ通信を暗号化するマイクロチップが内蔵されています。SIM カードは電話やノートブックコンピュータに使用できます。

S/PDIF — Sony/Philips Digital Interface — ファイルの質が低下する可能性があるアナログ形式に変換せずに、1 つのファイルから別のファイルにオーディオを転送できるオーディオ転送用ファイルフォーマットです。

Strike Zone™ — （コンピュータの電源がオンまたはオフに関わらず）コンピュータが共振ショックを受けた場合、または落下した場合に制動装置として機能し、ハードディスクドライブを保護するプラットフォームベースの強化領域です。

SVGA — super-video graphics array — ビデオカードとコントローラ用のビデオ標準です。SVGA の通常の解像度は 800 × 600 および 1024 × 768 です。

プログラムが表示する色数と解像度は、コンピュータに取り付けられているモニタ、ビデオコントローラとドライバ、およびビデオメモリの容量によって異なります。

S ビデオ TV 出力 — テレビまたはデジタルオーディオデバイスをコンピュータに接続するために使われるコネクタです。

SXGA — super-extended graphics array — 1280 × 1024 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

SXGA+ — super-extended graphics array plus — 1400 × 1050 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

T

TAPI — telephony application programming interface — 音声、データ、ファックス、ビデオなどの各種テレフォニーデバイスが Windows のプログラムで使用できるようになります。

TPM — trusted platform module — ハードウェアベースのセキュリティ機能です。セキュリティソフトウェアと併用して、ファイル保護や E-メール保護などの機能を有効にすることにより、ネットワークおよびコンピュータのセキュリティを強化します。

U

UMA — unified memory allocation（統合メモリ振り分け） — ビデオに動的に振り分けられるシステムメモリです。

UPS — uninterruptible power supply（無停電電源装置） — 電気的な障害が起きた場合や、電圧レベルが低下した場合に使用されるバックアップ電源です。UPS を設置すると、電源が切れた場合でも限られた時間コンピュータは動作することができます。通常、UPS システムは、過電流を抑え電圧を調整します。小型の UPS システムで数分間電力を供給するので、コンピュータをシャットダウンすることが可能です。

USB — universal serial bus（ユニバーサルシリアルバス） — USB 互換キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナ、スピーカ、プリンタ、ブロードバンドデバイス（DSL およびケーブルモデム）、撮像装置、またはストレージデバイスなどの低速デバイス用ハードウェアインタフェースです。コンピュータの 4 ピンソケットかコンピュータに接続されたマルチポートハブに直接デバイスを接続します。USB デバイスは、コンピュータの電源が入っていても接続したり取り外したりすることができます。また、デイジーチェーン型に接続することもできます。

UTP — unshielded twisted pair（シールドなしツイストペア） — ほとんどの電話回線利用のネットワークやその他の一部のネットワークで利用されているケーブルの種類です。電磁波障害から保護するためにワイヤのペアに金属製の被覆をほどこす代わりに、シールドなしのワイヤのペアがねじられています。

UXGA — ultra extended graphics array — 1600 × 1200 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

V

V — ボルト — 電位または起電力の計測単位です。1 ボルトは、1 アンペアの電流を通ずる抵抗 1 オームの導線の両端の電位の差です。

W

W — ワット — 電力の計測単位です。1 ワットは 1 ボルトで流れる 1 アンペアの電流を指します。

WHr — ワット時 — バッテリのおおよその充電容量を表すのに通常使われる単位です。たとえば、66 WHr のバッテリは 66 W の電力を 1 時間、33 W を 2 時間供給できます。

WWAN — Wireless Wide Area Network（ワイヤレスワイドエリアネットワーク）の略です。セルラーテクノロジを使用した、ワイヤレスの高速データネットワークで、WLAN よりもはるかに広い地域に対応します。

WXGA — wide-aspect extended graphics array — 1280 × 800 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

X

XGA — extended graphics array — 1024 × 768 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

Z

ZIF — zero insertion force — コンピュータチップまたはソケットのどちらにもまったく力を加えないで、チップを取り付けまたは取り外しできるソケットやコネクタの一種です。

Zip — 一般的なデータの圧縮フォーマットです。Zip フォーマットで圧縮されているファイルを Zip ファイルといい、通常、ファイル名の拡張子が **.zip** となります。特別な Zip ファイルに自己解凍型ファイルがあり、ファイル名の拡張子は **.exe** となります。自己解凍型ファイルは、ファイルをダブルクリックするだけで自動的に解凍できます。

Zip ドライブ — Iomega Corporation によって開発された大容量のフロッピードライブで、Zip ディスクと呼ばれる 3.5 インチのリムーバルディスクを使用します。Zip ディスクは標準のフロッピーディスクよりもやや大きく約2 倍の厚みがあり、100 MB のデータを保持できます。

あ

アンチウイルスソフトウェア — お使いのコンピュータからウイルスを見つけ出して隔離し、検疫して、除去するように設計されたプログラムです。

ウイルス — 嫌がらせ、またはコンピュータのデータを破壊する目的で作られたプログラムです。ウイルスプログラムは、ウイルス感染したディスク、インターネットからダウンロードしたソフトウェア、または E-メールの添付ファイルを経由してコンピュータから別のコンピュータへ感染します。ウイルス感染したプログラムを起動すると、プログラムに潜伏したウイルスも起動します。

一般的なウイルスに、フロッピーディスクのブートセクターに潜伏するブートウイルスがあります。フロッピーディスクを挿入したままコンピュータをシャットダウンすると、次の起動時に、コンピュータはオペレーティングシステムを探すためフロッピーディスクのブートセクターにアクセスします。このアクセスでコンピュータがウイルスに感染します。一度コンピュータがウイルスに感染すると、ブートウイルスは除去されるまで、読み書きされるすべてのフロッピーディスクにウイルスをコピーします。

エクスプレスサービスコード — Dell™ コンピュータのラベルに付いている数字のコードです。デルにお問い合わせの際は、エクスプレスサービスコードをお伝えください。エクスプレスサービスコードが利用できない国もあります。

オンボード — 通常、コンピュータのシステム基板上に物理的に搭載されているコンポーネントを指します。<u>ビルトイン</u>とも呼ばれます。

か

カーソル — キーボード、タッチパッド、またはマウスが次にどこで動作するかを示すディスプレイや画面上の目印です。通常は点滅する棒線かアンダーライン、または小さな矢印で表示されます。

解像度 — プリンタで印刷される画像や、またはモニタに表示される画像がどのくらい鮮明かという度合です。解像度を高い数値に設定しているほど鮮明です。

書き込み保護 — ファイルやメディアのデータ内容を変更不可に設定することです。書き込み保護を設定しデータを変更または破壊されることのないように保護します。3.5 インチのフロッピーディスクに書き込み保護を設定する場合、書き込み保護設定タブをスライドさせて書き込み不可の位置にします。

拡張カード — コンピュータのシステム基板上の拡張スロットに装着する電子回路基板で、コンピュータの性能を向上させます。ビデオカード、モデムカード、サウンドカードなどがあります。

拡張型 PC カード — 拡張型 PC カードは、取り付けた際に PC カードスロットからカードの端が突き出しています。

拡張スロット — 拡張カードを挿入してシステムバスに接続する、システム基板上のコネクタです（コンピュータによって異なる場合もあります）。

拡張ディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニタを使えるようにするディスプレイの設定です。<u>デュアルディスプレイモード</u>とも呼ばれます。

壁紙 — Windows デスクトップの背景となる模様や絵柄です。壁紙を変更するには Windows コントロールパネルから変更します。また、気に入った絵柄を読み込んで壁紙を作成することができます。

キーの組み合わせ — 複数のキーを同時に押して実行するコマンドです。

起動順序 — コンピュータが起動を試みるデバイスの順序を指定します。

起動メディア — コンピュータを起動するために使用するディスクです。ハードディスクドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 DVD、CD またはフロッピーディスクが必要になりますので、常備しておきます。お使いの『Drivers and Utilities』メディアは起動メディアです。

キャッシュ — 特殊な高速ストレージ機構で、メインメモリの予約領域、または独立した高速ストレージデバイスです。キャッシュは、プロセッサのオペレーションスピードを向上させます。

L1 キャッシュ — プロセッサの内部に設置されているプライマリキャッシュ。

L2 キャッシュ — プロセッサに外付けされた、またはプロセッサアーキテクチャに組み込まれたセカンダリキャッシュ。

休止状態モード — メモリ内のすべてをハードディスクドライブ上の予約領域に保存してからコンピュータの電源を切る、省電力モードです。コンピュータを再起動すると、ハードディスクドライブに保存されているメモリ情報が自動的に復元されます。

クロックスピード — システムバスに接続されているコンピュータコンポーネントがどのくらいの速さで動作するかを示す、MHz で示される速度です。

グラフィックスモード — <u>x</u> 水平ピクセル数 X <u>y</u> 垂直ピクセル数 X <u>z</u> 色数で表されるビデオモードです。グラフィックスモードは、どんな形やフォントも表現できます。

光学式ドライブ — CD、DVD、または DVD +RW から、光学技術を使用してデータを読み書きするドライブです。光学式ドライブには、CD ドライブ、DVD ドライブ、CD-RW ドライブ、および CD-RW/DVD コンボドライブが含まれます。

コントローラ — プロセッサとメモリ間、またはプロセッサとデバイス間のデータ転送を制御するチップです。

コントロールパネル — 画面設定などのオペレーティングシステムやハードウェアの設定を変更するためのユーティリティです。

さ

サージプロテクタ — コンセントを介してコンピュータに影響を与える電圧変動（雷などの原因で）から、コンピュータを保護します サージプロテクタは、落雷や通常の AC ライン電圧レベルが 20 %以上低下する電圧変動による停電からはコンピュータを保護することはできません。

ネットワーク接続はサージプロテクタでは保護できません。雷雨時は、必ずネットワークケーブルをネットワークコネクタから外してください。

サービスタグ — コンピュータに貼ってあるバーコードラベルのことで、デルサポートの **support.jp.dell.com** にアクセスしたり、デルのカスタマーサービスやテクニカルサポートに電話で問い合わせたりする場合に必要な識別番号が書いてあります。

システム基板 — コンピュータのメイン回路基板です。<u>マザーボード</u>とも呼ばれます。

指紋リーダー — 固有の指紋を使ってユーザーの身元証明を行う読み取りセンサーで、コンピュータのセキュリティ保護をサポートします。

ショートカット — 頻繁に使用するプログラム、ファイル、フォルダ、およびドライブにすばやくアクセスできるようにするアイコンです。ショートカットを Windows デスクトップ上に作成し、ショートカットアイコンをダブルクリックすると、それに対応するフォルダやファイルを検索せずに開くことができます。ショートカットアイコンは、ファイルが置かれている場所を変更するわけではありません。ショートカットアイコンを削除しても、元のファイルには何の影響もありません。また、ショートカットのアイコン名を変更することもできます。

シリアルコネクタ — I/O ポートは、コンピュータにハンドヘルドデジタルデバイスやデジタルカメラなどのデバイスを接続するためによく使用されます。

スキャンディスク — Microsoft のユーティリティで、ファイル、フォルダ、ハードディスクの表面のエラーをチェックします。コンピュータの反応が止まって、コンピュータを再起動した際にスキャンディスクが実行されることがあります。

スタンバイモード — コンピュータの不必要な動作をシャットダウンして節電する、省電力モードです。

スマートカード — プロセッサとメモリチップに内蔵されているカードです。スマートカードは、スマートカード搭載のコンピュータでのユーザー認証に利用できます。

赤外線センサー — ケーブルを利用しなくても、コンピュータと赤外線互換デバイス間のデータ転送ができるポートです。

セットアッププログラム — ハードウェアやソフトウェアをインストールしたり設定するために使うプログラムです。**setup.exe** または **install.exe** というプログラムが Windows 用ソフトウェアに付属しています。<u>セットアッププログラム</u>は<u>セットアップユーティリティ</u>とは異なります。

セットアップユーティリティ — コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つユーティリティです。セットアップユーティリティは BIOS で日時やシステムパスワードなどのようなユーザーが選択可能なオプションの設定ができます。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。

た

タスクトレイ — コンピュータの時計、音量調節、およびプリンタの状況など、プログラムやコンピュータの機能に素早くアクセスできるアイコンが表示されている Windows タスクバーの領域です。システムトレイとも呼ばれます。

通行許可証 — 物品を外国へ一時的に持ち込む場合、一時輸入通関ができる通関手帳です。商品パスポートとも呼ばれます。

テキストエディタ — たとえば、Windows のメモ帳など、テキストファイルを作成および編集するためのアプリケーションプログラムです。テキストエディタには通常、ワードラップやフォーマット（アンダーラインのオプションやフォントの変換など）の機能はありません。

ディスクストライピング — 複数のディスクドライブにまたがってデータを分散させる技術です。ディスクのストライピングは、ディスクストレージからデータを取り出す動作を高速化します。通常、ディスクのストライピングを利用しているコンピュータではユーザーがデータユニットサイズまたはストライプ幅を選ぶことができます。

デバイス — コンピュータ内部に取り付けられているか、またはコンピュータに接続されているディスクドライブ、プリンタ、キーボードなどのハードウェアです。

デバイスドライバ — ドライバを参照してください。

デュアルコア — 1 つのプロセッサパッケージに 2 つの物理計算ユニットを集積し、それによって計算効率とマルチタスク機能を向上させたテクノロジです。

デュアルディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニタを使えるようにするディスプレイの設定です。デュアルモニタとも呼ばれます。

トラベルモジュール — ノートブックコンピュータの重量を減らすために、モジュールベイの中に設置できるよう設計されているプラスチック製のデバイスです。

ドッキングデバイス — APR を参照してください。

ドメイン — ネットワーク上のコンピュータ、プログラム、およびデバイスのグループで、特定のユーザーグループによって使用される共通のルールと手順のある単位として管理されます。ユーザーは、ドメインにログオンしてリソースへのアクセスを取得します。

ドライバ — プリンタなどのデバイスが、オペレーティングシステムに制御されるようにするためのソフトウェアです。多くのデバイスは、コンピュータに正しいドライバがインストールされていない場合、正常に動作しません。

な

ネットワークアダプタ — ネットワーク機能を提供するチップです。コンピュータのシステム基板にネットワークアダプタが内蔵されていたり、アダプタが内蔵されている PC カードもあります。ネットワークアダプタは、NIC（ネットワークインタフェースコントローラ）とも呼ばれます。

は

ハードディスクドライブ — ハードディスクのデータを読み書きするドライブです。ハードディスクドライブとハードディスクは同じ意味としてどちらかが使われています。

バイト — コンピュータで使われる基本的なデータ単位です。1 バイトは 8 ビットです。

バッテリ駆動時間 — ノートブックコンピュータのバッテリでコンピュータを駆動できる持続時間（分または時間）です。

バッテリの寿命 — ノートブックコンピュータのバッテリが、消耗と再充電を繰り返すことのできる期間（年数）です。

パーティション — ハードディスクドライブ上の物理ストレージ領域です。1 つ以上の論理ストレージ領域（論理ドライブ）に割り当てられます。それぞれのパーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

バス — コンピュータのコンポーネント間で情報を通信する経路です。

バス速度 — バスがどのくらいの速さで情報を転送できるかを示す、MHz で示される速度です。

パラレルコネクタ — I/O ポートは、コンピュータにパラレルプリンタを接続する場合などに使用されます。LPT ポートとも呼ばれます。

ヒートシンク — 放熱を助けるプロセッサに付属する金属板です。

ビット — コンピュータが認識するデータの最小単位です。

ビデオ解像度 — 解像度を参照してください。

ビデオコントローラ — お使いのコンピュータに（モニタの組み合わせにおいて）ビデオ機能を提供する、ビデオカードまたは（オンボードビデオコントローラ搭載のコンピュータの）システム基板の回路です。

ビデオメモリ — ビデオ機能専用のメモリチップで構成されるメモリです。通常、ビデオメモリはシステムメモリよりも高速です。取り付けられているビデオメモリの量は、主にプログラムが表示できる色数に影響を与えます。

ビデオモード — テキストやグラフィックスをモニタに表示する際のモードです。グラフィックスをベースにしたソフトウェア（Windows オペレーティングシステムなど）は、x 水平ピクセル数 × y 垂直ピクセル数 × z 色数で表されるビデオモードで表示されます。文字をベースにしたソフトウェア（テキストエディタなど）は、x 列 × y 行の文字数で表されるビデオモードで表示されます。

ピクセル — ディスプレイ画面の構成単位である点です。ピクセルが縦と横に並び、イメージを作ります。ビデオの解像度（800 × 600 など）は、上下左右に並ぶピクセルの数で表します。

ファーレンハイト（華氏） — 温度の単位で、水の氷点を 32 度、沸点を 212 度としています。

フォーマット — ファイルを保存するためにドライブやディスクを準備することです。ドライブまたはディスクをフォーマットするとデータはすべて消失します。

フォルダ — ディスクやドライブ上のファイルを整頓したりグループ化したりする入れ物です。フォルダ中のファイルは、名前や日付やサイズなどの順番で表示できます。

プラグアンドプレイ — デバイスを自動的に設定するコンピュータの機能です。BIOS、オペレーティングシステム、およびすべてのデバイスがプラグアンドプレイ対応の場合、プラグアンドプレイは、自動インストール、設定、既存のハードウェアとの互換性を提供します。

プロセッサ — コンピュータ内部で中心的に演算を行うコンピュータチップです。プロセッサは、CPU（中央演算処理装置）とも呼ばれます。

ま

ミニカード - 通信用 NIC などの内蔵周辺機器用に設計された小型のカードです。ミニカードの機能は、標準の PCI 拡張カードと同等です。

ミニ PCI — モデムや NIC など通信機能を主とする内蔵周辺機器の規格です。ミニ PCI カードは、標準の PCI 拡張カードと同等の機能を持つ小型の外付けカードです。

メモリ — コンピュータ内部にある、一時的にデータを保存する領域です。メモリにあるデータは一時的に格納されているだけなので、作業中は時々ファイルを保存するようお勧めします。また、コンピュータをシャットダウンするときもファイルを保存してください。コンピュータのメモリには、RAM、ROM、およびビデオメモリなど何種類かあります。通常、メモリというと RAM メモリを指します。

メモリアドレス — データを一時的に RAM に保存する特定の場所です。

メモリマッピング- スタートアップ時に、コンピュータが物理的な場所にメモリアドレスを割り当てる処理です。デバイスとソフトウェアが、プロセッサによりアクセスできる情報を識別できるようになります。

メモリモジュール — システム基板に接続されている、メモリチップを搭載した小型回路基板です。

モジュールベイ — 光学ドライブ、セカンドバッテリ、または Dell TravelLite™ モジュールなどのようなデバイスをサポートするベイです。メディアベイを参照してください。

モデム — アナログ電話回線を介して他のコンピュータと通信するためのデバイスです。モデムには 外付けモデム、PC カード、および内蔵モデムの 3 種類があります。通常、モデムはインターネットへの接続や E-メールの交換に使用されます。

読み取り専用 — 表示することはできますが、編集したり削除したりすることができないデータやファイルです。次のような場合にファイルを読み取り専用に設定できます。

- フロッピーディスク、CD、または DVD を書き込み防止に設定している場合
- ファイルがネットワーク上のディレクトリにあり、システム管理者がアクセス権限に特定の個人だけを許可している場合

ら

リフレッシュレート — 画面上のビデオイメージが再描画される周波数です。単位は Hz で、このリフレッシュレートの周波数で画面の水平走査線（垂直周波数とも呼ばれます）が再描画されます。リフレッシュレートが高いほど、ビデオのちらつきが少なく見えます。

ローカルバス — デバイスにプロセッサへの高速スループットを提供するデータバスです。

ワイヤレス LAN — Wireless Local Area Network（ワイヤレスローカルエリアネットワーク）の略です。インターネットアクセスを可能にするアクセスポイントやワイヤレスルーターを使用し、電波を介して互いに通信する一連の相互接続コンピュータを指します。

目次に戻る

目次に戻る

メモリ

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- DDR2 メモリの概要
- 4 GB またはそれ以上の構成のメモリのアドレス設定（32 ビットオペレーティングシステムのみ）
- メモリの取り外し
- メモリの取り付け

お使いのコンピュータは、非 ECC DDR2 メモリのみをサポートしています。お使いのコンピュータでサポートされているメモリの種類については、お使いのコンピュータの仕様の「メモリ」を参照してください。

- ミニタワーコンピュータ（モデル ＃DCSM）仕様を参照
- デスクトップコンピュータ（モデル ＃ DCNE）仕様を参照
- スモールフォームファクターコンピュータ（モデル ＃ DCCY）の仕様を参照

注意: 新しいメモリモジュールを取り付ける前に、お使いのコンピュータ用の BIOS をデルサポートサイト **support.jp.dell.com** からダウンロードしてください。

メモ: デルから購入されたメモリは、お使いのコンピュータの保証に含まれます。

DDR2 メモリの概要

デュアルチャネル DDR2 メモリモジュールは、同じメモリサイズのものを 2 枚 1 組のペアで取り付ける必要があります。各チャネルに同じメモリ容量のペアで DDR2 メモリモジュールが取り付けられていなくても、コンピュータは動作し続けますが、パフォーマンスが少し低下します。モジュールの右上角のラベルを参照して、モジュールの容量を確認します。

注意: ECC メモリモジュールは装着しないでください。システムが起動しなかったり、パフォーマンスに影響を及ぼす原因となる場合があります。

メモ: 必ず、システム基板に示されている順番で DDR2 メモリモジュールを装着してください。

推奨されるメモリ構成は、以下のとおりです。

- 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM1 および DIMM2 に装着

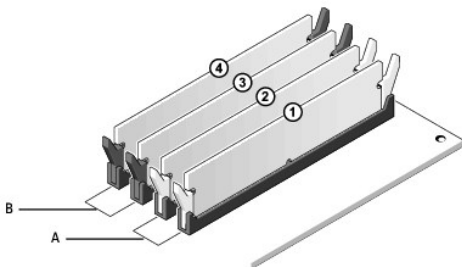
  または

- 単一のメモリモジュールをコネクタ DIMM1 に装着

  または

- 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM1 および DIMM2 に装着し、コネクタ DIMM3 および DIMM4 に別のペアを装着

別のコネクタにメモリモジュールを装着する前に、DIMM1 コネクタ（システム基板のエッジに最も近いコネクタ）に単一メモリモジュールを装着していることを確認してください。

ミニタワー、デスクトップ、スモールフォームファクターのペア

A	コネクタ DIMM1 および DIMM2（白色の固定クリップ）に取り付けられた同じサイズのメモリモジュールのペア
B	コネクタ DIMM3 および DIMM4（黒色の固定クリップ）に取り付けられた同じサイズのメモリモジュールのペア

4 GB またはそれ以上の構成のメモリのアドレス設定（32 ビットオペレーティングシステムのみ）

このコンピュータは、最大 8 GB のメモリをサポートします。Microsoft® Windows® XP などの現在の 32 ビットオペレーティングシステムの最大アドレススペースは 4 GB です。ただし、オペレーティングシステムが使用できるメモリの容量は取り付けられたメモリの容量よりも少なくなります。コンピュータ内の特定のコンポーネントは、4 GB レンジ内にアドレススペースを必要とします。これらのコンポーネント用に予約されたアドレススペースは、コンピュータメモリによっては使用されません。

以下のコンポーネントはメモリアドレススペースを必要とします。

- システム ROM
- APIC
- 内蔵 PCI デバイス（ネットワークコネクタおよび SCSI コントローラなど）
- PCI カード
- グラフィックスカード
- PCI Express カード（取り付けられた場合）

システムの起動時に、BIOS はアドレススペースを必要とするコンポーネントを認識します。BIOS は予約された必要なアドレススペースの容量を動的に計算します。そして BIOS は、4 GB から予約済みアドレススペースを減算し、利用可能なスペースの容量を確定します。

- 取り付けられたコンピュータメモリの総量が、利用可能なアドレススペースより少ない場合、取り付けられたすべてのコンピュータメモリは、オペレーティングシステムによって利用されます。
- 取り付けられたコンピュータメモリの総量が、利用可能なアドレススペースと同じか、それより多い場合、オペレーティングシステムが取り付けられたコンピュータメモリの一部分を使用します。

メモリの取り外し

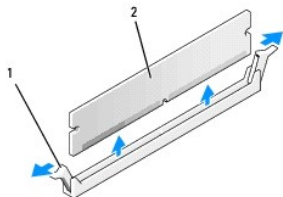
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

注意: メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリを取り外した場合、新しく装着するモジュールをデルからお買い上げになったとしても、元のメモリを新しいメモリとは別に保管してください。できるだけ、新しいメモリモジュールと元のメモリモジュールをペアにしないでください。ペアにすると、コンピュータが正しく起動しないことがあります。元のメモリモジュールは、必ずコネクタ DIMM1 と DIMM2、または DIMM3 と DIMM4 にペアで装着してください。

注意: デスクトップコンピュータの DIMM2 および DIMM4 からメモリモジュールを取り外す際、光学ドライブを取り外す必要があります（光学ドライブ を参照）。それを怠ると、メモリモジュールおよび DIMM ソケットに損傷を与える場合があります。

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. お使いのコンピュータによって、次の手順を実行します。
   - デスクトップコンピュータの場合、光学ドライブを取り外します（光学ドライブの取り外し を参照）。
   - スモールフォームファクターコンピュータの場合、最初に光学ドライブを取り外し（光学ドライブの取り外し を参照）、次にフロッピードライブまたはメディアカードリーダーを取り外します（フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り外し を参照）。

3. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを、注意して押し開きます。

1	固定クリップ（2）	2	メモリモジュール

4. メモリモジュールを取り外します。メモリモジュールを取り付ける場合は、メモリの取り付け を参照してください。

5. お使いのコンピュータによって、次の手順を実行します。
   - デスクトップコンピュータの場合、光学ドライブを取り付けます（光学ドライブの取り付け を参照）。
   - スモールフォームファクターコンピュータの場合、最初にフロッピードライブまたはメディアカードリーダーを取り付け（フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り付けを参照）、次に光学ドライブを取り付けます（光学ドライブの取り付けを参照）。

6. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

メモリの取り付け

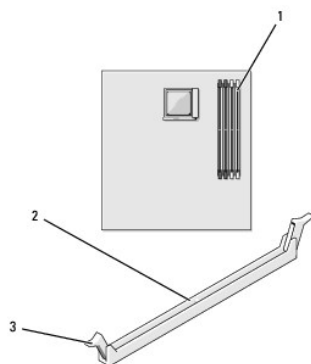
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

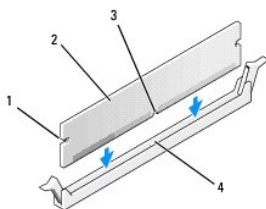
注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ: デルから購入されたメモリは、お使いのコンピュータの保証に含まれます。

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

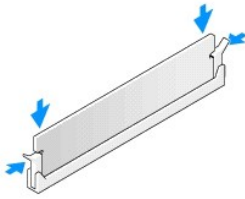
2. お使いのコンピュータによって、次の手順を実行します。
   - デスクトップコンピュータの場合、光学ドライブを取り外します（光学ドライブの取り外し を参照）。
   - スモールフォームファクターコンピュータの場合、最初に光学ドライブを取り外し（光学ドライブの取り外しを参照）、次にフロッピードライブまたはメディアカードリーダーを取り外します（フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り外しを参照）。

3. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。

1	プロセッサに最も近いメモリコネクタ	2	コネクタ	3	固定クリップ（2）

4. モジュールの底面の切り込みを、コネクタ内のクロスバーに合わせます。

1	切り欠き（2）	2	メモリモジュール	3	切り込み
4	クロスバー				

注意: メモリモジュールへの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力を加えて、モジュールをコネクタに向けてまっすぐ下へ挿入します。

5. メモリモジュールをカチッという感触がある所定の位置に収まるまで、しっかりと押し下げます。

   モジュールが適切に挿入されると、固定クリップはモジュール両端の切り欠きにカチッと収まります。

6. お使いのコンピュータによって、次の手順を実行します。

   l デスクトップコンピュータの場合、光学ドライブを取り付けます（光学ドライブの取り付け を参照）。

   l スモールフォームファクターコンピュータの場合、最初にフロッピードライブまたはメディアカードリーダーを取り付け（フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り付けを参照）、次に光学ドライブを取り付けます（光学ドライブの取り付けを参照）。

7. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

8. 新しいメモリ容量が既存の設定情報と一致しないことをコンピュータが検出して、次のメッセージを表示します。

   The amount of system memory has changed.（システムメモリの容量が変わりました。）Strike the F1 key to continue, F2 to run the setup utility（続けるには F1 キーを、セットアップユーティリティを起動するには F2 キーを押してください。）

9. <F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、**System Memory** の値をチェックします。

   コンピュータは新しく取り付けたメモリの容量を認識して、**System Memory** の値を変更します。メモリの新しい値を確認します。値が正しければ、手順 11 へ進みます。

10. メモリの合計が正しくない場合、コンピュータとデバイスの電源を切ってコンセントから外します。コンピュータカバーを開き、取り付けられたメモリモジュールを確認して、メモリモジュールをソケットに正しく装着されているか確認します。その後、手順 7、8、および9 を繰り返します。

11. **System Memory** の総メモリ容量が正しい場合は、<Esc> を押してセットアップユーティリティを終了します。

12. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）、メモリモジュールが正しく動作しているか確認します。

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ 740 ユーザーズガイド

ミニタワーコンピュータ

お使いのコンピュータについて
情報の検索方法
ミニタワーコンピュータ
ミニタワーコンピュータ(モデル ＃DCSM)仕様
アドバンス機能
コンピュータのクリーニング
ドライバとオペレーティングシステムの 再インストール
問題の解決
MicrosoftR WindowsR XP および Windows VistaR の特徴
トラブルシューティングツールと ユーティリティ
困ったときは
保証について
FCC 規制モデル(米国のみ)
用語集

部品の取り外しと取り付け
作業を開始する前に
コンピュータカバーの取り外し
シャーシイントルージョンスイッチ
I/O パネル
ドライブ
PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ
電源装置
プロセッサ
バッテリー
>システム基板の交換
メモリ
コンピュータカバーの取り付け

メモ、注意、警告

メモ: コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

モデル DCNE, DCSM および DCCY

2007 年 11 月　　P/N RP699　　Rev. A02

目次に戻る

PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ

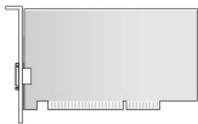
PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

お使いの Dell™ コンピュータは PS/2 シリアルアダプタをサポートしており、次の PCI カードおよび PCI Express カード用のコネクタを備えています。

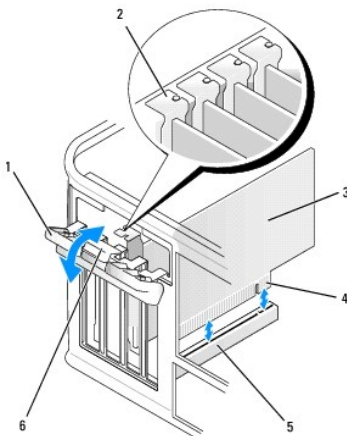
- PCI カードスロットが 2 つ
- PCI Express x16 カードスロットが 1 つ
- PCI Express x1 カードスロットが 1 つ

メモ: お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

PCI カード

PCI カードの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

メモ: PCI カードの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。

1	カード固定ラッチ	2	位置合わせガイド	3	カード
4	カードエッジコネクタ	5	カードコネクタ	6	リリースタブ

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に手順 5に進みます。

4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合は、既存のカードを取り外します（PCI カードの取り外し を参照）。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。次に手順 6 に進みます。

5. 新しいカードを取り付ける準備をします。

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。 感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

メモ: お使いのコンピュータに合わせたカードの設定、内部の接続、またはカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

6. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

メモ: カードがフルレングスの場合、カードをシステム基板のコネクタの方へ下げながら、カードの端をカードガイドブラケットに差し込みます。カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	完全に装着されたカード	2	完全に装着されていないカード	3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット				

7. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

8. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

9. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

メモ: カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

10. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのライン入力コネクタに接続しないでください（背面パネルコネクタ を参照）。

11. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。

12. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。

1	カード固定ラッチ	2	位置合わせガイド	3	カード
4	カードエッジコネクタ	5	カードコネクタ	6	リリースタブ

3. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

4. カードの上端の角をつかみ、コネクタからそっと引き抜きます。

5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。

   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

1	完全に装着されたカード	2	完全に装着されていないカード	3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット				

7. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付けを参照）。

9. カードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

10. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

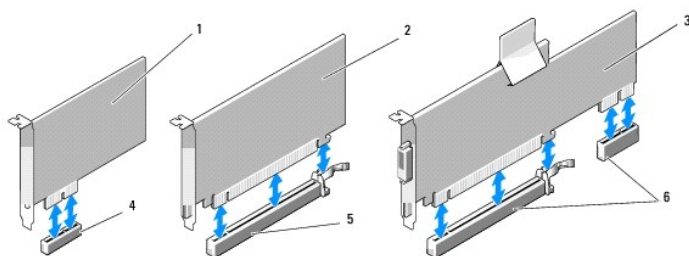
    b. 外付けオーディオデバイスをコンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

11. ネットワークアダプタカードコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

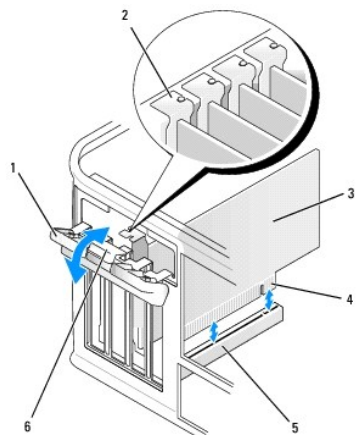
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続します。

PCI Express カード

お使いのコンピュータは 1 つの PCI Express x16 カードおよび 1 つの PCI Express x1 カードをサポートします。PCI Express カードスロットの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください。

1	PCI Express x1 カード	2	PCI Express x16 カード	3	PCI Express x16 DVI カード
4	PCI Express x1 カードスロット	5	PCI Express x16 カードスロット	6	PCI Express x16 DVI カードスロット

新しいカードに交換する場合は、既存のカードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

PCI Express x1 カードの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

1	カード固定ラッチ	2	位置合わせガイド	3	カード
4	カードエッジコネクタ	5	カードコネクタ	6	リリースタブ

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に手順 5 に進みます。

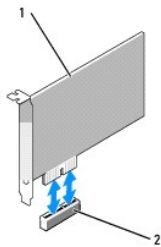
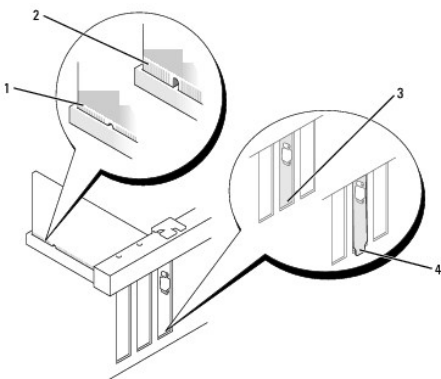
4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合は、既存のカードを取り外します（PCI Express x1 カードの取り外し を参照）。

   必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。次に手順 6 に進みます。

5. 新しいカードを取り付ける準備をします。

   カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

6. カードをコネクタに置き、しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	PCI Express x1 カード	2	PCI Express x1 カードコネクタ

1	完全に装着されたカード	2	完全に装着されていないカード	3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット				

7. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。

   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている

- カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

8. カード固定ラッチを閉じて、カチッという感触があり所定の位置に収まるまで軽く押します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

9. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

   カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

11. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのライン入力コネクタに接続しないでください（背面パネルコネクタ を参照）。

12. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

    b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。

13. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express x1 カードの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。

1	カード固定ラッチ	2	位置合わせガイド	3	カード
4	カードエッジコネクタ	5	カードコネクタ	6	リリースタブ

3. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

4. カードの上端の角をつかみ、コネクタからそっと引き抜きます。

5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

6. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。

- すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
- カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

7. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

PCI Express x16 カードおよび DVI カードの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

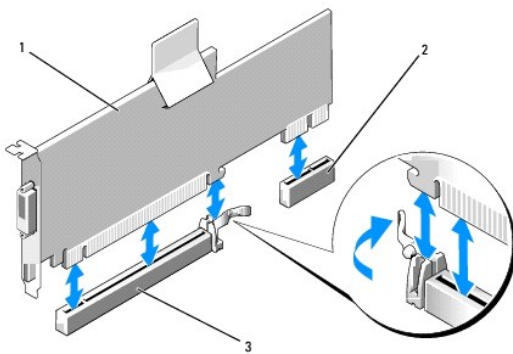
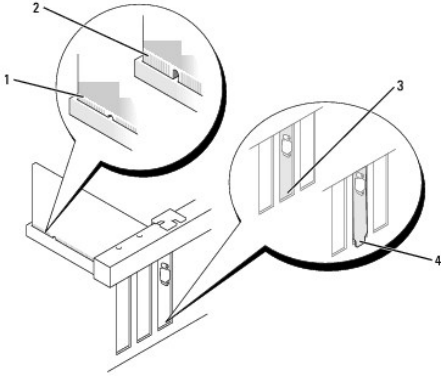
2. PCI Express x16 カードを取り付ける場合は、既存のカードを取り外します（PCI Express x16 カードおよび DVI カードの取り外しを参照）。

メモ: カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

3. カードを取り付ける準備をします。

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

4. カードをコネクタに置き、しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	PCI Express x16 カード	2	PCI Express x16 カードコネクタ

1	PCI Express x16 カード	2	DVI カードコネクタ	3	PCI Express x16 カードコネクタ

1	完全に装着されたカード	2	完全に装着されていないカード	3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット				

5. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

6. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。
   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている
7. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。
8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付けを参照）。
9. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティを参照）。
   b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのライン入力コネクタに接続しないでください（背面パネルコネクタ を参照）。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

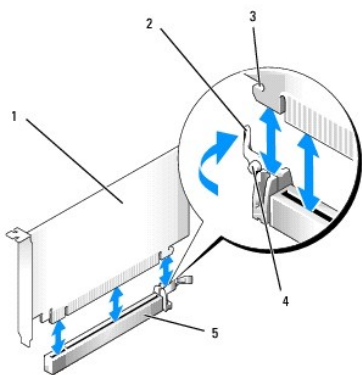
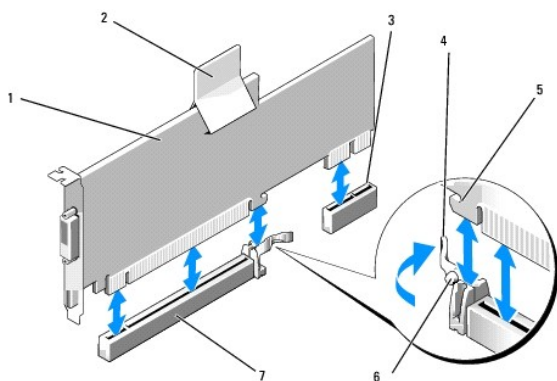
10. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。
   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティを参照）。
   b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。
11. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express x16 カードおよび DVI カードの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは、カチっという感触のある開口位置まで開いてください。
3. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。
4. カードクリップタブが解除されるまで、親指を使ってカードクリップレバーを押します。

   PCI Express x16 カードを取り外す場合は、手順 5 に進みます。

   DVI カードを取り外す場合は、手順 6 に進みます。

5. レバーを押しながらカードを引き上げて、カードコネクタから引き抜きます。

1	PCI Express x16 カード	2	レバー	3	固定スロット
4	固定タブ	5	PCI Express x16 カードコネクタ		

6. レバーを押しながら、取り外し用プルタブを引き上げ、カードコネクタからカードを取り外します。

1	PCI Express x16 DVI カード	2	取り外し用プルタブ	3	DVI カードコネクタ
4	レバー	5	固定スロット	6	固定タブ
7	PCI Express x16 カードコネクタ				

7. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

8. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。

- すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
- カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

9. 所定の位置にカチッと収まるまでカード固定ラッチを閉じて、残りのカードを固定します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付けを参照）。

11. カードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

12. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティを参照）。

    b. 外付けオーディオデバイスをコンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. ネットワークアダプタカードコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティを参照）。

    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続します。

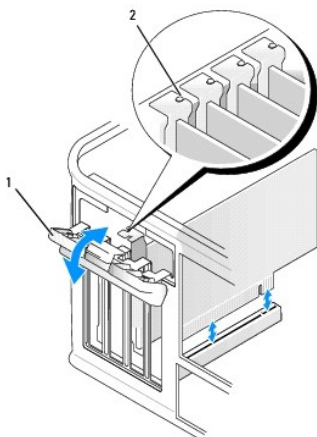
PS/2 シリアルポートアダプタ

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

注意： コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

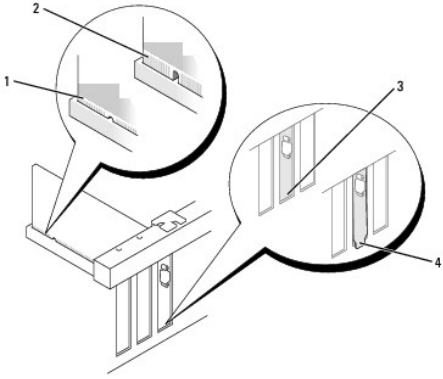
PS/2 シリアルポートアダプタの取り付け

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。

1	カード固定ラッチ	2	位置合わせガイド

3. フィラーブラケットが取り付けられている場合は、取り外します。

メモ： アダプタの設定、内部の接続、またはコンピュータに合わせたカスタマイズの情報については、PS/2 シリアルポートアダプタに付属のマニュアルを参照してください。

4. PS/2 シリアルポートアダプタブラケットを固定スロットに揃えて、しっかりと押し込みます。アダプタがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	完全に装着されたカード	2	完全に装着されていないカード	3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット				

カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。

- すべてのアダプタとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーと平らに揃っている
- アダプタ上部の切り込みまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

5. カード固定ラッチを閉じて、所定の位置にカチッと収まるまで軽く押します。

注意: ケーブルは、取り付けられているカードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

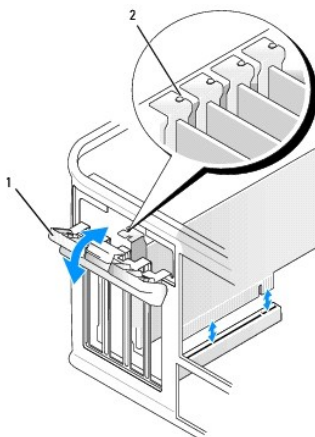
6. システム基板の PS/2 シリアルポートアダプタコネクタ(PS2/SER2)にアダプタケーブルを接続します(システム基板コンポーネントを参照)。

メモ: ケーブル接続については、PS/2 シリアルポートアダプタに付属のマニュアルを参照してください。

7. コンピュータカバーを取り付けます(コンピュータカバーの取り付けを参照)。

PS/2 シリアルポートアダプタの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを弧を描くように動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。

1	カード固定ラッチ	2	位置合わせガイド

3. システム基板から PS/2 シリアルポートケーブルを外します（システム基板コンポーネントを参照）。

4. 必要であれば、アダプタに接続されている外付けケーブルを外します。

5. PS/2 シリアルポートアダプタブラケットの上端の角をつかみ、固定スロットからそっと取り外します。

6. アダプタを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

7. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。
   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

8. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

9. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

目次に戻る

[目次に戻る]

● [プロセッサ]

プロセッサ

⚠ **警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。**

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

プロセッサの取り外し

1. [作業を開始する前に] の手順に従って操作してください。

2. ヒートシンクアセンブリの両端にあるネジを緩めます。

⚠ **警告: プラスティック製のシールドがあっても、ヒートシンクアセンブリは正常な動作中に過熱する場合があります。十分な時間を置き、温度が下がったことを確認してから、ヒートシンクアセンブリに触るようにします。**

注意: ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させる前に、ヒートシンクとプロセッサを接合しているサーマルグリースを剥がしやすくするため、アセンブリを左右にひねります。これにより、プロセッサに損傷を与えずに、ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させながらソケットからプロセッサを引き出すことができます。

3. ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させ、コンピュータから取り外します。

   サーマルグリースが付いた面を上に向けて、ヒートシンクアセンブリを上向きに置きます。

1	ヒートシンクアセンブリ	2	ネジハウジング（2）

注意: 新しいプロセッサに新しいヒートシンクが不要な場合、プロセッサを交換する際は、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

4. プロセッサが外れるまで、リリースレバーをまっすぐ引き上げます。

1	プロセッサ	2	リリースレバー	3	ソケット

注意: プロセッサを取り外す際は、ピンを曲げないように気を付けてください。ピンが曲がると、プロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

5. プロセッサをソケットから取り外します。

   ソケットに新しいプロセッサを取り付けられるよう、リリースレバーはリリースの位置に上げたままにして、プロセッサの取り付け に進みます。

注意: プロセッサを取り外した後は、プロセッサピンにサーマルグリースが付かないように気を付けてください。ピンにサーマルグリースが付くと、プロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

プロセッサの取り付け

注意: コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を除去してください。

注意: プロセッサを取り付ける際は、ピンを曲げないようにしてください。

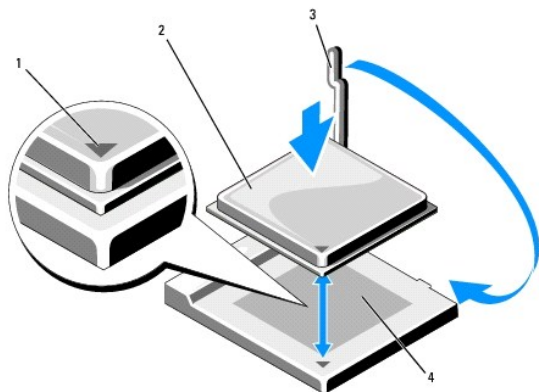
1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

注意: プロセッサを開封する際は、ピンを曲げないように気を付けてください。ピンが曲がると、プロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

2. ピンを曲げないように気を付けながら、新しいプロセッサを開封します。

   注意: コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できない損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

3. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。

4. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印	2	プロセッサ	3	リリースレバー
4	プロセッサソケット				

注意: プロセッサへの損傷を防ぐため、プロセッサとソケットがきちんと揃っているか確認します。プロセッサを取り付ける際は、力を入れすぎないでください。

5. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。

6. プロセッサをそっと押し下げながら、リリースレバーをシステム基板の所定の位置にカチッと収まるまで押し下げ、プロセッサを固定します。

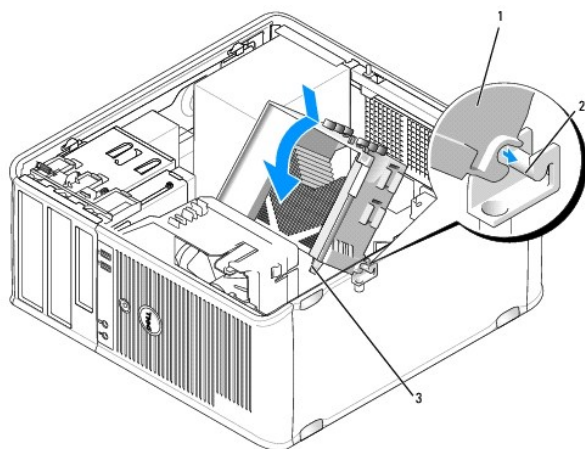
7. ヒートシンク底面に塗ってあるサーマルグリースを拭き取ります。

注意: サーマルグリースを新たに塗布してください。新しいサーマルグリースは、オプションのプロセッサが動作するために必要なサーマルボンディングを十分に確保するために重要です。

8. プロセッサの表面に、新しいサーマルグリースを均一に塗ります。

注意: CPU およびオーディオのケーブルは、ヒートシンクアセンブリを取り付ける際に挟まれないように配線してください。

9. ヒートシンクアセンブリを取り付けます。
   a. ヒートシンクアセンブリをヒートシンクアセンブリブラケットに元のように配置します。
   b. ヒートシンクアセンブリをコンピュータベースへ向けて下向きに回転させ、2 本のネジがシステム基板の穴に揃っていることを確認します。
   c. 2 本のネジを締めます。

注意: ヒートシンクアセンブリが正しく装着され、しっかり固定されているか確認します。

1	ヒートシンクアセンブリ	2	ヒートシンクアセンブリブラケット	3	ネジハウジング（2）

10. **コンピュータカバーを取り付けます（****コンピュータカバーの取り付け を参照****）。**

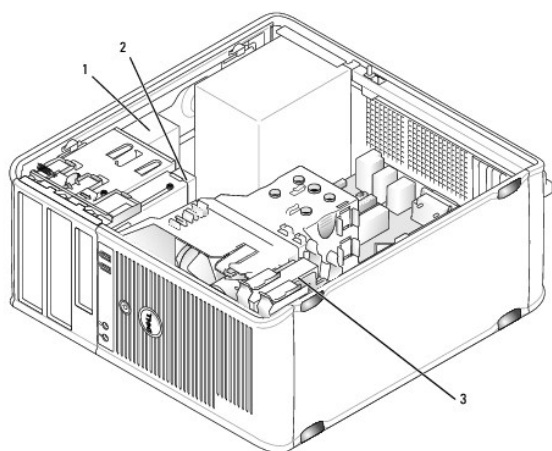
目次に戻る

[目次に戻る]

● ドライブ

ドライブ

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- SATA（シリアル ATA）ハードディスクドライブ 2 台
- オプションのフロッピードライブまたはメディアカードリーダー 1 台
- 光学ドライブ 2 台

1	光学ドライブ	2	フロッピードライブまたはメディアカードリーダー	3	ハードディスクドライブ

一般的な取り付けガイドライン

メモ: 1 台目の SATA ハードディスクドライブを青い SATA0 コネクタに接続します。

SATA ハードディスクドライブを「SATA0」または「SATA1」というラベルの付いたコネクタに接続します。SATA CD または DVD ドライブは システム基板 の「SATA2」または「SATA3」というラベルの付いたコネクタに接続します（ミニタワーシステム基板コネクタについての情報は システム基板コンポーネントを参照）。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

シリアル ATA コネクタ

1	インタフェースケーブルコネクタ	2	インタフェースコネクタ

インタフェースコネクタは、カードを正しく挿入できるように設計されています。

電源ケーブルコネクタ

シリアル ATA 電源コネクタ

1	電源ケーブル	2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

SATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持って作業を行います。

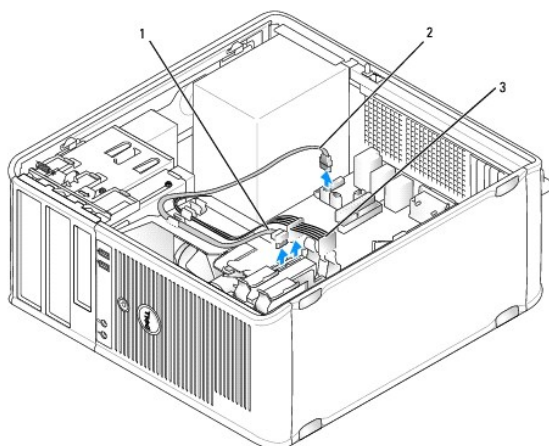
ハードディスクドライブ

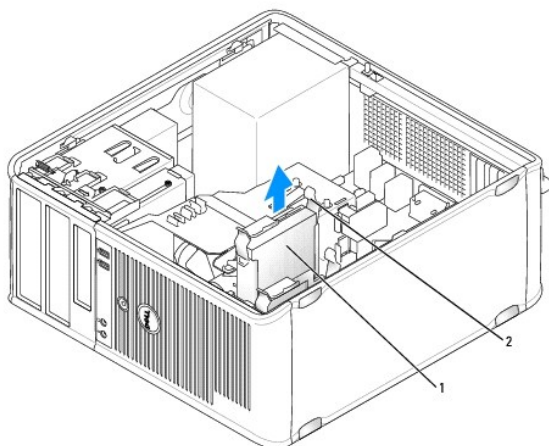
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

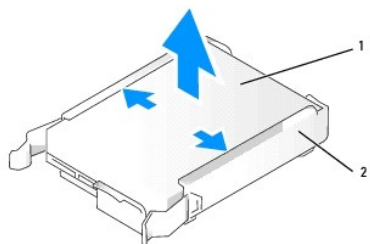
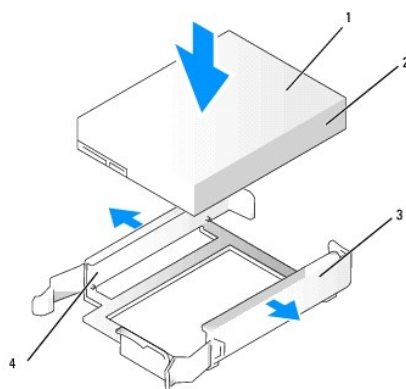
注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

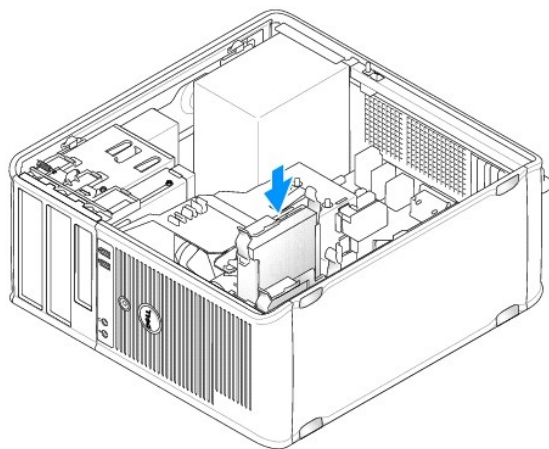
ハードディスクドライブの取り外し

1. 残しておきたいデータが保存されているハードディスクドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
3. 電源ケーブルとハードディスクドライブケーブルをドライブから取り外します。

1	ハードディスクドライブケーブル	2	システム基板上のハードディスクドライブケーブル	3	電源ケーブル

4. ドライブ両端の青色のリリースタブを押し、ドライブを上にスライドさせてコンピュータから出します。

1	ハードディスクドライブ	2	リリースタブ（2）

ハードディスクドライブの取り付け

1. 交換用のハードディスクドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
2. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
3. 交換用のハードディスクドライブにプラスチック製のハードディスクドライブブラケットが付いていない場合は、以下の手順に従って操作してください。
   a. 既存のドライブから、プラスチック製のハードブラケットを慎重に広げてハードディスクドライブを取り外すことにより、ブラケットを取り外します。
   b. ブラケットの位置合わせタブが、新しいドライブの取り付け穴にカチッと収まるように交換用ドライブをブラケットに挿入し、取り付けます。

1	ハードディスクドライブ	2	ハードディスクドライブブラケット

1	ハードディスクドライブ	2	ハードディスクドライブの取り付け穴	3	ハードディスクドライブブラケット
4	ブラケットの位置合わせタブ				

4. カチッと所定の位置に収まるまで、慎重にハードディスクドライブをドライブベイにスライドさせます。

5. 電源ケーブルとハードディスクドライブケーブルをドライブに接続します。

6. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。

7. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

8. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. セットアップユーティリティを起動し、適切な **Primary Drive** オプション（**0** または **1**）をアップデートします（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

10. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

11. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

    手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

12. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードディスクドライブをテストします（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

13. プライマリドライブを取り付けた場合、ハードディスクドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

2 台目のハードディスクドライブの追加

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

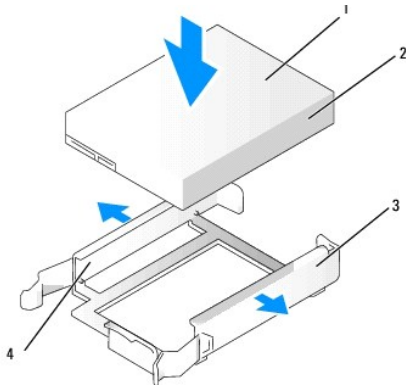
注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

注意: 残しておきたいデータが保存されているハードディスクドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

1. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

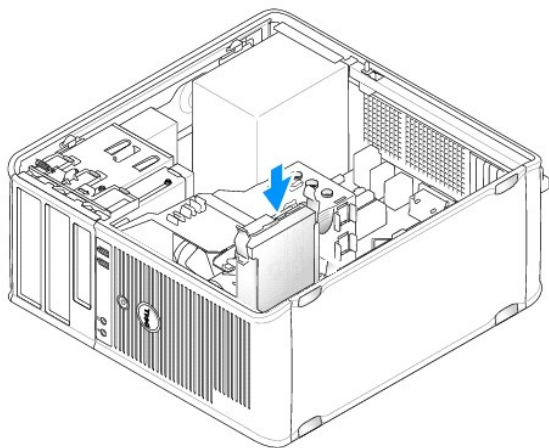
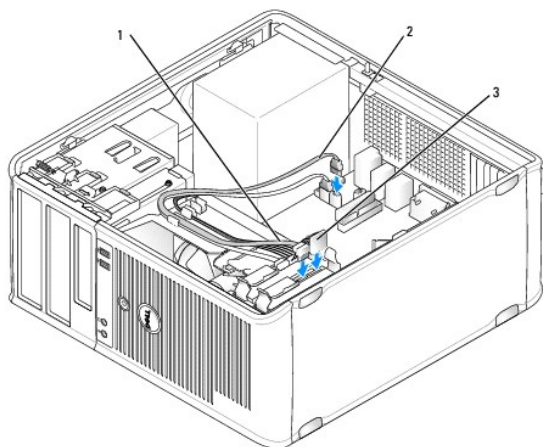
2. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

3. リリースタブを押して慎重にプラスチックのハードディスクドライブブラケットをハードディスクドライブベイから引き抜き、ベイの内部からブラケットを慎重に引き上げて取り外します。

4. ブラケットの位置合わせタブが、新しいドライブの取り付け穴にカチッと収まるように新しいドライブをブラケットに挿入し、取り付けます。

1	ハードディスクドライブ	2	ハードディスクドライブの取り付け穴	3	ハードディスクドライブブラケット
4	ブラケットの位置合わせタブ				

5. 必要に応じて、現在取り付けられているハードディスクドライブから電源ケーブルと SATA ケーブルを外します。

6. カチッと所定の位置に収まるまで、慎重に新しいハードディスクドライブを未使用のベイの中へスライドさせます。

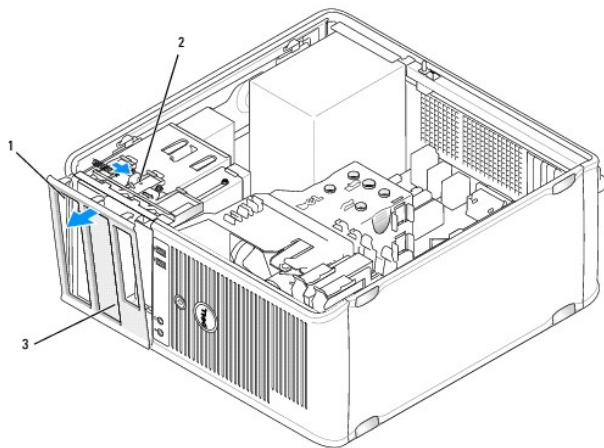
7. 電源ケーブルおよび SATA ケーブルをドライブに接続します。

8. システム基板の SATA 1 コネクタの位置を確認して、SATA ケーブルを接続します（ミニタワーコンピュータの場合は、システム基板コンポーネント を参照）。

1	ハードディスクドライブデータケーブル	2	システム基板上のハードディスクドライブケーブル	3	ハードディスクドライブ電源ケーブル

9. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

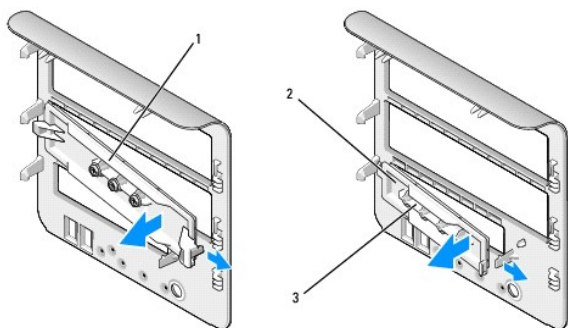
ドライブベイカバー

フロッピードライブ、メディアカードリーダー、または光学ドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外します。

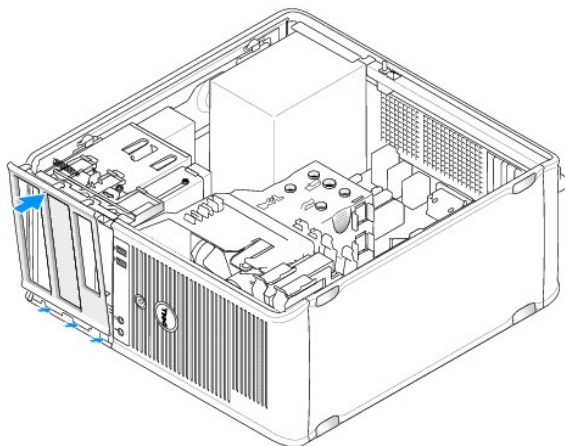
1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. ラッチに示されている方向にドライブリリースラッチをスライドさせてパネルを開き、ドライブパネルを取り外します。次に、ヒンジからドライブパネルを取り外します。

1	ドライブパネル	2	リリースタブ	3	ドライブベイカバー

3. 使用するドライブベイの前面にあるドライブベイカバーを選択します。

4. ドライブベイカバーのリリースタブを軽く押して、ドライブパネルから取り外します。

1	光学ドライブベイカバー	2	フロッピードライブまたはメディアカードリーダー用のドライブベイカバー	3	肩付きネジ用ホルダ

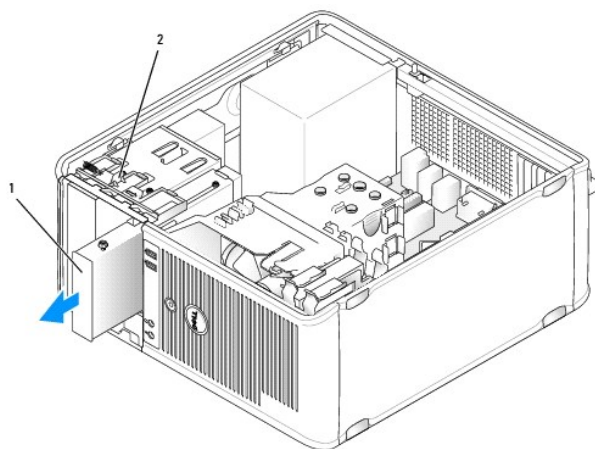
5. ドライブパネルをコンピュータの前面に元のとおりに取り付けます。

ドライブパネルは一方向にしか取り付けられません。

フロッピードライブ

⚠ **警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。**

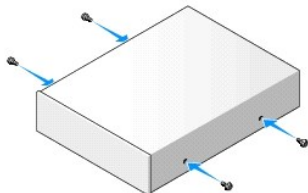
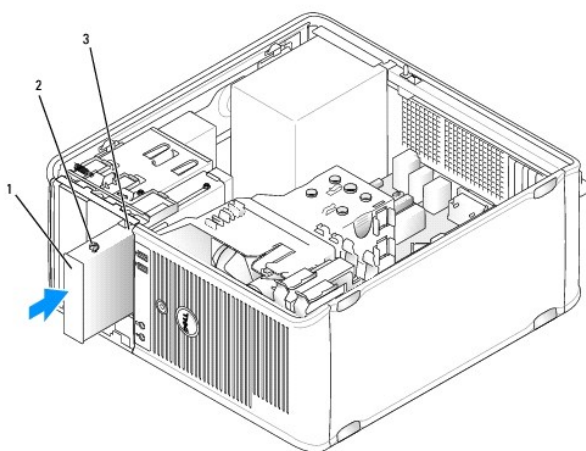
⚠ **警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。**

フロッピードライブの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. ラッチに示されている方向にドライブリリースラッチをスライドさせてパネルを開き、ドライブパネルを取り外します。 次に、ヒンジからドライブパネルを取り外します。
3. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。
4. フロッピードライブを取り出せるまで、ラッチに示されている方向にドライブリリースラッチをスライドさせます。ラッチを開いたまま、コンピュータからドライブをスライドさせます。

1	フロッピードライブ	2	ドライブリリースラッチ

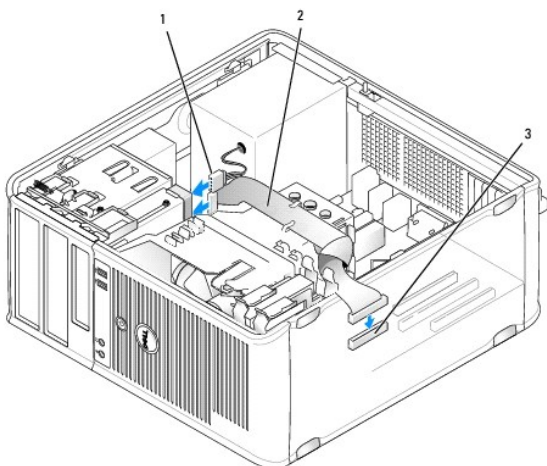
フロッピードライブの取り付け

1. フロッピードライブを交換する場合、肩付きネジを既存のドライブから取り外し、そのネジを交換用ドライブに取り付けます。

2. 新しいフロッピードライブを取り付ける場合は、新しいドライブ用にドライブベイカバーを取り外し（ドライブベイカバー を参照）、肩付きネジをドライブベイカバーの内側から外して、このネジを新しいドライブに取り付けます。

3. フロッピードライブの肩付きネジを肩付きネジスロットに合わせ、カチッと所定の位置に収まるまでドライブをベイに軽くスライドします。

1	フロッピードライブ	2	肩付きネジ（4）	3	肩付きネジスロット（2）

4. フロッピードライブに、電源ケーブルおよびフロッピードライブデータケーブルを取り付けます。

5. フロッピードライブデータケーブルを、システム基板の DSKT コネクタに接続します（コネクタの位置については、システム基板コンポーネントを参照してください）。

6. ドライブパネルをコンピュータの前面に取り付けます。ドライブパネルは、一方向にしか取り付けられません（ドライブベイカバー を参照）。

1	電源ケーブル	2	フロッピードライブデータケーブル	3	システム基板のフロッピードライブコネクタ(DSKT)

7. コンピュータカバーを取り付けます(コンピュータカバーの取り付け を参照)。

8. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive**オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします(セットアップユーティリティの起動 を参照)。

9. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します(Dell Diagnostics(診断)プログラムを参照)。

メディアカードリーダー

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

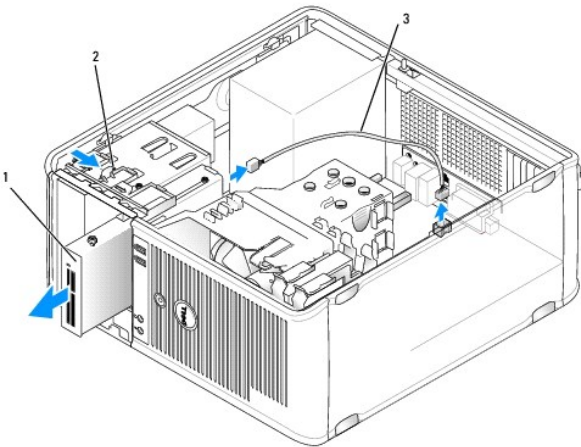
警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

メディアカードリーダーの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. ラッチに示されている方向にドライブリリースラッチをスライドさせてパネルを開き、ドライブパネルを取り外します。次に、ヒンジからドライブパネルを取り外します。

3. メディアカードリーダーの背面から、メディアカードリーダーケーブルを取り外します。

4. メディアカードリーダーを取り出せるまで、ラッチに示されている方向にドライブリリースラッチをスライドさせます。ラッチを開いたまま、コンピュータからデバイスをスライドさせます。

1	メディアカードリーダー	2	メディアカードリーダーケーブル	3	ドライブリリースラッチ

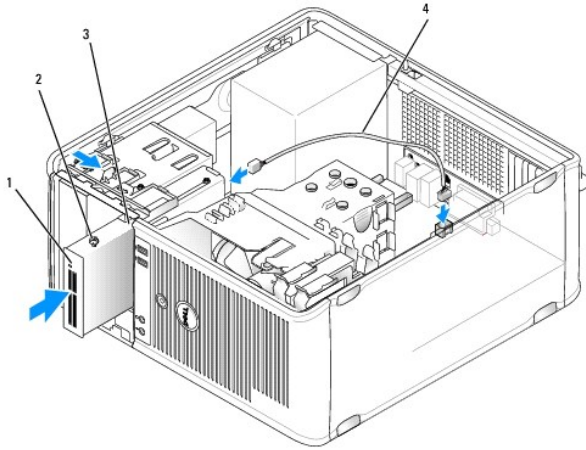
メディアカードリーダーの取り付け

1. メディアカードリーダーを交換する場合、肩付きネジを既存のデバイスから外し、このネジを交換用デバイスに取り付けます。

2. 新しいメディアカードリーダーを取り付ける場合は、新しいデバイス用にドライブベイカバーを取り外し(ドライブベイカバー を参照)、肩付きネジをドライブベイカバーの内側から外して、このネジを新しいデバイスに取り付けます。

3. メディアカードリーダーの肩付きネジを肩付きネジスロットに合わせて、カチッと所定の位置に収まるまでデバイスをベイの中に慎重にスライドさせます。

4. メディアカードリーダーにメディアカードリーダーケーブルを取り付けます。

5. メディアカードリーダーケーブルをシステム基板の USB1 コネクタに接続します(コネクタの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください)。

1	メディアカードリーダー	2	肩付きネジ（4）	3	肩付きネジスロット（2）
4	メディアカードリーダーケーブル				

6. ドライブパネルをコンピュータの前面に取り付けます。ドライブパネルは、一方向にしか取り付けられません（ドライブベイカバー を参照）。

7. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

8. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive**オプションで、新しいメディアカードリーダーを有効に設定します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

9. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。

光学ドライブ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

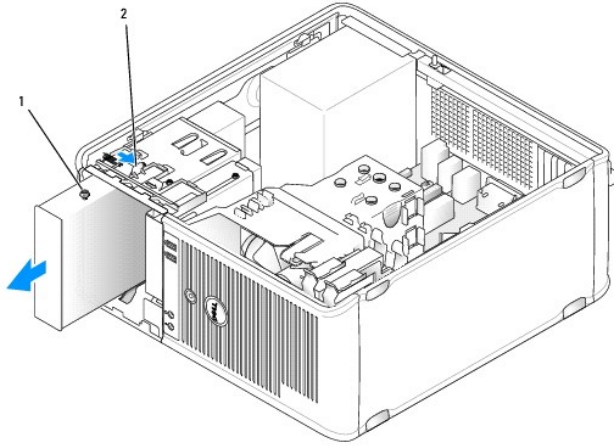
警告: 感電防止のため、カバーを交換する前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

光学ドライブの取り外し

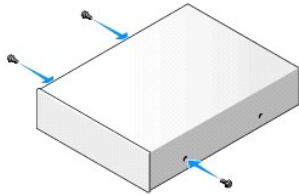
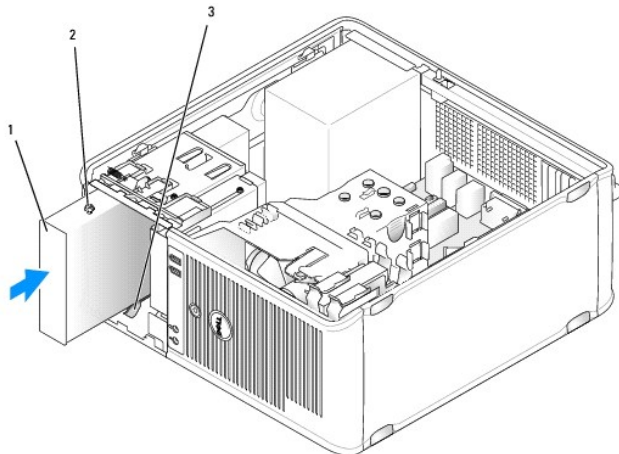
1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. ラッチに示されている方向にドライブリリースラッチをスライドさせてパネルを開き、ドライブパネルを取り外します。 次に、ヒンジからドライブパネルを取り外します。

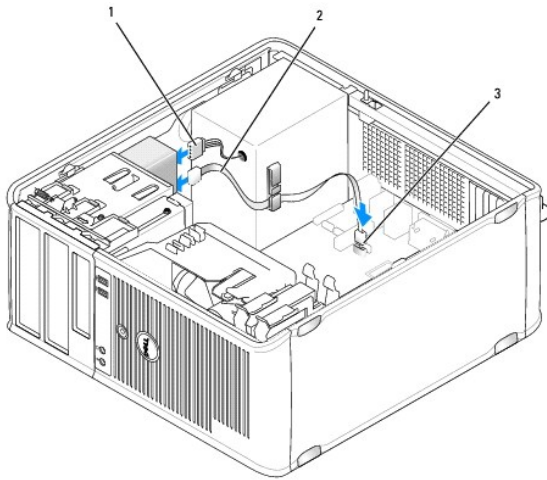
3. 電源ケーブルおよび光学ドライブケーブルを、ドライブの背面から取り外します。

4. 光学ドライブを取り出せるまで、ラッチに示されている方向にドライブリリースラッチをスライドさせます。ラッチを開いたまま、コンピュータからドライブをスライドさせます。

1	光学ドライブ	2	ドライブリリースラッチ

光学ドライブの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. 光学ドライブを交換する場合、肩付きネジを既存のドライブから取り外し、このネジを交換用ドライブに取り付けます。
3. 新しい光学ドライブを取り付ける場合は、新しいドライブ用にドライブベイカバーを取り外し（ドライブベイカバー を参照）、肩付きネジをドライブベイカバーの内側から外して、このネジを新しいドライブに取り付けます。

4. 光学ドライブの肩付きネジを肩付きネジスロットに合わせ、カチッと所定の位置に収まるまでドライブをベイに軽くスライドします。

1	光学ドライブ	2	肩付きネジ（3）	3	肩付きネジスロット（2）

5. 電源ケーブルと光学ドライブケーブルをドライブに接続します。

6. ドライブケーブルをシステム基板の SATA2 または SATA 3 に接続します（ミニタワーコンピュータの場合は、システム基板コンポーネント を参照）。

1	電源ケーブル	2	光学ドライブケーブル	3	光学ドライブコネクタ（SATA）

設定がお使いのコンピュータに適切かどうかを確認するには、ドライブおよびコントローラカードに付属のマニュアルを参照してください。 正しい設定にするために必要な変更をします。

7. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

8. ドライブパネルをコンピュータの前面に取り付けます。ドライブパネルは、一方向にしか取り付けられません（ドライブベイカバー を参照）。

9. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

10. **Drives** の下で適切な **Drive** オプション（**0** または **1**）を設定して、セットアップユーティリティ（セットアップユーティリティ を参照）の設定情報をアップデートします。

11. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

目次に戻る

目次ページへ戻る

Dell™ OptiPlex™ 740 ユーザーズガイド

ミニタワーコンピューター

コンピューター概要

情報の検索
ミニタワーコンピューター
ミニタワーコンピューター（モデル ＃ DCSM）仕様
高度な機能
コンピューターのクリーニング
ドライバーとオペレーティングシステムの取り付け
トラブルの解決
MicrosoftR WindowsR XP と Windows VistaR の機能
トラブルシューティングツールとユーティリティ
困ったときは
保証
FCC 通達（米国のみ）
用語集

パーツの取り外しと交換

作業を開始する前に
コンピューターカバーの取り外し
シャーシイントリュージョンスイッチ
I/O パネル
ドライブ
PCI、PCI Express Card、PS/2 シリアルポートアダプター
スピーカー
電源ユニット
プロセッサー
バッテリー
システム基板の取り付け
メモリ
コンピューターカバーの取り付け

モデル: DCSM、DCNE、および DCCY

メモ、注意、警告

メモ: コンピューターを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

2009 年 9 月　RP699　Rev. A04

目次に戻る

I/O パネル

I/O パネル

I/O パネルの取り外し

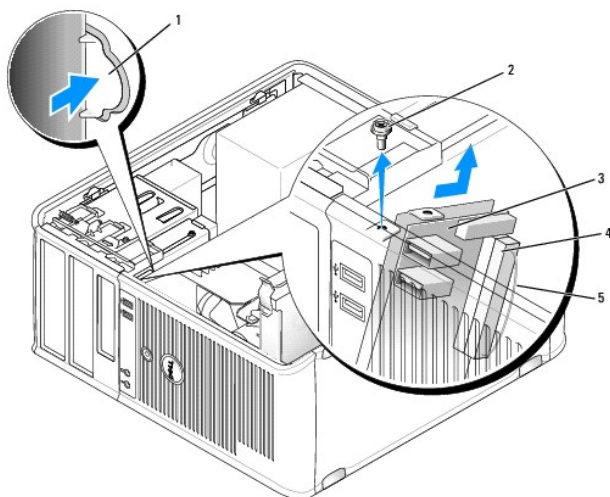
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

メモ: 新しい I/O パネルを取り付けるときに正しく配線できるよう、ケーブルを外す前にケーブルのすべての配線経路をメモしておいてください。

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

注意: I/O パネルをコンピュータから引き出すときには、特に注意を払ってください。注意を怠ると、ケーブルコネクタおよびケーブル配線クリップに損傷を与える場合があります。

2. I/O パネルを固定しているネジを外します。リリースボタンを押して、コンピュータの前面からカードを引き出します。
3. コンピュータから慎重にパネルを取り外します。
4. I/O パネルからすべてのケーブルを外します。

1	I/O パネルリリースボタン	2	固定ネジ	3	I/O パネル
4	I/O ケーブルコネクタ	5	プルループ		

I/O パネルの取り付け

I/O パネルを取り付けるには、取り外し手順と逆の順序で実行します。

メモ: I/O パネルブラケットにあるガイドを使って I/O パネルを正しい位置に合わせ、I/O パネルブラケットにある切り込みを使ってパネルを固定してください。

目次に戻る

目次に戻る

電源装置

電源装置

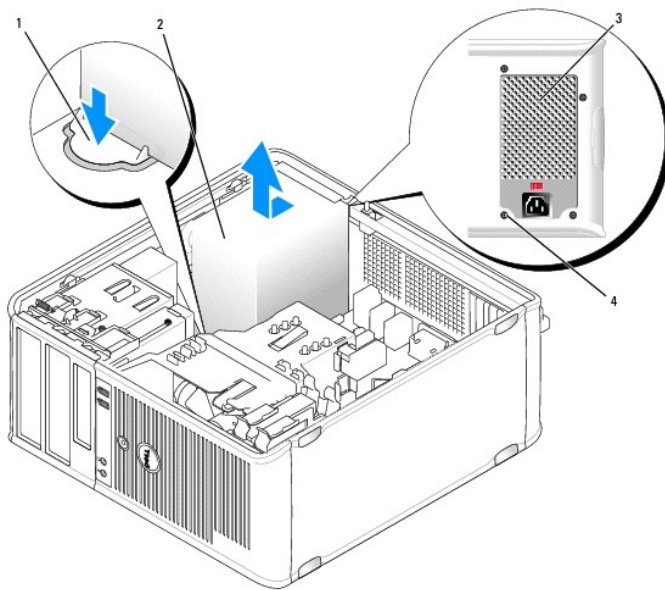
電源装置の交換

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

   DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータシャーシ内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

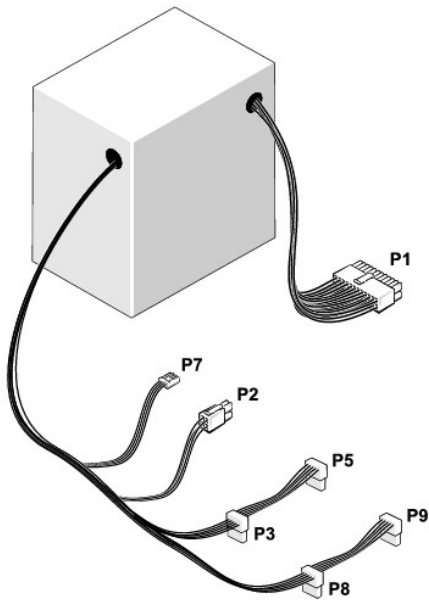
3. 電源装置をコンピュータシャーシの背面に取り付けている 4 本のネジを外します。
4. コンピュータシャーシの底面にあるリリースボタンを押します。

1	リリースボタン	2	電源装置	3	ネジ（4）
4	AC 電源コネクタ				

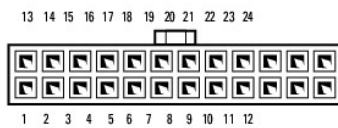
5. 電源装置をコンピュータの前面の方へ約 2.5 cm スライドさせます。
6. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。
7. 交換用の電源装置をスライドさせて所定の位置に入れます。
8. 電源装置をコンピュータシャーシの背面に固定するネジを取り付けます。

注意: DC 電源ケーブルをシャーシタブの下に配線します。ケーブルの損傷を防ぐため、ケーブルは適切に配線してください。

9. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブに再接続します。

10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

11. AC 電源ケーブルを AC 電源コネクタに接続します。

DC 電源コネクタ

DC 電源コネクタ P1

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	GND	黒色
4	+5 VDC	赤色
5	GND	黒色
6	+5 VDC	赤色
7	GND	黒色
8	PS_PWRGOOD	灰色
9	P5AUX	紫色
10	V_12P0_DIG	白色
11	V_12P0_DIG	白色
12	+3.3 VDC	橙色
13	+3.3VDC/SE*	橙色
14	-12 VDC	青色

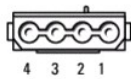
15	GND	黒色
16	PWR_PS_ON	緑色
17	GND	黒色
18	GND	黒色
19	GND	黒色
20	NC	NC
21	+5 VDC	赤色
22	+5 VDC	赤色
23	+5 VDC	赤色
24	GND	黒色

DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	GND	黒色
2	GND	黒色
3	+12 VADC	黄色
4	+12 VADC	黄色

DC 電源コネクタ P3、P5、P8、および P9

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	GND	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	GND	黒色
5	+12 VBDC	白色

DC 電源コネクタ P7

ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
1	+5 VDC	赤色

2	GND	黒色
3	GND	黒色
4	+12 VADC	黄色

目次に戻る

[目次に戻る]

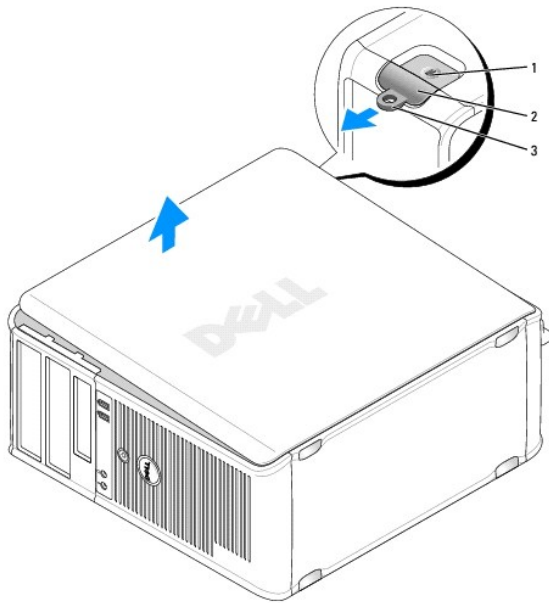
● コンピュータカバーの取り外し

コンピュータカバーの取り外し

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. 図に示されているように、コンピュータを横に倒します。
3. 図に示されているカバーリリースラッチを確認します。次に、カバーを持ち上げながらリリースラッチを後方にスライドさせます。
4. コンピュータカバーの側面を持ち、ヒンジタブをてこの支点としてカバーを上に動かします。
5. カバーをヒンジタブから取り外し、柔らかく傷が付きにくい場所に置いておきます。

警告: グラフィックカードのヒートシンクは、通常の動作でもかなり熱くなることがあります。グラフィックカードのヒートシンクに触れる前には十分に時間をかけ、ヒートシンクの温度が下がっていることを確認してください。

1	セキュリティケーブルスロット	2	カバーリリースラッチ	3	パドロックリング

[目次に戻る]

目次に戻る

ミニタワーコンピュータ（モデル ＃DCSM）仕様

ミニタワーコンピュータ（モデル ＃DCSM）仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサの種類	AMD Phenom™ プロセッサ **メモ:** AMD Phenom プロセッサは、8 Mb NVRAM チップを必要とすることから、8 Mb NVRAM チップ搭載のモデルでのみ使用されます。お使いのコンピュータが 8 Mb NVRAM チップとAMD Phenom プロセッサ内蔵の場合、enhanced という文字が BIOS 画面およびセットアップユーティリティ画面内のタイトルに表示されます。 AMD Athlon™ 64 X2 デュアルコアプロセッサ AMD Athlon 64
内蔵キャッシュ	AMD Phenom クアドコア：2 MB L2 専用キャッシュおよび 2 MB 共有 L3 キャッシュ AMD Phenom トリプルコア：1.5 MB L2 専用キャッシュおよび 2 MB 共有 L3 キャッシュ AMD Athlon 64 X2：2 MB L2 専用キャッシュ AMD Athlon 64 X2： 1 MB L2 専用キャッシュ AMD Athlon： 1 MB L2 専用キャッシュ AMD Athlon： 512 KB L2 専用キャッシュ

メモリ	
タイプ	533、667、または 800 MHz DDR2 SDRAM
メモリのコネクタ	4
対応するメモリモジュール	256MB、512MB、1GB、または 2GB 非 ECC
最小メモリ	デュアルチャネル： 512 MB シングルチャネル： 256 MB
最大搭載メモリ	8 GB

コンピュータ情報	
チップセット	nVidia GeForce 6150LE/NForce 430
RAID サポート	RAID 0 および RAID 1 **メモ:** RAID サポートは特定のモデルでのみ利用可能です。
データバス幅	64 ビット
アドレスバス幅	40 ビット
DMA チャネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ（NVRAM）	8 Mb または 4 Mb **メモ:** AMD Phenom プロセッサは、8 Mb NVRAM チップを必要とすることから、8 Mb NVRAM チップ搭載のモデルでのみ使用されます。お使いのコンピュータが 8 Mb NVRAM チップとAMD

	Phenom プロセッサ内蔵の場合、enhanced という文字が BIOS 画面およびセットアップユーティリティ画面内のタイトルに表示されます。
NIC	Atmel 1 Mb および 2 Mb EEPROM をサポート 10/100/1000 通信が可能

ビデオ	
タイプ	nVidia 内蔵ビデオ(DirectX 9.0c Shader Model 3.0 Graphics Processing Unit)または PCI Express x16 グラフィックスカードまたは DVI グラフィックスカード

オーディオ	
タイプ	Sigma Tel 9200 CODEC(2.1 チャネルオーディオ)
ステレオ変換	24 ビット AD 変換および 24 ビット DA 変換

コントローラ	
ドライブ	2 台の SATA コントローラが、それぞれ 2 台の 3.5 インチハードディスクドライブを含む 2 台のデバイスをサポート

拡張バス	
バスのタイプ	PCI 2.3 PCI Express 1.0A SATA 1.0A および 2.0 USB 2.0
バス速度	PCI:133 MB/秒 PCI Express x16:双方向スピード 40 GB/秒 PCI Express x1:2.5 Gbps SATA:1.5 Gbps および 3.0 Gbps USB: 480 Mbps 高速、12 Mbps フルスピード、1.2 Mbps 低速
カード:	フルハイトカードをサポート
PCI:	
コネクタ	2 つ
コネクタサイズ	124 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x1 × 1 および x16 × 1
電源	最大 10 W(x1)および 75 W(x16)
コネクタサイズ	36 ピン(x1)および 164 ピン(x16)
コネクタデータ幅(最大)	PCI Express レーン(× 1)および 16 PCI Express レーン(× 16)

ドライブ	
外部アクセス可能	2 台までの 3.5 インチハードディスクドライブをサポートする、2 台の 3.5 インチドライブベイ 2 台の 5.25 インチドライブベイ
内部アクセス可能	1 インチ幅ハードディスクドライブ用ベイ × 2

コネクタ	
外付けコネクタ:	
シリアル	9 ピンコネクタ、16550C 互換
パラレル	双方向 25 ピンコネクタ(メス)
ビデオ	15 ピン VGA コネクタ(メス)
オプションの DVI	36 ピンコネクタ **メモ:** このオプションは PCI スロットの内の 1 つを使用します。
ネットワークアダプタ	RJ-45 コネクタ
セカンダリシリアルポートアダプタ付き PS/2(オプション)	6 ピンミニ DIN × 2 **メモ:** このオプションは PCI スロットの内の 1 つを使用します。
USB	USB 2.0 互換コネクタ(前面パネルに 2 つ、背面パネルに 5 つ)
オーディオ	ライン入力およびライン出力用の 2 つのコネクタ、前面パネルのヘッドフォンおよびマイク用の 2 つのコネクタ
システム基板コネクタ:	
SATA	7 ピンコネクタ × 4
フロッピードライブ	34 ピンコネクタ
シリアル	オプションのセカンドシリアルポートカード用 24 ピンコネクタ
ファン	5 ピンコネクタ
PCI 2.3	124 ピンコネクタ × 2
PCIe-x1	36 ピンコネクタ
PCIe-x16	164 ピンコネクタ
内蔵 USB	10 ピンコネクタ
イントルージョンスイッチ	3 ピンコネクタ
スピーカ	5 ピンコネクタ
メモリモジュール	240 ピンコネクタ × 4
12V 電源	4 ピンコネクタ
電源	24 ピンコネクタ
バッテリ	2 ピンソケット
前面パネル	40 ピンコネクタ

キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt><Del>	Microsoft® Windows® XP および Windows Vista® では、**Windows Security** ウィンドウが表示されます。MS-DOS® モードの場合は、コンピュータを再スタート(再起動)
<F2> または <Ctrl><Alt><Enter>	内蔵のセットアップユーティリティを起動(起動時のみ)
<F12>または<Ctrl><Alt><F8>	ユーザーが単一起動用のデバイスを入力できる起動デバイスメニュー(起動時のみ)、またハードディスクドライブおよびシステム診断プログラムを実行するオプションを表示
<Ctrl><n>	セットアップユーティリティ内で RAID がオンになっている場合、RAID セットアップメニューをスタート
<Ctrl><Enter>	起動時にコンピュータパスワードを無効化(正しいパスワードが入力された後)

ボタンとライト	
電源ボタン	シャーシ前面 - 押しボタン
電源ライト(電源ボタン内)	緑色のライト - スリープモードのとき緑色に点滅、電源がオンのとき緑色に点灯 黄色のライト - 黄色の点滅は、インストールされたデバイスに問題があることを示し、黄色の点灯は内蔵電源の問題を示す(電源の問題 を参照)
ハードディスクドライブアクセスライト	前面パネル - 緑色
リンクランプ(前面パネル上)	前面パネル - 緑色の点灯は、ネットワーク接続を示す
リンク保全ライト(内蔵ネットワークアダプタ上)	背面パネル - 10 Mb 伝送時は緑色のライト、100 Mb 伝送時は

	橙色のライト、1000 Mb(1 Gb)伝送時は黄色のライト
動作ライト(内蔵ネットワークアダプタ上)	背面パネル - 黄色の点滅ライト
診断ライト	前面パネル - 前面パネルに 4 つのライト。診断ライト を参照してください。
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

電 源	
DC 電源装置:	
ワット数	305 W
熱消費	最大 1040.7 BTU/時
電圧	手動選択電源装置 90～135 V(50/60 Hz)、 180～265 V(50/60 Hz)
バックアップバッテリ	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリ

寸 法	
縦幅	41.4 cm
横幅	18.5 cm
長さ	43.9 cm
重量	12.34 kg

環 境	
温度:	
動作時	10～35 ℃
保管時	-40～65 ℃
相対湿度	20～80 %(結露しないこと)
最大耐久震度:	
動作時	0.25 G(3～200 Hz、0.5 オクターブ / 分)
保管時	0.5 G(3～200 Hz、1 オクターブ / 分)
最大耐久衝撃:	
動作時	50.8 cm / 秒の速度変化のボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm / 秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ
高度:	
動作時	-15.2～3,048 m
保管時	-15.2～10,668 m

目次に戻る

目次ページへ戻る

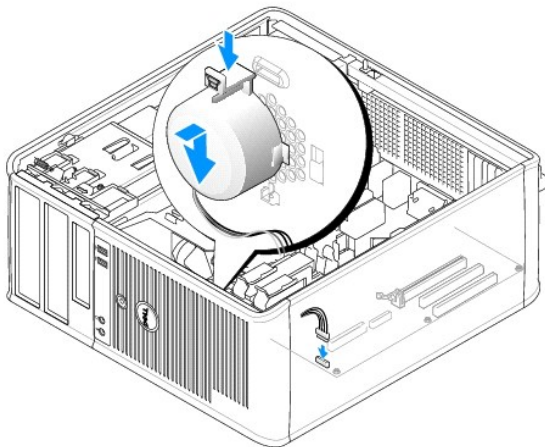
● スピーカー

スピーカー

スピーカーの取り付け

注意：本セクションの作業を始める前に、『製品情報ガイド』に記載しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。

注意：コンピュータ内部のコンポーネントを静電気による損傷から防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体の静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

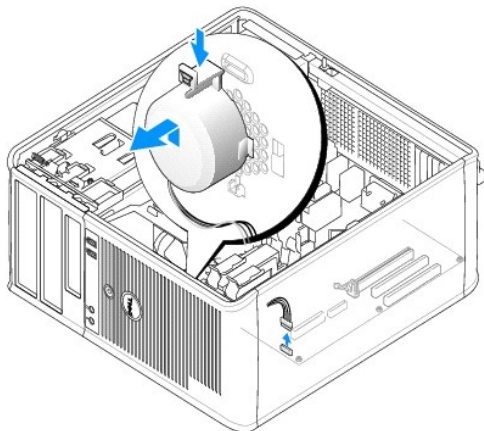
1. 「作業を始める前に」の手順に従ってください。
2. コンピューターカバーを取り外します（「コンピューターカバーの取り外し」を参照）。
3. コンピューターのシャーシにスピーカーを差し込みます。

4. システム基板にケーブルを接続します。
5. コンピューターのカバーを取り付けます。
6. コンピューターの電源を入れます。

スピーカーの取り外し

注意：本セクションの作業を始める前に、『製品情報ガイド』に記載しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。

注意：コンピュータ内部のコンポーネントを静電気による損傷から防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体の静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

1. 「作業を始める前に」の手順に従ってください。
2. コンピューターのカバーを取り外します（「コンピューターカバーの取り外し」を参照）。
3. システム基板からケーブルを外します。

4. コンピューターのシャーシからスピーカーを取り外します。

5. コンピューターのカバーを取り付けます。

6. コンピューターの電源を入れます。

目次ページへ戻る

[目次に戻る]

Microsoft® Windows® XP および Windows Vista® の特徴

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- 新しいコンピュータへの情報の転送
- ユーザーアカウントおよびユーザーの簡易切り替え
- 家庭用および企業用ネットワークのセットアップ

新しいコンピュータへの情報の転送

オペレーティングシステム「ウィザード」を使って、たとえば、古いコンピュータから新しいコンピュータへ転送する場合のように、元のコンピュータから別のコンピュータへファイルやその他のデータを転送することができます。その手順については、お使いのコンピュータに搭載されているオペレーティングシステムに該当する以下の項を参照してください。

Microsoft Windows Vista®

1. Windows Vista スタートボタン をクリックして、**Transfer files and settings**（ファイルと設定の転送）→ **Start Windows Easy Transfer**（Windows 転送ツールの開始）をクリックします。
2. **User Account Control**（ユーザーアカウントコントロール）ダイアログボックスで、**Continue**（続行）をクリックします。
3. **Start a new transfer**（新しい転送を開始する）あるいは **Continue a transfer in progress**（実行中の転送を続行する）をクリックします。

Windows Easy Transfer（Windows ファイルと設定の転送）ウィザードで画面に表示される手順に従います。

Microsoft® Windows® XP

Microsoft Windows XP オペレーティングシステムには、データを元のコンピュータから新しいコンピュータに転送するためのファイルと設定の転送ウィザードがあります。下記のデータが転送できます。

- E-メールメッセージ
- ツールバーの設定
- ウィンドウのサイズ
- インターネットのブックマーク

新しいコンピュータにネットワークまたはシリアル接続を介してデータを転送したり、書き込み可能 CD などのリムーバブルメディアにデータを保存したりできます。

メモ: 情報を古いコンピュータから新しいコンピュータに転送するには、シリアルケーブルを 2 台のコンピュータの入力 / 出力（I/O）ポートに直接接続します。データをシリアル接続を介して転送するには、コントロールパネルからネットワーク接続ユーティリティにアクセスして、詳細設定接続の設定、およびホストコンピュータやゲストコンピュータの指定など、追加の設定手順を実行する必要があります。

2 台のコンピュータで直接ケーブルを設置する手順に関しては、マイクロソフトのウェブサイトにて『直接ケーブル接続を構成する方法』という文書を参照してください。この情報は、一部の国では使用できない場合があります。

新しいコンピュータに情報を転送するには、ファイルと設定の転送ウィザードを実行する必要があります。このプロセスを実行するには、オプションの『オペレーティングシステム』メディアを使用するか、またはファイルと設定の転送ウィザードでウィザードディスクを作成します。

オペレーティングシステムメディアを使用してファイルと設定の転送ウィザードを実行する場合

メモ: この手順では、『オペレーティングシステム』メディアが必要です。このメディアはオプションのため、一部のコンピュータには付属していない場合があります。

新しいコンピュータに情報を転送するには、次の手順を実行します。

1. ファイルと設定の転送ウィザードを開くには、以下の手順を実行します。**スタート** → **すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** → **ファイルと設定の転送ウィザード** とクリックします。
2. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
3. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で、**転送先の新しいコンピュータ** → **次へ** をクリックします。
4. **Windows XP CD がありますか?** 画面で、**Windows XP CD からウィザードを使います** → **次へ** をクリックします。
5. **今、古いコンピュータに行ってください** 画面が表示されたら、古いコンピュータまたはソースコンピュータに行きます。このとき、**次へ** をクリックしないでください。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

1. 古いコンピュータで、Windows XP の『オペレーティングシステム』メディアを挿入します。
2. **Microsoft Windows XP へようこそ** 画面で、**追加のタスクを実行する** をクリックします。
3. **実行する操作の選択** で、**ファイルと設定の転送ウィザード**→ **次へ** とクリックします。
4. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送元の古いコンピュータ**→ **次へ** をクリックします。
5. **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。
6. **何を転送しますか?** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。

   情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています...** 画面が表示されます。

7. **終了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

1. 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。
2. **ファイルと設定はどこにありますか?** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。

   ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

   設定とファイルがすべて適用されると、**終了** 画面が表示されます。

3. **終了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

オペレーティングシステムメディアを使用せずにファイルと設定の転送ウィザードを実行する場合

『オペレーティングシステム』メディアを使用せずに、ファイルと設定の転送ウィザードを実行するには、バックアップイメージファイルをリムーバブルメディアに生成できるウィザードディスクを作成する必要があります。

ウィザードディスクを作成するには、Windows XP を搭載した新しいコンピュータを使用して、以下の手順を実行します。

1. ファイルと設定の転送ウィザードを開くには、以下の手順を実行します。**スタート**→ **すべてのプログラム**→ **アクセサリ**→ **システムツール**→ **ファイルと設定の転送ウィザード** とクリックします。
2. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
3. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で、**転送先の新しいコンピュータ**→ **次へ** をクリックします。
4. **Windows XP CD がありますか?** 画面で、**ウィザードディスクを次のドライブに作成**→ **次へ** をクリックします。
5. 書き込み可能 CD などのリムーバブルメディアを挿入して、**OK** をクリックします。
6. ディスク作成が完了したら、今、古いコンピュータに行ってください というメッセージが表示されますが、**次へ** はクリックしないでください。
7. 古いコンピュータに移動します。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

1. 古いコンピュータで、ウィザードディスクを挿入します。
2. **スタート**→ **ファイル名を指定して実行** とクリックします。
3. **ファイル名を指定して実行** ウィンドウの **名前** フィールドで、**fastwiz**（該当するリムーバブルメディア）へのパスを参照して入力し **OK** をクリックします。
4. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
5. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送元の古いコンピュータ**→ **次へ** をクリックします。
6. **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。
7. **何を転送しますか?** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。

情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています...** 画面が表示されます。

8. **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

1. 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。
2. **ファイルと設定はどこにありますか?** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。画面の指示に従います。

   ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

   設定とファイルがすべて適用されると、**収集フェーズを処理しています...** 画面が表示されます。

3. **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

ユーザーアカウントおよびユーザーの簡易切り替え

ユーザーアカウントの追加

オペレーティングシステムがインストールされると、コンピュータ管理者または管理者権限を持つユーザーは、追加するユーザーアカウントを作成することができます。

Windows Vista

1. Windows Vista スタートボタン をクリックし、**Control Panel**(コントロールパネル)をクリックします。
2. **Add or remove user accounts**(ユーザーアカウントの追加または削除)をクリックします。

   User Account Control(ユーザーアカウントコントロール)ダイアログボックスが表示された場合、**Continue**(続行)をクリックするか、システム管理者パスワードを入力して **Submit**(送信)をクリックします。

3. **Manage Accounts**(アカウントの管理)ウィンドウで、**Create a new account**(新しいアカウントを作成する)をクリックします。
4. 新しいアカウントとして使用したい名前を入力し、希望するアカウントタイプをクリックします。
5. **Create Account**(アカウントの作成)をクリックします。

   新しいアカウント名は **User Accounts**(ユーザーアカウント)ウィンドウに表示されます。

Windows XP

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **コントロールパネル** ウィンドウで、**ユーザーアカウント** をクリックします。
3. **作業を選びます** で、**新しいアカウントを作成する** をクリックします。
4. **新しいアカウントに名前を付けます** で、新しいユーザーの名前を入力して、**次へ** をクリックします。
5. **アカウントの種類を選びます** で、以下の項目の 1 つをクリックします。
   - **コンピュータの管理者** - すべてのコンピュータ設定を変更することができます。
   - **制限** - ご自分のパスワードなど、個人的な設定のみを変更することができます。プログラムをインストールしたりインターネットを使用したりすることはできません。

メモ: Windows XP Home Edition または Windows XP Professional のいずれを使用するかによって、他に利用できる追加のオプションが異なります。また、Windows XP Professional で利用できるオプションは、コンピュータがドメインに接続されているかによっても異なります。

6. **アカウントの作成** をクリックします。

ユーザーの簡易切り替え

ユーザーの簡易切り替えにより、先に使用していたユーザーがログオフしなくても、複数のユーザーが 1 台のコンピュータにアクセスできます。

Windows Vista

1. Windows Vista スタートボタン をクリックして、**Transfer files and settings**（ファイルと設定の転送）→ **Start Windows Easy Transfer**（Windows 転送ツールの開始）をクリックします。

   現在のユーザーの名前およびピクチャが、スタートメニューに表示されます。

2. スタートメニューの右下隅にある右矢印アイコンをクリックします。
3. **Switch User**（ユーザーの切り替え）をクリックします。
4. 切り替えたいユーザーアカウントの名前をクリックします。
5. 該当する場合、パスワードを入力します。
6. **Go**（開始）矢印をクリックします。
7. **Start**（開始）をクリックします。

   Start（スタート）メニューに、ユーザーの名前とピクチャが表示されます。

Windows XP

メモ: ユーザーの簡易切り替えは、コンピュータで Windows XP Professional が動作していて、コンピュータがコンピュータドメインのメンバーである場合、またはコンピュータに搭載されているメモリが 128 MB 未満の場合は無効になります。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ログオフ** をクリックします。
2. **Windows のログオフ** ウィンドウで、**ユーザーの切り替え** をクリックします。

ユーザーの簡易切り替えを使用する場合、前のユーザーが実行していたプログラムはバックグラウンドで使用され続けるため、コンピュータの動作が遅く感じられることがあります。また、ゲームや DVD ソフトウェアなどのマルチメディアプログラムは、ユーザーの簡易切り替えでは動作しないことがあります。詳細については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。

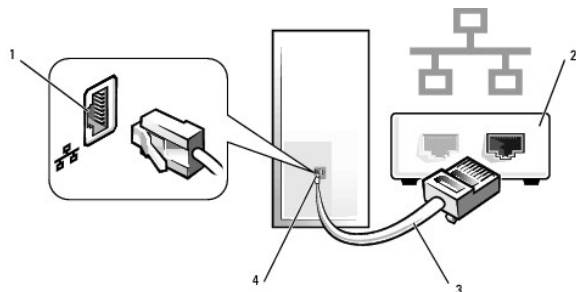
家庭用および企業用ネットワークのセットアップ

ネットワークアダプタへの接続

メモ: ネットワークケーブルをコンピュータのネットワークアダプタに差し込みます。ネットワークケーブルをコンピュータのモデムコネクタに差し込まないでください。ネットワークケーブルを壁の電話ジャックに差し込まないでください。

1. ネットワークケーブルをコンピュータ背面のネットワークアダプタコネクタに接続します。

   ケーブルをカチッという感触がある所定の位置に収まるまで差し込みます。次に、ケーブルを軽く引っ張り、ケーブルの接続を確認します。

2. ネットワークケーブルのもう一方の端をネットワークデバイスに接続します。

1	ネットワークアダプタコネクタ	2	ネットワークデバイス	3	ネットワークケーブル
4	コンピュータのネットワークアダプタコネクタ				

ネットワークセットアップウィザード

Windows Vista

1. Windows Vista スタートボタン をクリックし、**Connect To**（接続）→ **Set up a connection or network**（接続またはネットワークのセットアップ）とクリックします。
2. **Choose a connection option**（接続オプションの選択）でオプションを選択します。
3. **Next**（次へ）をクリックし、ウィザードの指示に従います。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムには、家庭または小企業のコンピュータ間で、ファイル、プリンタ、またはインターネット接続を共有するための手順を案内するネットワークセットアップウィザードがあります。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **通信** とポイントして、**ネットワークセットアップウィザード** をクリックします。
2. **ネットワークセットアップウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
3. **ネットワーク作成のチェックリスト** をクリックします。

メモ: インターネットに直接接続している と表示された接続方法を選択すると、Windows XP Service Pack 1（SP1）以降で提供されている内蔵ファイアウォールを使用することができます。

4. チェックリストの項目を完了し、必要な準備を行います。
5. ネットワークセットアップウィザードに戻り、画面の指示に従います。

目次に戻る

目次に戻る

コンピュータカバーの取り付け

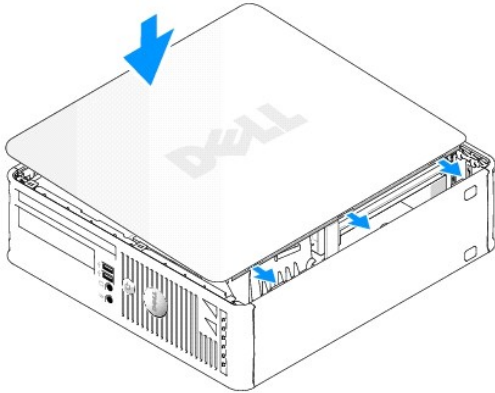
Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

1. すべてのケーブルがしっかり接続され、ケーブルが邪魔にならない場所に束ねられているか確認します。

   電源ケーブルがドライブの下に挟まらないように、電源ケーブルを慎重に手前に引きます。

2. コンピュータの内部に工具や余った部品が残っていないか確認します。

3. カバーを取り付けるには、次の手順を実行します。
   a. カバーの下側を、コンピュータの底面の縁に沿ってあるヒンジタブに合わせます。
   b. ヒンジタブをてこにして、所定の位置にカチッと収まるまでカバーを降ろします。

   c. コンピュータを動かす前に、カバーが正しくはまっていることを確認します。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

4. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

   カバーを取り外してから取り付けると、次のコンピュータ起動時に、シャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

   ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）

5. セットアップユーティリティで、**Chassis Intrusion** を **On** または **On-Silent** に変更して、シャーシイントリュージョンディテクタをリセットします（セットアップユーティリティを参照）。

メモ: 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

[目次に戻る]

● PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ

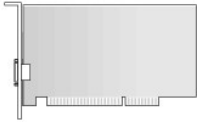
PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

お使いの Dell™ コンピュータは PS/2 シリアルポートアダプタをサポートしており、次の PCI カードおよび PCI Express カード用のコネクタを備えています。

- ロープロファイル PCI カードスロットを 1 つ
- ロープロファイル PCI Express x16 カードスロットを 1 つ

メモ: お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

PCI カード

PCI カードの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

メモ: PCI カードの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。

1	リリースタブ	2	カード固定ラッチ	3	カード
4	カードエッジコネクタ	5	カードコネクタ		

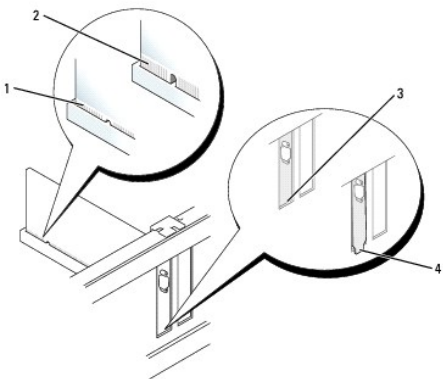
3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に、手順 5 に進みます。

4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。次に手順 6 に進みます。

5. カードを取り付ける準備をします。

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

メモ: カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

6. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	完全に装着されたカード	2	完全に装着されていないカード	3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット				

7. カード保持ラッチを閉める前に、以下のことを確認します。

   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせガイドと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

8. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

9. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

メモ: カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

11. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのライン入力コネクタに接続しないでください（背面パネルコネクタ を参照）。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

12. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。

13. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

メモ: PCI カードの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。

3. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

4. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。

1	リリースタブ	2	カード固定ラッチ	3	カード
4	カードエッジコネクタ	5	カードコネクタ		

5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

6. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。

   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

7. 所定の位置にカチッと収まるまでカード固定ラッチを閉じて、残りのカードを固定します。

8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

9. カードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

10. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

    b. 外付けオーディオデバイスをコンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

メモ: カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

11. ネットワークアダプタカードコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティを参照）。

   b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続します。

PCI Express および DVI カード

お使いのコンピュータは、ロープロファイル PCI Express x16 カード 1 枚をサポートしています。

別のタイプの PCI Express カードを取り付ける場合は、オペレーティングシステムからカード用の現在のドライバを削除します。詳細については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

PCI Express x16 カードまたは DVI カードの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

メモ: PCI カードの位置については、システム基板コンポーネント を参照してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。

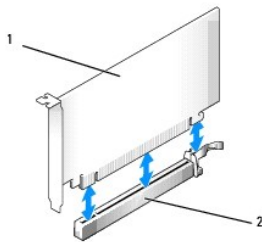
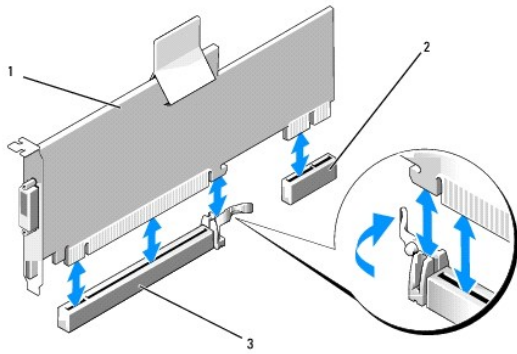
3. 新しい PCI Express x16 カードまたは DVI カードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に、手順 5 に進みます。

4. PCI Express x16 カードまたは DVI カードを交換する場合は、既存のカードを取り外します（PCI Express x16 カードまたは DVI カードの取り外し を参照）。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。次に手順 6 に進みます。

5. カードを取り付ける準備をします。

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

メモ: カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

6. カードをコネクタに置き、しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	PCI Express x16 カード	2	PCI Express x16 カードコネクタ

1	PCI Express x16 DVI カード	2	DVI カードコネクタ	3	PCI Express x16 カードコネクタ

1	完全に装着されたカード	2	完全に装着されていないカード	3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット				

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

7. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

8. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。

   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

9. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

メモ: カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

11. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのライン入力コネクタに接続しないでください（背面パネルコネクタ を参照）。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

12. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **Off** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。

13. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express x16 カードまたは DVI カードの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。

3. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

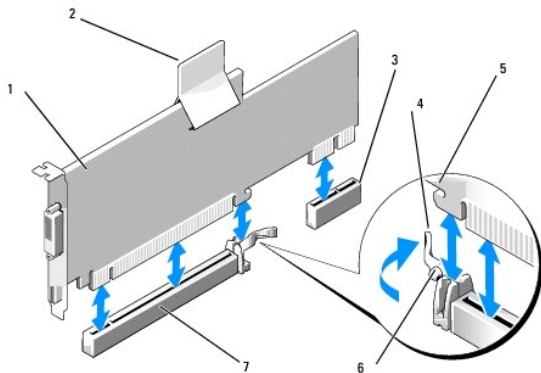
4. カードクリップタブが解除されるまで、親指を使ってカードクリップレバーを押します。

   PCI Express x16 カードを取り外す場合は、手順 5 に進みます。

   DVI カードを取り外す場合は、手順 6 に進みます。

5. レバーを押しながらカードを引き上げて、カードコネクタから引き抜きます。

1	PCI Express x16 カード	2	レバー	3	固定スロット（すべてのカードに付いているわけではありません）
4	カードクリップタブ	5	PCI Express x16 カードコネクタ		

6. レバーを押しながら、取り外し用プルタブを引き上げ、カードコネクタからカードを取り外します。

1	PCI Express x16 DVI カード	2	取り外し用プルタブ	3	DVI カードコネクタ
4	レバー	5	固定スロット	6	カードクリップタブ
7	PCI Express x16 カードコネクタ				

7. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

8. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。
   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

9. 所定の位置にカチッと収まるまでカード固定ラッチを閉じて、残りのカードを固定します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

11. カードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

12. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated Audio** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。
    b. 外付けオーディオデバイスをコンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. ネットワークアダプタカードコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動して、**Onboard Devices** グループから **Integrated NIC** を選択し、設定を **On** に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続します。

PS/2 シリアルポートアダプタ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

PS/2 シリアルポートアダプタの取り付け

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。

3. フィラーブラケットが取り付けられている場合は、取り外します。

メモ: コンピュータに合わせたアダプタの設定、内部の接続、またはカスタマイズの情報については、アダプタに付属のマニュアルを参照してください。

4. PS/2 シリアルポートアダプタブラケットを固定スロットに揃えて、しっかりと押し込みます。アダプタがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

5. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。
   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

6. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

注意: カードケーブルは、カードの上を通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

1	リリースタブ	2	アダプタ保持ラッチ	3	シリアルポートアダプタブラケット
4	シリアルポートアダプタコネクタ	5	シリアルポートアダプタシステム基板コネクタ（PS2/SER2）		

7. システム基板の PS/2 シリアルポートアダプタコネクタ（PS2/SER2）にアダプタケーブルを接続します（システム基板コンポーネント を参照）。

メモ: ケーブル接続については、PS/2 シリアルポートアダプタに付属のマニュアルを参照してください。

8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

PS / 2 シリアルポートアダプタの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し上げ、ラッチを弧を描くように動かして開きます。
3. システム基板から PS/2 シリアルポートケーブルを外します（システム基板コンポーネント を参照）。
4. PS/2 シリアルポートアダプタブラケットの上端の角をつかみ、コネクタからそっと取り外します。
5. アダプタを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

6. カード固定装置を閉じる前に、次のことを確認します。
   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている
7. 所定の位置にカチッと収まるまでカード固定ラッチを閉じて、残りのカードを固定します。
8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

目次に戻る

目次に戻る

● プロセッサ

プロセッサ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

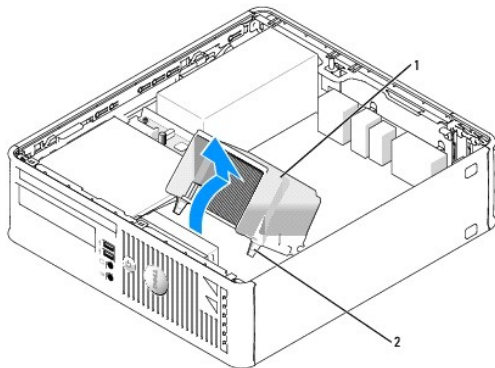
注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

プロセッサの取り外し

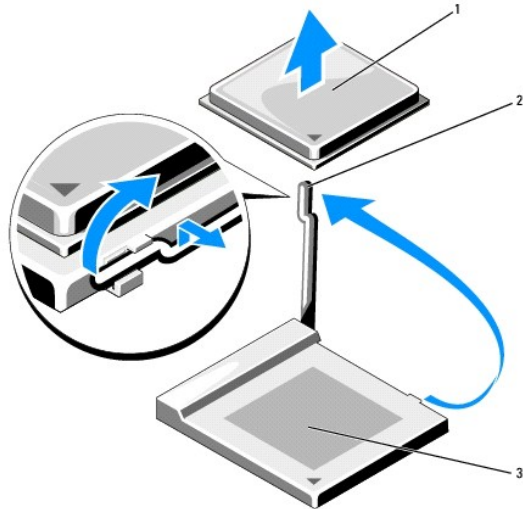
1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. ハードディスクドライブを取り外します（ハードディスクドライブの取り外し を参照）。
3. 取り付けられている場合、ヒートシンクアセンブリのケーブル配線用クリップからフロッピードライブケーブルを外します。
4. ヒートシンクアセンブリの両端にあるネジを緩めます。

警告: プラスティック製のシールドがあっても、ヒートシンクアセンブリは正常な動作中に過熱する場合があります。 十分な時間を置き、温度が下がったことを確認してから、ヒートシンクアセンブリに触るようにします。

注意: ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させる前に、ヒートシンクとプロセッサを接合しているサーマルグリースを剥がしやすくするため、アセンブリを左右にひねります。これにより、プロセッサに損傷を与えずに、ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させながらソケットからプロセッサを引き出すことができます。

5. ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させ、コンピュータから取り外します。サーマルグリースが付いた面を上に向けて、ヒートシンクを上向きに置きます。

1	ヒートシンクアセンブリ	2	ハウジングのネジ（２）

注意: 新しいプロセッサに新しいヒートシンクが不要な場合、プロセッサを交換する際は、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

6. プロセッサが外れるまで、リリースレバーをまっすぐ引き上げます。

1	プロセッサ	2	リリースレバー	3	ソケット

注意: プロセッサをソケットから取り外す際は、ピンを曲げないように注意してください。ピンが曲がると、プロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

7. プロセッサをソケットから取り外します。

   ソケットに新しいプロセッサを取り付けられるよう、リリースレバーはリリースの位置に上げたままにして、プロセッサの取り付け に進みます。

注意: プロセッサを取り外した後は、プロセッサピンにサーマルグリースが付かないように気を付けてください。ピンにサーマルグリースが付くと、プロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

プロセッサの取り付け

注意: コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を除去してください。

注意: プロセッサをソケットから交換する際は、ピンを曲げないように注意してください。ピンが曲がると、プロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

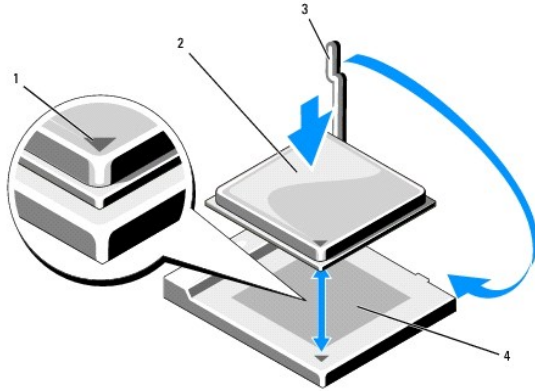
1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

注意: プロセッサを開封する際は、ピンを曲げないように気を付けてください。ピンが曲がると、プロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

2. ピンを曲げないように気を付けながら、新しいプロセッサを開封します。

注意: コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できない損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

3. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。

4. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印	2	プロセッサ	3	リリースレバー
4	プロセッサソケット				

注意: プロセッサへの損傷を防ぐため、プロセッサとソケットがきちんと揃っているか確認します。プロセッサを取り付ける際は、力を入れすぎないでください。

5. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。

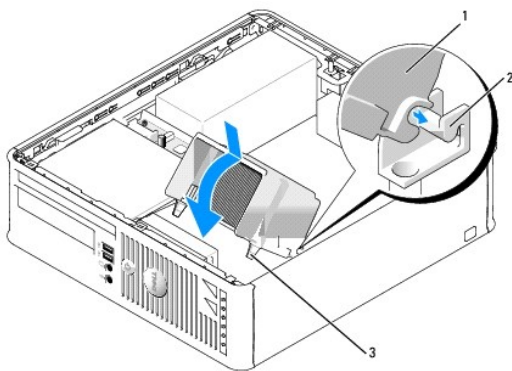
6. プロセッサをそっと押し下げながら、リリースレバーをシステム基板の所定の位置にカチッと収まるまで押し下げ、プロセッサを固定します。

7. ヒートシンクの下面からサーマルグリースを除去してください。

注意: 新しいサーマルグリースを塗ります。サーマルグリースは、重要な熱接着機能を持ち、プロセッサの最適稼動に必要です。

8. プロセッサの表面に、新しいサーマルグリースを塗ります。

9. ヒートシンクアセンブリを取り付けます。
   a. ヒートシンクアセンブリをヒートシンクアセンブリブラケットに元のように配置します。
   b. ヒートシンクアセンブリをコンピュータベースへ向けて下向きに回転させ、2 本のネジがシステム基板の穴に揃っていることを確認します。
   c. 2 本のネジを締めます。

注意: ヒートシンクが正しく装着され、しっかり固定されているか確認します。

1	ヒートシンクアセンブリ	2	ヒートシンクアセンブリブラケット	3	ハウジングのネジ（2）

10. ヒートシンクアセンブリのケーブル配線用クリップにフロッピードライブケーブルを通します。

11. ハードディスクドライブを取り付けます（ハードディスクドライブの取り付け を参照）。

12. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

目次に戻る

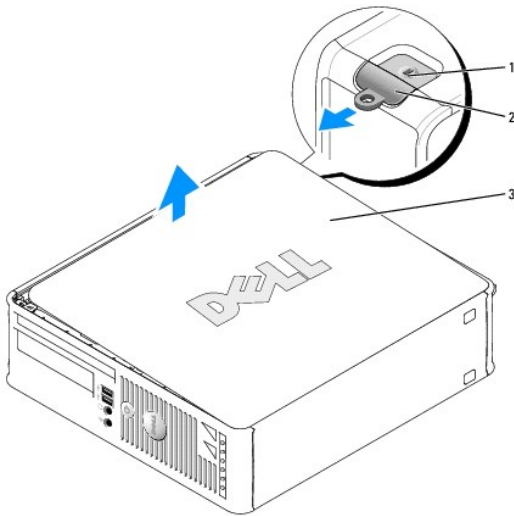
● コンピュータカバーの取り外し

コンピュータカバーの取り外し

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. 背面パネルのパドロックリングにパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。
3. 図に示されているカバーリリースラッチを確認します。次に、カバーを持ち上げながらリリースラッチを後方にスライドさせます。
4. コンピュータカバーの側面を持ち、底面のヒンジをてこの支点としてカバーを上に動かします。
5. カバーをヒンジタブから取り外し、柔らかく傷が付きにくい場所に置いておきます。

警告: グラフィックカードのヒートシンクは、通常の動作でもかなり熱くなることがあります。グラフィックカードのヒートシンクに触れる前には十分に時間をかけ、ヒートシンクの温度が下がっていることを確認してください。

1	セキュリティケーブルスロット	2	カバーリリースラッチ	3	コンピュータカバー

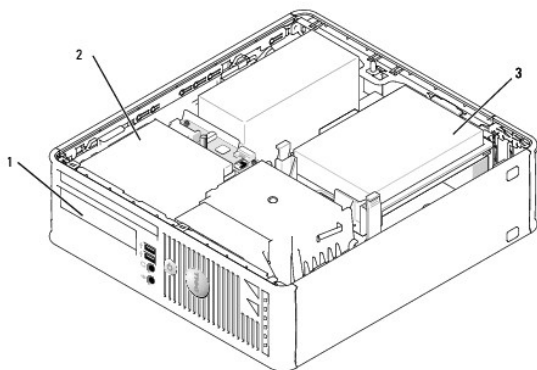
目次に戻る

目次に戻る

ドライブ

ドライブ

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- SATA ハードディスクドライブを 1 台
- フロッピードライブまたはメディアカードリーダーを 1 台
- SATA 光学ドライブを 1 台

1	オプションのフロッピードライブまたはメディアカードリーダー用の FlexBay	2	光学ドライブ	3	ハードディスクドライブ

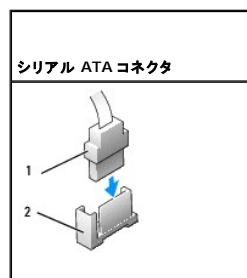
一般的な取り付けガイドライン

1. SATA ハードディスクドライブを、システム基板の「SATA0」というラベルのコネクタに接続します（システム基板コンポーネント を参照）。
2. SATA 光学ドライブを、システム基板の「SATA1」というラベルのコネクタに接続します。

ドライブケーブルの接続

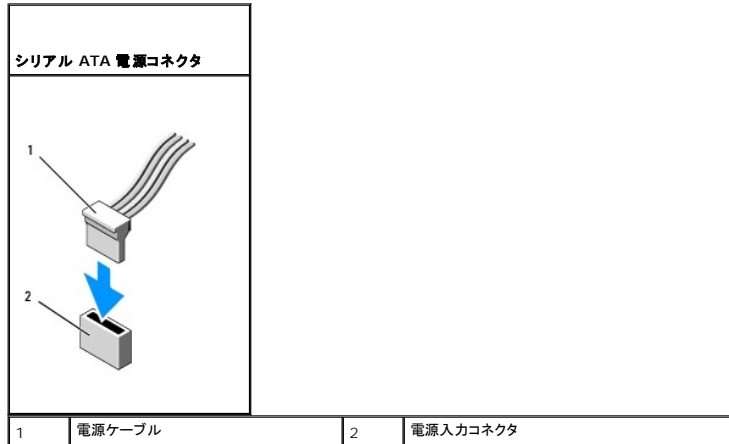
ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

シリアル ATA コネクタ

1	インタフェースケーブルコネクタ	2	インタフェースコネクタ

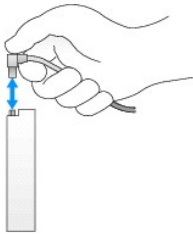
インタフェースコネクタは、カードを正しく挿入できるように設計されています。

注意: インタフェースケーブルを誤った方向に差し込むと、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

シリアル ATA 電源コネクタ

1	電源ケーブル	2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

SATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持って作業を行います。

ハードディスクドライブ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

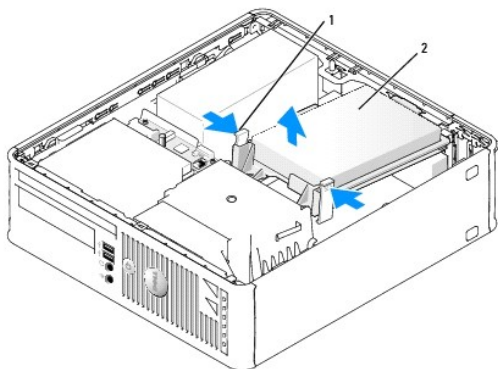
警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

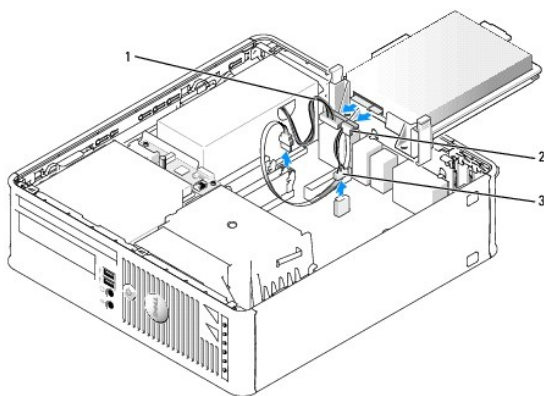
注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

ハードディスクドライブの取り外し

1. 残しておきたいデータが保存されているハードディスクドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
4. コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。
5. ドライブ両端の 2 つの青色の固定タブを押し入れ、ドライブを上にスライドさせてコンピュータから出します。

注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。 ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

6. ドライブをコンピュータ本体から取り出します。接続されているケーブルを引っ張らないように注意してください。

1	固定タブ（2）	2	ハードディスクドライブ

7. 電源ケーブルとデータケーブルをドライブから外します。

1	電源ケーブル	2	SATA データケーブル	3	ファンケーブル

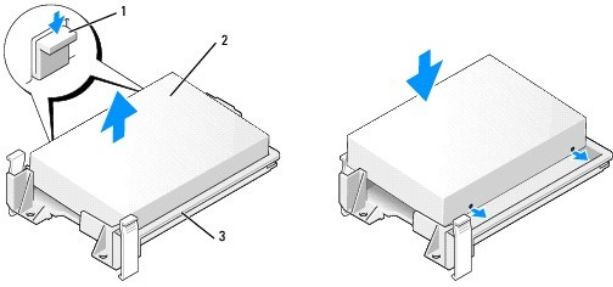
8. ハードディスクドライブファンをシステム基板から外します。

ハードディスクドライブの取り付け

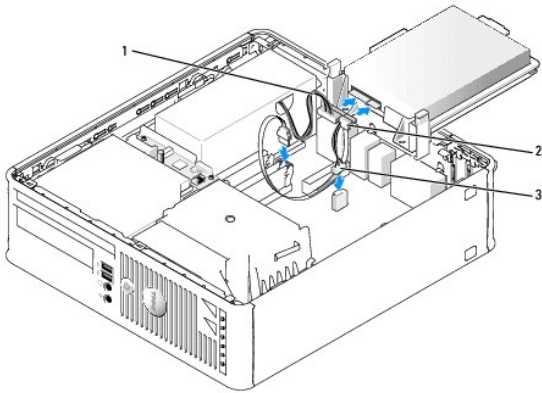
1. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

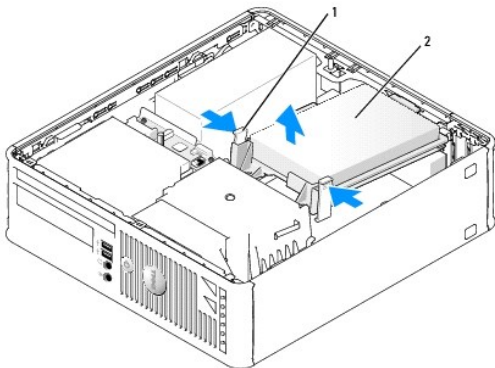
注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

2. 交換用のハードディスクドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。

3. 交換用のハードディスクドライブにプラスチックのドライブブラケットがない場合は、既存のドライブからブラケットをカチッと取り外します。

1	リリースタブ（2）	2	ドライブ	3	ハードディスクドライブブラケット

4. ハードディスクドライブファンをシステム基板に接続します（システム基板コンポーネント を参照）。

5. 電源ケーブルおよびデータケーブルをドライブに接続します。

1	電源ケーブル	2	SATA データケーブル	3	ファンケーブル

6. カチッと所定の位置に収まるまで、慎重にドライブを置きます。

1	リリースタブ（2）	2	ハードディスクドライブ

7. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。

8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

9. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。

10. コンピュータの電源を入れます。

11. セットアップユーティリティを起動し（セットアップユーティリティの起動を参照）、適切な **Primary Drive** オプション（**0** または **2**）をアップデートします。

12. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

13. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

14. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードディスクドライブをテストします（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

15. ハードディスクドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

ハードディスクドライブファンの交換

1. 作業を開始する前に の手順に従います。

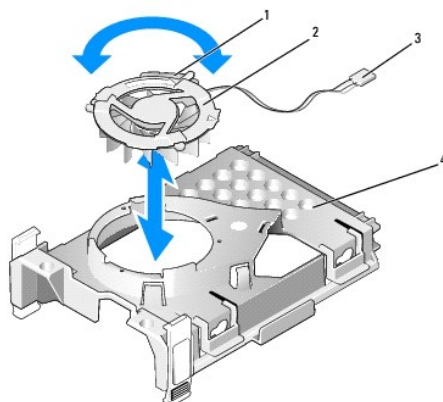
2. ハードディスクドライブを取り外します（ハードディスクドライブの取り外し を参照）。

3. ハードディスクドライブを上下逆さまにすると、ドライブブラケットの下にハードディスクドライブファンが見えます。

4. 次の手順で、ハードディスクドライブファンを取り外します。

   a. ファンの背面パネルにあるリリースタブを持ち上げます。

   b. ファンの背面パネル矢印とは反対方向にファンを回します。

   c. 持ち上げて、ハードディスクドライブブラケットからファンと背面パネルを外します。

1	ファンリリースタブ	2	背面パネル付きファン	3	電源ケーブル
4	ハードディスクドライブブラケット				

5. 次の手順で、ハードディスクドライブファンを取り付けます。

   a. ファンを上下逆さまにして背面を上向きにし、ファンの背面パネルにある三角形とハードディスクドライブブラケットの背面にある三角形の位置を合わせます。

   b. ファンと背面パネルを、背面パネルの矢印の方向に回します。

6. ハードディスクドライブを取り付けます（ハードディスクドライブの取り付け を参照）。

光学ドライブ

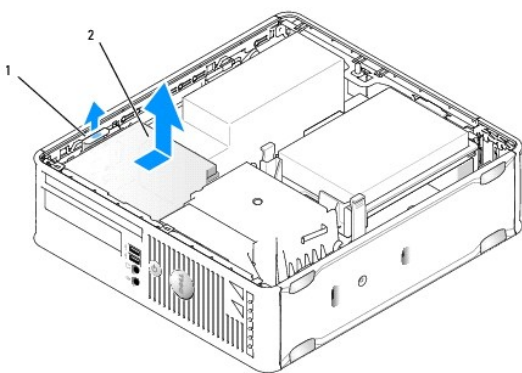
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

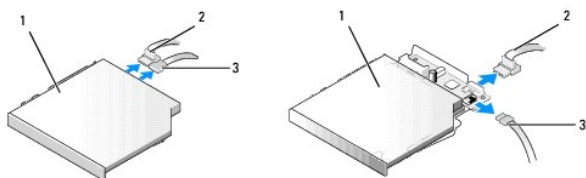
警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

光学ドライブの取り外し

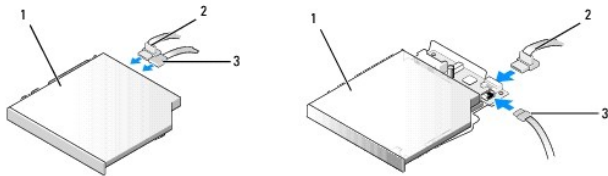
1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。

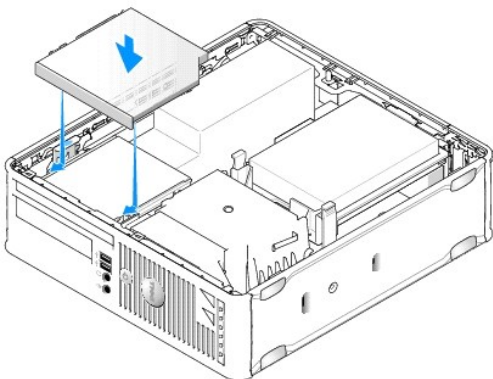
注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

3. ドライブリリースラッチを引き上げ、ドライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。次に、ドライブをコンピュータから持ち上げて取り外します。

1	ドライブリリースラッチ	2	光学ドライブ

4. 電源ケーブルおよびデータケーブルを、ドライブの背面から取り外します。

1	光学ドライブ	2	データケーブル	3	電源ケーブル

光学ドライブの取り付け

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。
2. ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。
3. 電源ケーブルおよびデータケーブルをドライブに接続します。

1	光学ドライブ	2	データケーブル	3	電源ケーブル

4. カチッと所定の位置に収まるまで、慎重にドライブを置きます。

5. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

6. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

7. ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

8. セットアップユーティリティを起動し、適切な **Drive** オプションを選択します（セットアップユーティリティの起動を参照）。

9. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

フロッピードライブまたはメディアカードリーダー

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り外し

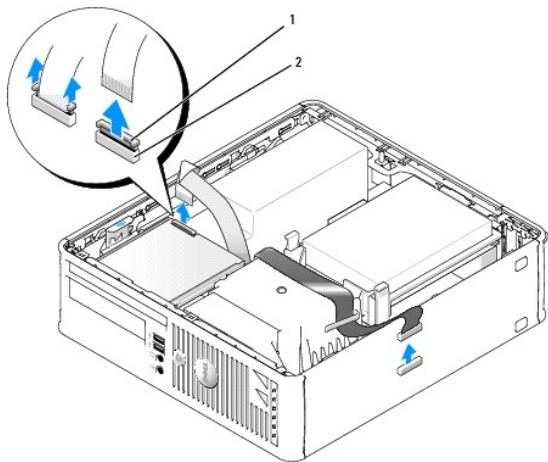
1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。

2. コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。

3. 光学ドライブを注意深く取り外します（光学ドライブ を参照）。

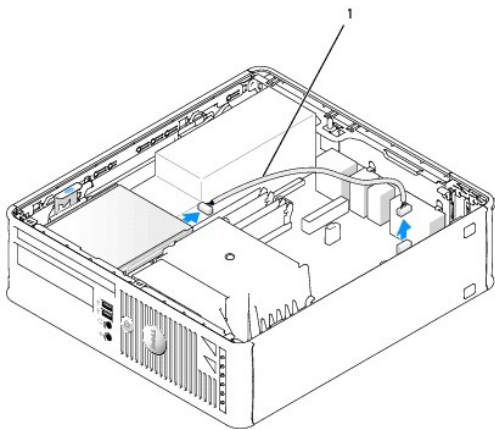
注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

4. フロッピードライブを取り外す場合は、ケーブルリリースタブを引き上げて、ロックを解除します。

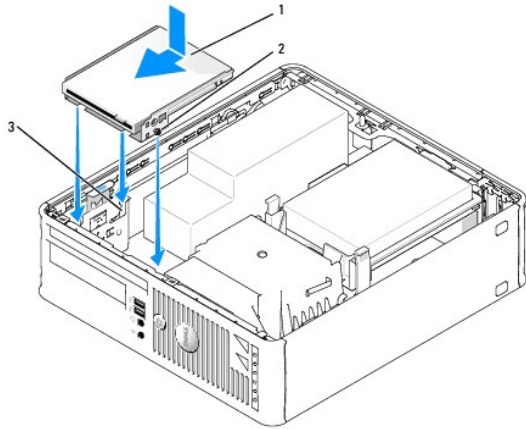
5. フロッピーデータケーブルのエッジコネクタからデータケーブルをそっと持ち上げます。

1	ケーブルリリースタブ	2	データケーブルエッジコネクタ

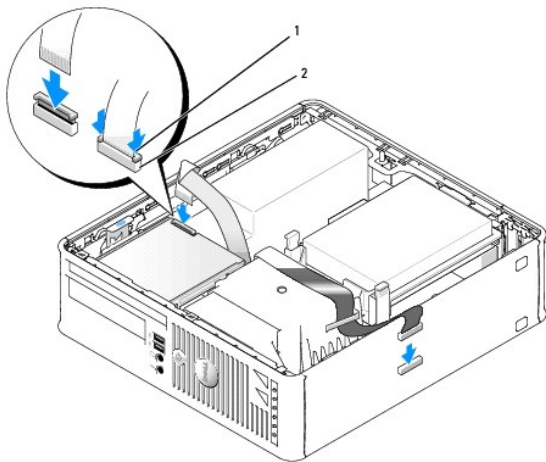
6. メディアカードリーダーを取り外す場合は、データケーブルを外します。

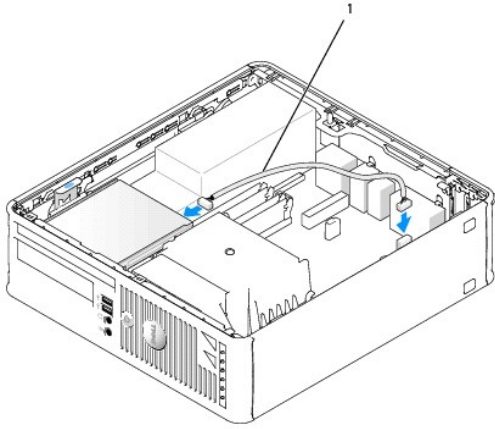
7. メディアカードリーダーを取り外す場合は、ハードディスクドライブを取り外します（ハードディスクドライブの取り外し を参照）。

8. データケーブルコネクタをシステム基板から取り外します。

1	メディアカードリーダーデータケーブル

9. ドライブリリースラッチを引き上げ、フロッピードライブまたはメディアカードリーダーをコンピュータ背面の方向にスライドさせます。ドライブまたはメディアカードリーダーを持ち上げて取り外します。

フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り付け

1	フロッピードライブまたはメディアカードリーダー	2	ネジ（3）	3	ブラケットレール（3）

1. 状況に応じて、次の手順を実行します。
   - 新しいフロッピードライブまたはメディアカードリーダーをインストールする場合は、ドライブベイカバーを取り外します。
   - ドライブを交換する場合は、既存のフロッピードライブまたはメディアカードリーダーを取り外します（フロッピードライブまたはメディアカードリーダー を参照）。
2. ドライブまたはメディアカードリーダーのネジをコンピュータのブラケットスロットに合わせ、カチッと所定の位置に収まるまで慎重にドライブを置きます。
3. 次の該当する手順を実行します。
   - フロッピードライブをインストールする場合、データケーブルをフロッピードライブのケーブルリリースタブに挿入し、カチッと所定の位置に収まるまでタブを押し下げます。
   - メディアカードリーダーをインストールする場合、ケーブルをメディアカードリーダーのコネクタに挿入します。
4. 次の該当する手順を実行します。
   - フロッピードライブをインストールする場合、データケーブルをシステム基板のコネクタに挿入します。

1	ケーブルリリースタブ	2	フロッピードライブのデータケーブルエッジコネクタ

   - メディアカードリーダーをインストールする場合、ハードディスクドライブを取り外し（ハードディスクドライブの取り外し を参照）、ケーブルを「USB1」とラベル表示されたシステム基板コネクタに接続します（システム基板コンポーネント を参照）。

1	メディアカードリーダーデータケーブル

5. 光学ドライブを取り付けます（光学ドライブ を参照）。

6. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

7. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

8. セットアップユーティリティを起動し、**Diskette Drive** オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします（セットアップユーティリティ を参照）。

   ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。

目次に戻る

目次ページへ戻る

Dell™ OptiPlex™ 740 ユーザーズガイド

スモールフォームファクターコンピュータ

コンピューター概要

情報の検索
スモールフォームファクターコンピュータ
スモールフォームファクターコンピュータ(モデル # DCCY)仕様
高度な機能
コンピューターのクリーニング
ドライバーとオペレーティングシステムの取り付け
トラブルの解決
Microsoft® Windows® XP と Windows Vista® の機能
トラブルシューティングツールとユーティリティ
困ったときは
保証
FCC 通達(米国のみ)
用語集

パーツの取り外しと交換

作業を開始する前に
コンピューターカバーの取り外し
シャーシイントリュージョンスイッチ
I/O パネル
ドライブ
PCI、PCI Express Card、PS/2 シリアルポートアダプター
スピーカー
電源ユニット
プロセッサー
バッテリー
システム基板の取り付け
メモリ
コンピューターカバーの取り付け

モデル: DCSM、DCNE、および DCCY

メモ、注意、警告

メモ: コンピューターを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

2009 年 9 月　RP699　Rev. A04

目次に戻る

I/O パネル

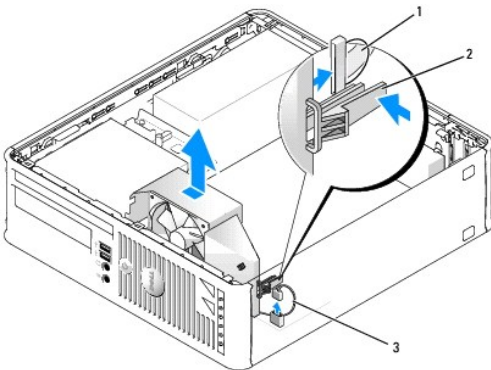
I/O パネル

I/O パネルの取り外し

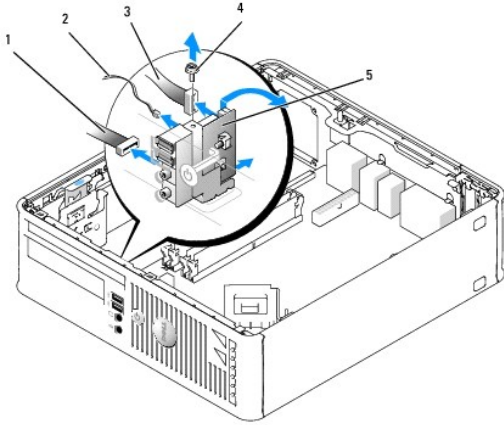
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

メモ: 新しい I/O パネルを取り付けるときに正しく配線できるよう、ケーブルを外す前にケーブルのすべての配線経路をメモしておいてください。

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. インストールされている場合は、光学ドライブおよびフロッピードライブ、またはメディアカードリーダーをドライブベイから取り外します（ドライブ を参照）。
3. プロセッサヒートシンクを外します（プロセッサ を参照）。
4. 前面のファンを取り外します。
   a. ファンコネクタを取り外します。
   b. ファンコントロールケーブルを取り外します。
   c. ファンを固定しているタブを内側に押し込み、本体からファンを持ち上げて、ファンをシャーシから外します。

1	ファンコントロールリボンケーブル	2	ファンリリースタブ	3	ファンケーブル

5. I/O パネルを外さない状態で外せるケーブルがあれば、I/O パネルからすべて外します。

   コンピュータからケーブルを取り外す際は、正しく取り付けなおせるようにケーブルの配線経路をメモしておいてください。

1	ファンケーブルコネクタ	2	温度センサーケーブル	3	I/O ケーブルコネクタ
4	ネジ	5	I/O パネル		

6. コンピュータカバーの内側から、I/O パネルをコンピュータに固定している取り付けネジを取り外します。

7. I/O パネルを前後に動かして、丸いタブをシャーシの 2 つの孔から外します。

8. 残りのケーブルを外します。正しく取り付けなおせるように、ケーブルの配線経路をメモしておいてください。

9. I/O パネルをコンピュータから取り外します。

I/O パネルの取り付け

1. I/O パネルを取り付けるには、取り外し手順を逆の順序で実行します。

メモ: I/O パネルブラケットにあるガイドを使って I/O カードを正しい位置に合わせ、I/O パネルブラケットにある切り込みを使ってカードを設置してください。

目次に戻る

[目次に戻る]

- 電源装置

電源装置

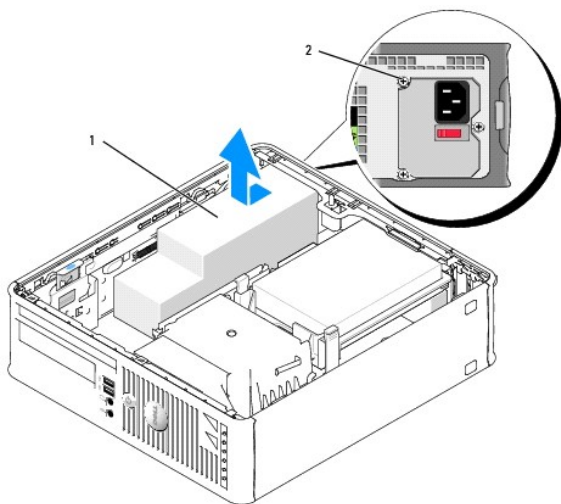
電源装置の交換

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. 光学ドライブが取り付けられている場合は、取り外します（光学ドライブの取り外し を参照）。
3. インストールされている場合、フロッピードライブまたはメディアカードリーダー を取り外します（フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り外し を参照）。
4. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

   DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータフレーム内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

5. コンピュータシャーシの背面に電源装置を取り付けている 3 本のネジを外します。

1	電源装置	2	ネジ

6. 電源装置を、コンピュータの前側へ 約 2.5 cm ほどスライドさせます。
7. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。
8. 交換用の電源装置をスライドさせて所定の位置に入れます。
9. 電源装置をコンピュータシャーシの背面に固定するネジを取り付けます。
10. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブに再接続します（コネクタの位置に関しては、システム基板コンポーネント を参照）。
11. フロッピードライブまたはメディアカードリーダーを取り付けます（フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り付け を参照）。

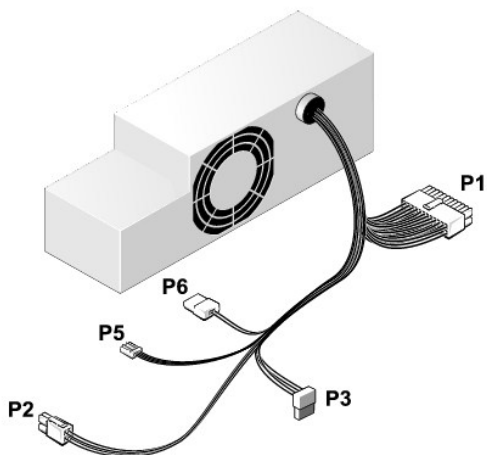
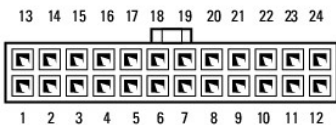
12. 光学ドライブを取り付けます（光学ドライブの取り付け を参照）。

13. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

14. AC 電源ケーブルを電源ユニットの AC 電源コネクタに接続します。

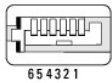
注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

15. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

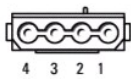
DC 電源コネクタ

DC 電源コネクタ P1

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	GND	黒色
4	VCC（+5 V）	赤色
5	GND	黒色
6	VCC（+5 V）	赤色
7	GND	黒色
8	PS_PWRGOOD*	灰色
9	P5AUX	紫色
10	V_12P0_DIG	黄色
11	V_12P0_DIG	黄色
12	+3.3 V	橙色
13（オプション）	+3.3V	橙色
14	-12 V*	青色

15	GND	黒色
16	PWR_PS_ON	緑色
17	GND	黒色
18	GND	黒色
19	GND	黒色
20	NC	NC
21	VCC（+5V）	赤色
22	VCC（+5V）	赤色
23	VCC（+5V）	赤色
24	GND	黒色
* 18 AWG ワイヤの代わりに 22 AWG ワイヤを使用		

DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	GND	黒色
2	GND	黒色
3	+12 VDC	黄色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3

ピン番号	信号名	24 AWG ワイヤ
1	NC	NC
2	+5 VDC	赤色
3	+5 VDC	赤色
4	NC	NC
5	GND	黒色
6	GND	黒色

DC 電源コネクタ P5

ピン番号	信号名	24 AWG ワイヤ
1	GND	黒色
2	+5 VDC	赤色
3	NA	NA

4	+3.3 VDC	橙色

目次に戻る

目次に戻る

- スモールフォームファクターコンピュータ（モデル # DCCY）の仕様

スモールフォームファクターコンピュータ（モデル # DCCY）の仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサの種類	AMD Phenom™ プロセッサ **メモ:** AMD Phenom プロセッサは、8 Mb NVRAM チップを必要とすることから、8 Mb NVRAM チップ搭載のモデルでのみ使用されます。お使いのコンピュータが 8 Mb NVRAM チップとAMD Phenom プロセッサ内蔵の場合、enhanced という文字が BIOS 画面およびセットアップユーティリティ画面内のタイトルに表示されます。 AMD Athlon™ 64 X2 デュアルコアプロセッサ AMD Athlon 64
内蔵キャッシュ	AMD Phenom クアドコア: 2 MB L2 専用キャッシュおよび 2-MB 共有 L3 キャッシュ AMD Phenom Triple-Core: 1.5 MB L2 専用キャッシュおよび 2-MB 共有 L3 キャッシュ AMD Athlon 64 X2: 2 MB L2 専用キャッシュ AMD Athlon 64 X2: 1 MB L2 専用キャッシュ AMD Athlon: 1 MB L2 専用キャッシュ AMD Athlon: 512 KB L2 専用キャッシュ

メモリ	
タイプ	667 または 800 MHz DDR2 SDRAM
メモリのコネクタ	4
対応するメモリモジュール	256MB、512MB、1GB、または 2GB 非 ECC
最小メモリ	デュアルチャネル: 512 MB シングルチャンネル: 256 MB
最大搭載メモリ	8 GB

コンピュータ情報	
チップセット	nVidia GeForce 6150LE/NForce 430
データバス幅	64 ビット
アドレスバス幅	40 ビット
DMA チャネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ（NVRAM）	8 Mb または 4 Mb **メモ:** AMD Phenom プロセッサは、8 Mb NVRAM チップを必要とすることから、8 Mb NVRAM チップ搭載のモデルでのみ使用されます。お使いのコンピュータが 8 Mb NVRAM チップとAMD Phenom プロセッサ内蔵の場合、enhanced という文字が BIOS 画面およびセットアップユーティリティ画面内のタイトルに表示されます。
NIC	DMTF によって定義されている ASF 1.03 および 2.0 サポートを組み込んだ内蔵ネットワークインタフェース

	10/100/1000 通信が可能

ビデオ	
タイプ	nVidia 内蔵ビデオ(DirectX 9.0c Shader Model 3.0 Graphics Processing Unit)または PCI Express x16 グラフィックスカードまたは DVI グラフィックスカード。

オーディオ	
タイプ	Sigma Tel 9200 CODEC(2.1 チャネルオーディオ)
ステレオ変換	24 ビット AD 変換および 24 ビット DA 変換

コントローラ	
ドライブ	2 台のデバイスをサポートする 1 台の SATA コントローラ

拡張バス	
バスのタイプ	PCI 2.3 PCI Express 1.0A SATA 1.0A および 2.0 USB 2.0
バス速度	PCI: 133 MB/s PCI Express x16: 40 GB/秒(双方向速度) SATA: 1.5 Gbps および 3.0 Gbps USB: 480 Mbps 高速、12 Mbps フルスピード、1.2 Mbps 低速
カード	ロープロファイル、ハーフレングス
PCI	
コネクタ	1
カードサイズ	ロープロファイル
コネクタサイズ	124 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	32 ビット
PCI Express	
コネクタ	x16 X 1
カードサイズ	ロープロファイル
電源	最大 25 W
コネクタサイズ	164 ピン(x16)
コネクタデータ幅(最大)	16 PCI Express レーン(x16)

ドライブ	
外部アクセス可能	3.5 インチドライブ X 1 スリム光学ドライブ用ベイ X 1
内部アクセス可能	1 インチ幅ハードディスクドライブ用ベイ X 1

コネクタ	
外付けコネクタ:	
シリアル	9 ピンコネクタ、16550C 互換

パラレル	双方向 25 ピンコネクタ（メス）
ビデオ	15 ピン VGA コネクタ（メス）
ネットワークアダプタ	RJ-45 コネクタ
セカンダリシリアルポートアダプタ付き PS/2（オプション）	6 ピンミニ DIN X 2 **メモ:** このオプションは PCI スロットの内の 1 つを使用します。
オプションの DVI	36 ピンコネクタ **メモ:** このオプションは PCI スロットの内の 1 つを使用します。
USB	USB 2.0 互換コネクタ（前面パネルに 2 つ、背面パネルに 5 つ）
オーディオ	ライン入力およびライン出力用の 2 つのコネクタ、前面パネルのヘッドフォンおよびマイク用の 2 つのコネクタ
システム基板コネクタ:	
SATA	7 ピンコネクタ X 2
フロッピードライブ	38 ピンコネクタ
シリアル	オプションのセカンドシリアルポートカード用 24 ピンコネクタ
ファン	5 ピンのコネクタファン X 2
PCI 2.3	124 ピンコネクタ
PCIe-X16	164 ピンコネクタ
内蔵 USB	10 ピンコネクタ
イントルージョンスイッチ	3 ピンコネクタ
スピーカ	5 ピンコネクタ
メモリモジュール	240 ピンコネクタ X 4
12V 電源	4 ピンコネクタ
電源	24 ピンコネクタ
バッテリ	2 ピンソケット
前面パネル	40 ピンコネクタ

キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt><Del>	Microsoft® Windows® XP および Windows Vista では、Windows Security ウィンドウを表示、MS-DOS® モードでは、コンピュータを再スタート（再起動）
<F2> または<Ctrl><Alt><Enter>	内蔵のセットアップユーティリティを起動（システム起動時のみ）
<F12> または<Ctrl><Alt><F8>	ユーザーが単一起動用のデバイスを入力できる起動デバイスメニュー（システム起動時のみ）、またハードディスクドライブおよびシステム診断プログラムを実行するオプションを表示

ボタンとライト	
電源ボタン	シャーシの前面 - 押しボタン
電源ライト（電源ボタン内）	緑色のライト - スリープモードのときは緑色に点滅、電源がオンのときは緑色に点灯。 黄色のライト - 黄色の点滅は、インストールされたデバイスに問題があることを示し、黄色の点灯は内蔵電源の問題を示します（電源の問題 を参照）。
ハードディスクドライブアクセスライト	前面パネル - 緑色
リンクライト	前面パネル - 緑色の点灯はネットワーク接続を示す
リンク保全ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	背面パネル - 10 Mb 伝送時は緑色のライト、100 Mb 伝送時は橙色のライト、1000 Mb（1 Gb）伝送時は黄色のライト
動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	背面パネル - 黄色の点滅ライト
診断ライト	前面パネル - 4 つのライト 診断ライト を参照してください。
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

電 源	
DC 電源装置:	
ワット数	275 W
熱消費	最大 938.85 BTU/時
電圧	手動選択電源装置 90～135 V(50/60 Hz)、180～265 V (50/60 Hz)
バックアップバッテリ	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリ

寸 法	
縦幅	9.26 cm
横幅	31.37 cm
長さ	34.03 cm
重量	7.4 kg

環 境	
温度:	
動作時	10～35 ℃
保管時	-40～65 ℃
相対湿度	20～80 %(結露しないこと)
最大耐久震度:	
動作時	0.25 G(3～200 Hz、0.5 オクターブ / 分)
保管時	0.5 G(3～200 Hz、1 オクターブ / 分)
最大耐久衝撃:	
動作時	50.8 cm / 秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm / 秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ
高度:	
動作時	-15.2～3,048 m
保管時	-15.2～10,668 m

目次に戻る

目次ページへ戻る

Dell™ Optiplex 740™ Systems
ユーザーズガイド

● スピーカー

スピーカー

スピーカーの取り付け

注意：本セクションの作業を始める前に、『製品情報ガイド』に記載しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。

注意：コンピュータ内部のコンポーネントを静電気による損傷から防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体の静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

1. 「作業を始める前に」の手順に従ってください。
2. コンピューターのカバーを取り外します（「コンピューターカバーの取り外し」を参照）。
3. コンピューターのシャーシのシステムファンにスピーカーを取り付けます。
4. システム基板にケーブルを接続します。
5. コンピューターのカバーを取り付けます。.
6. コンピューターの電源を入れます。

スピーカーの取り外し

注意：本セクションの作業を始める前に、『製品情報ガイド』に記載しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。

注意：コンピュータ内部のコンポーネントを静電気による損傷から防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体の静電気を逃がしてください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

1. 「作業を始める前に」の手順に従ってください。
2. コンピューターのカバーを取り外します（「コンピューターカバーの取り外し」を参照）。
3. システム基板からケーブルを外します。
4. コンピューターのシャーシのシステムファンからスピーカーを取り外します。
5. コンピューターのカバーを取り付けます。.
6. コンピューターの電源を入れます。

目次ページへ戻る

Dell™ OptiPlex™ 740 ユーザーズガイド

スモールフォームファクターコンピュータ

お使いのコンピュータについて
情報の検索方法
スモールフォームファクターコンピュータ
スモールフォームファクターコンピュータ(モデル ＃ DCCY)の仕様
アドバンス機能
コンピュータのクリーニング
ドライバとオペレーティングシステムの再インストール
問題の解決
MicrosoftR WindowsR XP および Windows VistaR の特徴
トラブルシューティングツールと ユーティリティ
困ったときは
保証について
FCC 規制モデル(米国のみ)
用語集

部 品の取り外しと取り付け
作業を開始する前に
コンピュータカバーの取り外し
シャーシイントルージョンスイッチ
I/O パネル
ドライブ
PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ
電源装置
プロセッサ
バッテリー
システム基板の交換
メモリ
コンピュータカバーの取り付け

メモ、注意、警告

メモ: コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

モデル DCNE, DCSM および DCCY

2007 年 11 月 P/N RP699 Rev. A02

目次に戻る

スモールフォームファクターコンピュータ

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- お使いのスモールフォームファクターコンピュータについて
- コンピュータ内部

お使いのスモールフォームファクターコンピュータについて

正面図

1	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスからの起動については、セットアップユーティリティ を参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
2	電源ボタン	電源ボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意:** データの損失を防ぐため、電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。詳細に関しては、コンピュータの電源を切るを参照してください。 **注意:** お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
3	デルバッジ	このバッジを回転させて、コンピュータの方向に合わせることができます。バッジを回転させるには、バッジの外回りに指を置き、しっかり押してバッジを回します。バッジの下側近くにあるスロットを使って回転させることもできます。
4	ハードディスクドライブ動作ライト	ハードディスクドライブがアクセスされているときに、このライトが点滅します。
5	診断ライト	診断ライトは、診断コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細は、診断ライトを参照してください。
6	LAN インジケータライト	このライトは、LAN（ローカルエリアネットワーク）接続が確立されていることを示します。
7	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで以下のさまざまな動作状態を示します。 - 消灯 - コンピュータの電源は切れています。 - 緑色の点灯 - コンピュータは、通常の動作状態です。 - 緑色の点滅 - コンピュータは、省電力モードです。 - 橙色の点滅または点灯 - 電源の問題 を参照してください。 省電力モードから復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスが設定されている場合、キーボードかマウスを使います。スリープモードおよび省電力モードからの復帰の詳細については、電力の管理 を参照してください。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、システムライトを参照してください。
8	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカを取り付けることができます。
9	マイク用コネクタ	マイクのコネクタを使ってマイクを取り付けます。

10	3.5 インチドライブベイ	オプションのスリムラインフロッピードライブまたは、オプションのスリムラインメディアカードリーダーを装着できます。
11	光学ドライブ	このドライブにスリムラインメディア（サポートされている場合）を挿入します。

背面図

1	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。
2	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスを、適切なコネクタに差し込みます（背面パネルコネクタ を参照）。
3	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
4	電圧切り替えスイッチ	お使いのコンピュータには手動電圧切り替えスイッチが搭載されています。手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、スイッチはお使いになる地域の AC 電源に最も合った電圧に設定してください。 **注意:** 日本の AC 電源は 100 V ですが、電圧設定スイッチは 115 V の位置に設定してください。 また、モニタやコンピュータに接続している周辺機器もお使いになる地域の AC 電源で動作するように設定してください。
5	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
6	カバーリリースラッチ	コンピュータカバーを開くことができます。

背面パネルコネクタ

1	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ:** パラレルコネクタを持つカードが内蔵パラレルコネクタと同じアドレスに設定されていることをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細は、セットアップオプション を参照してください。
2	リンク保全ライト	・緑色 - 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・橙色- 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・黄色 - 1 Gbps（または 1000 Mbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・オフ - コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと

		収まったらネットワークケーブルは確実に接続されています。 **メモ:** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用して、ネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
4	ネットワーク動作ライト	黄色のライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している時に点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタを使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン入力コネクタ	ライン入力コネクタにカセットプレーヤー、CDプレーヤー、または VCR(ビデオカセットレコーダー)などの録音 / 再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	USB 2.0 コネクタ（5）	プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。
8	ビデオコネクタ	VGA 互換モニタからのケーブルを青色のコネクタに差し込みます。 **メモ:** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。キャップは取り外さないでください。お使いのモニタをグラフィックスカードのコネクタに接続します。 **メモ:** デュアルモニタをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
9	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 **メモ:** オプションの PS2/シリアルアダプタを使用している場合は、シリアルコネクタ 2 しかありません。 詳細は、セットアップオプション を参照してください。

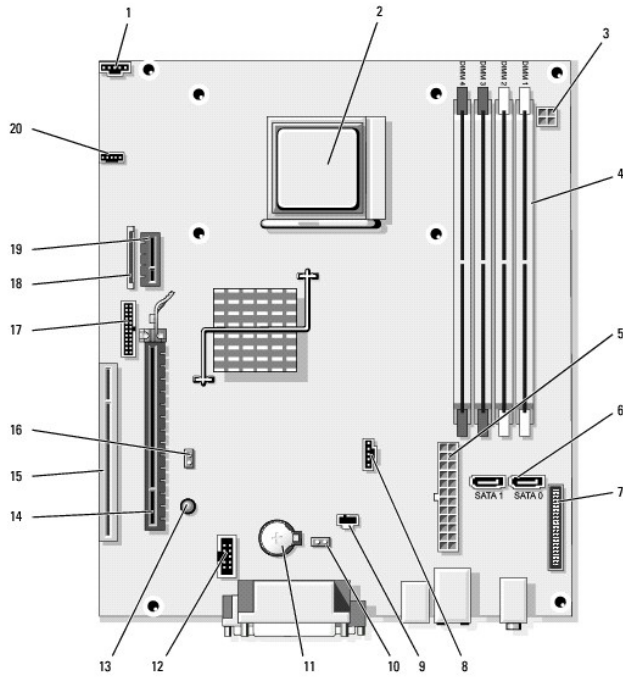
コンピュータ内部

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータカバーを開く際に、ケーブルをシステム基板から外してしまうことがないよう注意してください。

1	ドライブリリースラッチ	2	光学ドライブ	3	電源装置
4	シャーシイントルージョンスイッチ（オプション）	5	ハードディスクドライブ	6	カードスロット（2）
7	システム基板	8	ヒートシンクアセンブリ		

システム基板コンポーネント

1	ファンコネクタ（FAN_CPU）	2	プロセッサソケット（CPU）	3	電源コネクタ（PW_12V_A1）
4	メモリモジュールコネクタ（DIMM_1、DIMM_2、DIMM_3、DIMM_4）	5	電源コネクタ（POWER1）	6	SATA ドライブ コネクタ（SATA0、SATA1）
7	前面パネルコネクタ（FRONTPANEL）	8	ファンコネクタ（FAN_HDD）	9	イントルージョンスイッチコネクタ（INTRUDER）
10	CMOS リセットジャンパ（RTCRST）	11	バッテリソケット（BATTERY）	12	内蔵 USB（USB1）
13	スタンバイ（AUX_PWR_LED）	14	PCI Express x16 コネクタ（SLOT1）	15	PCI コネクタ（SLOT2）
16	パスワードジャンパ（PSWD）	17	シリアルコネクタ（PS2/SER2）	18	スリムフロッピードライブコネクタ（DSKT）
19	オプションの DVI カードコネクタ（DVI_HDR）	20	スピーカコネクタ（INT_SPKR）		

目次に戻る

[目次に戻る]

ドライバとオペレーティングシステムの再インストール

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- ドライバ
- お使いのオペレーティングシステムの復元
- Microsoft® Windows Vista® および Windows® XP の再インストール

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

注意: Microsoft Windows XP オペレーティングシステムを再インストールする際は、Microsoft® Windows® XP Service Pack 1 以降を使用する必要があります。

メモ: お使いのコンピュータに固有のイメージをインストールしてある場合、またはオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合、DSS ユーティリティを使用します。DSS はオプションの『Drivers and Utilities 』メディアおよび **support.jp.dell.com** から入手できます。

ドライバ

ドライバとは?

ドライバは、プリンタ、マウス、キーボードなどのデバイスを制御するプログラムです。すべてのデバイスにドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスは、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットを持っています。

お使いの Dell コンピュータには、出荷時に必要なドライバがすでにインストールされていますので、新たにインストールしたり設定したりする必要はありません。

注意: オプションの『Drivers and Utilities』メディアには、お使いのコンピュータに搭載されていないオペレーティングシステムのドライバも収録されています。インストールするソフトウェアがオペレーティングシステムに対応していることを確認してください。

キーボードドライバなど、ドライバの多くは Microsoft Windows オペレーティングシステムに付属しています。以下の場合には、ドライバをインストールする必要があります。

- オペレーティングシステムのアップグレード
- オペレーティングシステムの再インストール
- 新しいデバイスの接続または取り付け

ドライバの識別

デバイスに問題が発生した場合、問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

Windows Vista

デバイスに問題が発生した場合、問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

1. **Start**(スタート) をクリックし 、次に **Computer**(コンピュータ)を右クリックします。
2. **Properties**(プロパティ)→ **Device Manager**(デバイスマネージャ)をクリックします。

   メモ: User Account Control(ユーザーアカウントコントロール)ウィンドウが表示されます。システム管理者の場合は、**Continue**(続行)をクリックします。システム管理者ではない場合は、システム管理者に問い合わせて続行します。

一覧を下にスクロールして、デバイスアイコンに感嘆符([**!**])があるかどうかを確認します。

デバイス名の横に感嘆符がある場合、ドライバの再インストールまたは新しいドライバのインストールが必要になる場合があります(ドライバとユーティリティの再インストール を参照)。

Windows XP

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **作業する分野を選びます** にある、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3. **システム** をクリックします。
4. **システムのプロパティ** ウインドウの **ハードウェア** タブをクリックします。
5. **デバイスマネージャ** をクリックします。

6. 一覧を下にスクロールして、デバイスアイコンに感嘆符（[**!**]）があるかどうかを確認します。

   デバイス名の横に感嘆符がある場合、ドライバの再インストールまたは新しいドライバのインストールが必要な場合があります。

ドライバとユーティリティの再インストール

注意: デルサポートウェブサイト **support.jp.dell.com** および『Drivers and Utilities 』メディアでは、Dell™ コンピュータ用に承認されているドライバを提供しています。その他の媒体からドライバをインストールした場合、お使いのコンピュータが正しく動作しないことがあります。

メモ: 『Drivers and Utilities 』メディアはオプションなので、コンピュータに付属していない場合があります。

Windows Vista デバイスドライバのロールバックの使い方

新たにドライバをインストールまたはアップデートした後に、コンピュータに問題が発生した場合、Windows のデバイスドライバのロールバックを使用して、以前にインストールしたバージョンのドライバに置き換えることができます。

1. **Start**（スタート） をクリックし 、次に**Computer**（コンピュータ）を右クリックします。

2. **Properties**（プロパティ）→ **Device Manager**（デバイスマネージャ）をクリックします。

   メモ: User Account Control（ユーザーアカウントコントロール）ウィンドウが表示されます。コンピュータのシステム管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。システム管理者ではない場合は、システム管理者に問い合わせて デバイスマネージャを起動します。

3. 新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックしてから、**Properties**（プロパティ）をクリックします。

4. **Drivers**（ドライバ）タブ → **Roll Back Driver**（ドライバのロールバック）をクリックします。

デバイスドライバのロールバックで問題が解決しない場合、システムの復元（お使いのオペレーティングシステムの復元 を参照）を使用して、お使いのコンピュータを新しいドライバがインストールされる前の動作状態に戻してみます。

Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方

新たにドライバをインストールまたはアップデートした後に、コンピュータに問題が発生した場合、Windows XP のデバイスドライバのロールバックを使用して、以前にインストールしたバージョンのドライバに置き換えることができます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。

2. **作業する分野を選びます** にある、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。

3. **システム** をクリックします。

4. **システムのプロパティ** ウインドウの **ハードウェア** タブをクリックします。

5. **デバイスマネージャ** をクリックします。

6. 新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックしてから、**プロパティ** をクリックします。

7. **ドライバ** タブをクリックします。

8. **ドライバのロールバック** をクリックします。

デバイスドライバのロールバックで問題が解決しない場合、システムの復元（システムの復元の有効化 を参照）を使用して、オペレーティングシステムを新しいデバイスドライバがインストールされる前の動作状態に戻してみます。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを Drivers and Utilities メディア（オプション）から起動する場合

デバイスドライバのロールバックまたはシステムの復元（お使いのオペレーティングシステムの復元を参照）を使っても問題が解決されない場合、『Drivers and Utilities』メディアを使ってドライバを再インストールします。

メモ: 『Drivers and Utilities 』メディアはオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

メモ: デバイスドライバおよびユーザーマニュアルにアクセスするには、コンピュータで Windows を実行中に『Drivers and Utilities 』メディアを使用します。

Windows Vista

1. 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

2. 『Drivers and Utilities 』メディアを挿入します。

ほとんどの場合、CD/DVD は自動的に実行されます。実行されない場合、Windows エクスプローラを起動し、CD/DVD ドライブのディレクトリをクリックして、CD/DVD の内容を表示し、次に **autorcd.exe** ファイルをダブルクリックします。CD/DVD を初めて使用する場合、セットアップファイルをインストールするよう表示されることがあります。**OK** をクリックして、画面の指示に従って続行します。

3. ツールバーの **Language**（言語）ドロップダウンメニューから、ドライバまたはユーティリティに適切な言語（利用可能な場合）をクリックします。

4. ようこそ画面で、**Next**（次へ）をクリックし、CD/DVD のハードウェアスキャンが完了するのを待ちます。

5. 他のドライバおよびユーティリティを検知するために、**Search Criteria**（検索条件）で、**System Model**（システムモデル）、**Operating System**（オペレーティングシステム）、および **Topic**（トピック）ドロップダウンメニューから適切なカテゴリを選択します。

コンピュータで使用される特定のドライバおよびユーティリティのリンクが表示されます。

6. 特定のドライバまたはユーティリティのリンクをクリックして、インストールするドライバまたはユーティリティについての情報を表示します。

7. **Install**（インストール）ボタン（表示されている場合）をクリックして、ドライバまたはユーティリティのインストールを開始します。ようこそ画面の指示に従ってインストールを完了します。

8. ようこそ画面の指示に従ってインストールを完了します。

Install（インストール）ボタンが表示されない場合は、自動インストールを選択できません。インストールの手順については、該当する以下の手順を参照するか、または **Extract**（解凍）をクリックして展開手順に従い、readme ファイルを参照してください。

ドライバファイルへ移動するよう指示された場合、ドライバ情報ウィンドウで CD/DVD のディレクトリをクリックして、そのドライバに関連するファイルを表示します。

手動での Windows Vista 用ドライバの再インストール

前項で説明されている通りにハードディスクドライブへドライバファイルを解凍して、次の手順を実行します。

1. **Start**（スタート） をクリックし 、次に **Computer**（コンピュータ）を右クリックします。

2. **Properties**（プロパティ）→ **Device Manager**（デバイスマネージャ）をクリックします。

メモ: **User Account Control**（ユーザーアカウントコントロール）ウィンドウが表示されます。コンピュータのシステム管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。システム管理者ではない場合は、システム管理者に問い合わせてデバイスマネージャーを起動します。

3. インストールするドライバのデバイスのタイプをダブルクリックします（例えば、**オーディオ** または **ビデオ**）。

4. インストールするドライバのデバイスの名前をダブルクリックします。

5. **Driver**（ドライバ）→ **Update Driver**（ドライバの更新）→ **Browse my computer for driver software**（マイコンピュータでドライバを参照）をクリックします。

6. **Browse**（参照）をクリックして、あらかじめドライバファイルをコピーしておいた場所を参照します。

7. 該当するドライバの名前が表示されたら、そのドライバ名をクリック → **OK** → **Next**（次へ）とクリックします。

8. **Finish**（完了）をクリックして、コンピュータを再起動します。

Windows XP Drivers and Utilities メディアの使い方

1. 『Drivers and Utilities』メディアを挿入します。

初めて『Drivers and Utilities』メディアを使うときには、**インストール** ウィンドウが開き、メディアからインストールが開始されることが通知されます。**OK** をクリックしてインストールプログラムのプロンプトに応答し、インストールを完了します。

2. **Dell システムをお買い上げくださりありがとうございます** 画面で **次へ** をクリックします。

3. **システムモデ**、**オペレーティングシステム**、**デバイスタイプ**、および **トピック** について適切なものを選択します。

4. **トピック** ドロップダウンメニューの **ドライバ** を選択します。

『Drivers and Utilities』メディアはコンピュータのハードウェアおよびオペレーティングシステムをスキャンして、システム構成のデバイスドライバを一覧表示します。

5. 該当するドライバを選択し、手順に従ってお使いのコンピュータ用のドライバをダウンロードします。

コンピュータで使用可能なドライバをすべて表示するには、**トピック** ドロップダウンメニューで **ドライバ** をクリックしてください。

『ドライバおよびユーティリティ』メディアでヘルプファイルにアクセスするには、画面の上部にある疑問符（?）ボタンまたは **ヘルプ** のリンクをクリックします。

お使いのオペレーティングシステムの復元

ハードウェア、ソフトウェア、またはその他のシステム設定を変更したためにコンピュータが正常に動作しなくなってしまった場合、Microsoft Windows オペレーティングシステムのシステムの復元を使用して、コンピュータを以前の動作状態に復元することができます（データファイルへの影響はありません）。システムの復元の使い方については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。

注意: データファイルのバックアップを定期的に作成してください。システムの復元は、データファイルの変更を監視したり、データファイルを復元することはできません。

Windows Vista

システムの復元の開始

1. **スタート** をクリックします。
2. **Start Search**（検索の開始）ボックスで、System Restore（システムの復元）と入力し、<Enter> を押します。

   メモ: User Account Control（ユーザーアカウントコントロール）ウィンドウが表示されます。コンピュータのシステム管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。システム管理者ではない場合は、システム管理者に問い合わせて該当のアクションを続けます。

3. **Next**（次へ）をクリックして、表示される画面の指示に従って残りの処理を行います。

システムの復元により不具合が解決しなかった場合、最後に行ったシステムの復元を取り消すことが可能です。

最後のシステムの復元を元に戻す

注意: 最後に行ったシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存して閉じ、実行中のプログラムをすべて終了してください。システムの復元が完了するまでは、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート** をクリックします。
2. **Start Search**（検索の開始）ボックスで、System Restore （システムの復元）と入力し、<Enter> を押します。
3. **Undo my last restoration**（以前の復元を取り消す）を選択して、**Next**（次へ）をクリックします。

Windows XP

復元ポイントの作成

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2. **システムの復元** をクリックします。
3. 画面の指示に従います。

コンピュータの以前の動作状態への復元

注意: コンピュータを前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまでは、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** とポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。
2. **コンピュータを以前の状態に復元する** が選択されていることを確認して、**次へ** をクリックします。

3. コンピュータを復元したいカレンダーの日付をクリックします。

   復元ポイントの選択 画面に、復元ポイントを選択するカレンダーが表示されます。復元ポイントが利用できる日付は太字で表示されます。

4. 復元ポイントを選択して、**次へ** をクリックします。

   日付の中に復元ポイントが 1 つしかない場合、その復元ポイントが自動的に選択されます。2 つ以上の復元ポイントが利用可能な場合、希望の復元ポイントをクリックします。

5. **次へ** をクリックします。

   システムの復元がデータの収集を完了したら、**復元は完了しました** 画面が表示され、コンピュータが自動的に再起動します。

6. コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

復元ポイントを変更するには、別の復元ポイントを使って手順を繰り返すか、または復元を取り消すことができます。

最後のシステムの復元を元に戻す

注意: 最後に行ったシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存して閉じ、実行中のプログラムをすべて終了してください。システムの復元が完了するまでは、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** とポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。

2. **以前の復元を取り消す** を選択して、**次へ** をクリックします。

3. **次へ** をクリックします。

   システムの復元 画面が表示され、コンピュータが再起動します。

4. コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

システムの復元の有効化

200 MB より空容量が少ないハードディスクに Windows XP を再インストールした場合、システムの復元は自動的に無効に設定されます。システムの復元が有効になっているか確認するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。

2. **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。

3. **システム** をクリックします。

4. **システムの復元** タブをクリックします。

5. **システムの復元を無効にする** にチェックマークが付いていないことを確認します。

Microsoft® Windows Vista® および Windows® XP の再インストール

Windows Vista

再インストール処理を完了するには、1～2 時間かかることがあります。オペレーティングシステムを再インストールした後、デバイスドライバ、アンチウイルスプログラム、およびその他のソフトウェアを再インストールする必要があります。

1. 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

2. 『オペレーティングシステム』ディスクを挿入します。

3. Windows のインストールのメッセージが表示されたら、**終了** をクリックします。

4. コンピュータを再起動します。

   DELL のロゴが表示されたらすぐに<F12> を押します。

   メモ: キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows®デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして再度試みます。

メモ: 次の手順は、起動順序を1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスに従って起動します。

5. 起動デバイスのリストが表示されたら、**CD / DVD / CD-RW Drive** をハイライト表示して <Enter> を押します。

6. いずれかのキーを押して **CD-ROM から起動** します。

7. 画面の指示に従ってインストールを完了します。

Windows XP

注意: オペレーティングシステムを再インストールする際は、Microsoft Windows XP Service Pack 1 以降を使用する必要があります。

作業を開始する前に

新しくインストールしたドライバの問題を解消するために Windows XP オペレーティングシステムを再インストールすることを検討する前に、Windows XP のデバイスドライバのロールバックを試してみます（Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方を参照）。デバイスドライバのロールバックを実行しても問題が解決されない場合、システムの復元（お使いのオペレーティングシステムの復元を参照）を使用して、オペレーティングシステムを新しいドライバがインストールされる前の動作状態に戻してみます。

注意: インストールを実行する前に、お使いのプライマリハードディスクドライブ上のすべてのデータファイルのバックアップを作成しておいてください。標準的なハードディスクドライブ構成において、プライマリハードディスクドライブはコンピュータによって 1 番目のドライブとして認識されます。

Windows XP を再インストールするには、以下のアイテムが必要です。

- Dell™『オペレーティングシステム』メディア
- Dell『Drivers and Utilities』メディア

メモ:『Drivers and Utilities』メディアには、コンピュータの製造工程でプリインストールされたドライバが収録されています。『Drivers and Utilities』メディアを使って、必要なドライバをすべてロードします。

Windows XP を再インストールするには、次項で記載されている手順を順番通りに実行します。

再インストール処理を完了するには、1～2 時間かかることがあります。オペレーティングシステムを再インストールした後、デバイスドライバ、アンチウイルスプログラム、およびその他のソフトウェアを再インストールする必要があります。

注意:『オペレーティングシステム』メディアには、Windows XP を再インストールするオプションがあります。オプションはファイルを上書きして、ハードディスクドライブにインストールされているプログラムに影響を与える可能性があります。このような理由から、デルのテクニカルサポート担当者の指示がない限り、Windows XP を再インストールしないでください。

注意: Windows XP との拮抗を防ぐため、システムにインストールされているアンチウイルスソフトウェアを無効にしてから Windows XP を再インストールしてください。手順については、ソフトウェアに付属されているマニュアルを参照してください。

オペレーティングシステムメディアからの起動

1. 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

2. 『オペレーティングシステム』メディアを挿入します。Windows XP の**インストール** というメッセージが表示された場合、終了をクリックします。

3. コンピュータを再起動します。

4. DELL™ のロゴが表示されたらすぐに <F12> を押します。

   オペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるのを待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

5. 矢印キーを押して **CD-ROM** を選んでから <Enter> を押します。

6. `Press any key to boot from CD` というメッセージが表示されたら、任意のキーを押します。

Windows XP のセットアップ

1. **セットアップの開始** 画面が表示されたら、<Enter> を押して、続行します。

2. **Microsoft Windows ライセンス契約** 画面の内容を読み、キーボードの <F8> を押して、使用許諾契約書に同意します。

3. お使いのコンピュータに Windows XP がインストールされていて、現在の Windows XP データを復元したい場合は、r と入力して修復オプションを選び、メディアを取り出します。

4. 新たに Windows XP をインストールする場合は、<Esc> を押してオプションを選択します。

5. <Enter> を押してハイライト表示されたパーティション（推奨）を選び、画面の指示に従います。

Windows XP セットアップ 画面が表示され、Windows XP は、ファイルのコピーおよびデバイスのインストールを開始します。コンピュータは自動的に数回再起動します。

注意: 次のメッセージが表示される場合、キーは押さないでください。Press any key to boot from the CD.

メモ: ハードディスクドライブの容量やコンピュータの速度によって、セットアップに要する時間は異なります。

6. **地域と言語のオプション** 画面が表示されたら、地域の設定を必要に応じてカスタマイズし、**次へ** をクリックします。
7. **ソフトウェアの個人用設定** 画面で、氏名と会社名（オプション）を入力して、**次へ** をクリックします。
8. **コンピュータおよび管理者** ウィンドウでお使いのコンピュータ名（または記載の名前を承認）とパスワードを入力して、**次へ** をクリックします。
9. **モデムのダイヤル情報** 画面が表示されたら、必要な情報を入力し、**次へ** を押します。
10. **日付と時間の設定** ウィンドウに、日付、時間、タイムゾーンを入力して、**次へ** をクリックします。
11. **ネットワークの設定** 画面が表示されたら、**標準設定** をクリックして、**次へ** をクリックします。
12. Windows XP Professional を再インストールしている場合、ドメイン名やワークグループ名などのネットワーク設定に関するネットワーク情報が求められることがあります。該当するものを選びます。設定がわからない場合、デフォルトの選択肢を選んでください。

    Windows XP は、オペレーティングシステムのコンポーネントをインストールして、コンピュータを設定します。コンピュータが自動的に再起動します。

注意: 次のメッセージが表示される場合、キーは押さないでください。Press any key to boot from the CD.

13. **Microsoft Windows へようこそ** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
14. インターネットに接続する方法を指定してくださいというメッセージが表示されたら、**省略** をクリックします。
15. **Microsoft にユーザー登録する準備は出来ましたか?** 画面が表示されたら、**いいえ、今回はユーザー登録しません** を選択し、**次へ** をクリックします。
16. **このコンピュータを使うユーザーを指定してください** 画面が表示されたら、最大 5 人のユーザーを入力できます。
17. **次へ** をクリックします。
18. **完了** をクリックしてセットアップを完了し、メディアを取り出します。
19. 『Drivers and Utilities』メディアを使って、適切なドライバを再インストールします。
20. アンチウイルスソフトウェアを再インストールします。
21. 使用するプログラムを再インストールします。

メモ: Microsoft Office または Microsoft Works Suite プログラムを再インストールして有効にするには、Microsoft Office または Microsoft Works Suite のメディアケースの裏にある Product Key（プロダクトキー）が必要です。

目次に戻る

[目次に戻る](#)

問題の解決

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- トラブルシューティングのヒント
- バッテリの問題
- カードの問題
- ドライブの問題
- E-メール、モデム、およびインターネットの問題
- キーボードの問題
- ファンの問題
- フリーズおよびソフトウェアの問題
- メディアカードリーダーの問題
- メモリの問題
- マウスの問題
- ネットワークの問題
- 電源の問題
- プリンタの問題
- デフォルト設定の復元
- シリアルまたはパラレルデバイスの問題
- サウンドおよびスピーカの問題
- ビデオとモニタの問題

トラブルシューティングのヒント

コンピュータのトラブルシューティングを実行する際は、以下のヒントに従ってください。

- 部品を追加したり取り外した後に問題が発生した場合、取り付け手順を見直して、部品が正しく取り付けられているか確認します。
- 周辺機器が動作しない場合は、周辺機器が正しく接続されているか確認します。
- 画面にエラーメッセージが表示される場合、メッセージを正確にメモします。このメッセージは、テクニカルサポート担当者が問題を診断して修復するのに役立ちます。
- プログラムの実行中にエラーメッセージが表示される場合、プログラムのマニュアルを参照してください。

バッテリの問題

以下を確認しながら Diagnostics（診断）チェックリスト に必要事項を記入します。

警告: バッテリの取り付け方が間違っていると、破裂する危険があります。 交換するバッテリは、デルが推奨する型、または同等の製品をご利用ください。 使用済みのバッテリは、製造元の指示に従って廃棄してください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

バッテリを交換します — コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時間と日付の情報をリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時間または日付が表示される場合、バッテリを交換します（バッテリの取り付け を参照）。交換してもバッテリが正常に機能しない場合、デルにお問い合わせください（デルへのお問い合わせ を参照）。

カードの問題

以下を確認しながら Diagnostics（診断）チェックリスト に必要事項を記入します。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

カードの装着状態およびケーブルを確認します —

1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外して 10～20 秒待機し、コンピュータカバーを取り外します（ミニタワーコンピュータの場合は、コンピュータカバーの取り外し 、デスクトップコンピュータの場合は、コンピュータカバーの取り外し を参照）。
2. 各カードがコネクタに確実に装着されているかを確認します。確実に装着されていないカードを装着しなおします。
3. カードのコネクタに対応するすべてのケーブルが確実にと接続されているか確認します。緩んでいるケーブルは接続しなおします。

   カード上の特定のコネクタにどのケーブルを接続するかについては、カードのマニュアルを参照してください。

4. コンピュータカバーを閉じ、（コンピュータカバーの取り付け を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに再接続して、電源を入れます。

グラフィックスカードをテストします —

1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外して 10～20 秒待機し、コンピュータカバーを取り外します（ミニタワーコンピュータの場合はコンピュータカバーの取り外し 、デスクトップコンピュータの場合は、コンピュータカバーの取り外し を参照）。
2. グラフィックスカードを除く、すべてのカードを取り外します（ミニタワーコンピュータの場合は、PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ、デスクトップコンピュータの場合は、PCI カードの取り外しを参照）。

   プライマリハードディスクドライブがドライブコントローラカードに接続されている場合、コンピュータに取り付けられたドライブコントローラカードはそのままにしておきます。

3. コンピュータカバーを閉じ（コンピュータカバーの取り付け を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに再接続して、電源を入れます。
4. Dell Diagnostics（診断）プログラム（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）を実行します。

カードをテストします —

1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外して 10～20 秒待機し、コンピュータカバーを取り外します（ミニタワーコンピュータの場合はコンピュータカバーの取り外し、デスクトップコンピュータの場合は、コンピュータカバーの取り外し を参照）。
2. 以前に取り外したいずれかのカードを再び取り付けます（ミニタワーコンピュータの場合は、PCI、PCI Express カード、および PS/2 シリアルポートアダプタ、デスクトップコンピュータの場合は、PCI カードの取り付け を参照）。
3. コンピュータカバーを閉じ（コンピュータカバーの取り付けを参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
4. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。
5. いずれかのテストに失敗した場合、装着しなおしたカードに問題があるので、交換する必要があります。
6. すべてのカードの再取り付けが終わるまで、この手順を繰り返します。

ドライブの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

以下を確認しながら Diagnostics（診断）チェックリスト に必要事項を記入します。

ドライブをテストします — 元のフロッピーディスク、CD、または DVD に問題がないか確認するため、別のディスクを挿入します。

- 起動メディアを挿入してコンピュータを再起動します。

ドライブやディスクをクリーニングします — CD および DVD を参照してください。

ケーブルの接続を確認します

ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます — ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決 を参照してください。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照してください。

CD および DVD ドライブの問題

メモ: 高速な CD ドライブや DVD ドライブの振動は一般的なもので、ノイズを引き起こすこともあります。CD や DVD ドライブの故障ではありません。

メモ: 様々なファイル形式があるため、お使いの DVD ドライブでは再生できない DVD もあります。

Windows で音量を調節します —

- 画面右下角にあるスピーカのアイコンをクリックします。
- スライドバーをクリックし、上にドラッグして、音量が上がることを確認します。
- チェックマークの付いたボックスをクリックして、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

スピーカとサブウーハーを確認します — サウンドおよびスピーカの問題 を参照してください。

オプティカル RW ドライブへの書き込み問題

その他のプログラムを閉じます — オプティカル RW ドライブはデータを書き込む際に、一定のデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。オプティカル RW に書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了してみます。

オプティカル RW ディスクへの書き込みの前に Windows のスタンバイモードを無効にします — 省電力モードについては、お使いのコンピュータマニュアルを参照してください（電力の管理を参照）。

ハードディスクドライブの問題

チェックディスクを実行します —

1. **スタート** ボタンをクリックして、**マイコンピュータ** をクリックします。
2. **ローカルディスク C:** を右クリックします。
3. **プロパティ** をクリックします。
4. **ツール** タブをクリックします。
5. **エラーチェック** で、**チェックする** をクリックします。
6. **不良なセクタをスキャンし回復する** をクリックします。
7. **開始** をクリックします。

E-メール、モデム、およびインターネットの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ: モデムは必ずアナログ電話回線に接続してください。デジタル電話回線（ISDN）に接続した場合、モデムは動作しません。

Modem Helper 診断プログラムを実行します — **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** をポイントして、**Modem Helper** をクリックします。画面の指示に従って、モデムの問題を識別し、その問題を解決します。（Modem Helper は、すべてのコンピュータで利用できるわけではありません。）

モデムが Windows と通信しているか確認します —

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
3. **電話とモデムのオプション** をクリックします。
4. **モデム** タブをクリックします。
5. モデムの COM ポートをクリックします。
6. Windows がモデムを検出したか確認するため、**プロパティ** をクリックし、**診断** タブをクリックして、**モデムの照会** をクリックします。

   すべてのコマンドに応答がある場合、モデムは正しく動作しています。

インターネットへの接続を確認します — ISP（インターネットサービスプロバイダ）との契約が済んでいることを確認します。E メールプログラム Outlook Express を起動し、**ファイル** をクリックします。**オフライン作業** の横にチェックマークが付いている場合、チェックマークをクリックし、マークを外して、インターネットに接続します。問題がある場合、ご利用の ISP にお問い合わせください。

キーボードの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

キーボードケーブルを確認します — • キーボードケーブルがコンピュータに確実に接続されているか確認します。 • コンピュータをシャットダウンし、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにキーボードケーブルを接続しなおした後、コンピュータを再起動します。 • ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。 • キーボード延長ケーブルを取り外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。
キーボードを確認します — 正常に機能している別のキーボードをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいキーボードが機能する場合、元のキーボードに問題があります。
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照してください。
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます — ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決を参照してください。

ファンの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

ケーブルの接続を確認します — カードファンケーブルが、システム基板のカードファンコネクタにしっかり接続されていることを確認してください（ミニタワーコンピュータの場合はシステム基板コンポーネント、デスクトップコンピュータの場合は、システム基板コンポーネントを参照）。

フリーズおよびソフトウェアの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

コンピュータが起動しない

診断ライトを確認します — 診断ライトを参照してください。

電源ケーブルがコンピュータとコンセントに確実にと接続されているか確認します

コンピュータの応答が停止した場合

注意: オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを消失する恐れがあります。

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8～10 秒

以上押し続けます。 その後、コンピュータを再起動します。

プログラムが応答しない

プログラムを終了します —

1. <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押します。
2. **アプリケーション** をクリックします。
3. 反応がなくなったプログラムを選択します。
4. **タスクの終了** をクリックします。

プログラムが繰り返しクラッシュする

メモ: 通常、ソフトウェアのインストール手順は、そのマニュアルまたはフロッピーディスクか CD に収録されています。

プログラムのマニュアルを参照します — 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

画面が青色（ブルースクリーン）になった

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8～10 秒以上押し続けます。 その後、コンピュータを再起動します。

その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティング情報については、ソフトウェアのマニュアルを確認するかソフトウェアの製造元に問い合わせます —

- コンピュータにインストールされているオペレーティングシステムと互換性があるか確認します。
- コンピュータがソフトウェアを実行するのに必要な最小ハードウェア要件を満たしているか確認します。詳細に関しては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。
- デバイスドライバがプログラムと拮抗していないか確認します。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

すぐにお使いのファイルのバックアップを作成します

ウイルススキャンプログラムを使って、ハードディスクドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます

開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、スタートメニューからコンピュータをシャットダウンします

Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — すべてのテストが正常に終了した場合、不具合はソフトウェアの問題に関連しています（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

メディアカードリーダーの問題

ドライブ文字が割り当てられていません — Microsoft Windows XP でメディアカードリーダーが検出されると、このデバイスには、システム内の他のすべての物理ドライブの後に、その次の論理ドライブとしてドライブ文字が自動的に割り当てられます。物理ドライブの後の次の論理ドライブがネットワークドライブにマッピングされた場合、Windows XP はメディアカードリーダーに自動的にドライブ文字を割り当てることはありません。

メディアカードリーダーに手動でドライブを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. マイコンピュータを右クリックして **管理** を選択します。
2. **ディスクの管理** オプションを選択します。
3. 右のペインで、変更する必要のあるドライブ文字を右クリックします。
4. **ドライブ文字とパスの変更** を選択します。
5. ドロップダウンリストから、メディアカードリーダーに割り当てる新しいドライブ文字を選択します。
6. **OK** をクリックして、選択内容を確定します。

メモ: メディアカードリーダーの各スロットには、ドライブ文字が割り当てられています。スロットにメディアカードを挿入しないと、メディアカードリーダーのスロットは、マッピングされたドライブとして表示されません。メディアカードリーダーのスロットにマッピングされているドライブへアクセスすると、メディアの挿入を指示するプロンプトが表示されます。

FlexBay デバイスは無効です — BIOS セットアップには、FlexBay デバイスが取り付けられている場合にのみ表示される FlexBay 無効オプションがあります。FlexBay デバイスが物理的に取り付けられているにもかかわらず、動作していない場合は、BIOS セットアップで有効になっているかどうかを確認してください。

メモリの問題

メモ: お使いのコンピュータの起動時に、モニタにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビープ音(ビープコード)が連続して鳴ることがあります。この連続したビープ音で、問題を特定します。詳細に関しては、ビープコードを参照してください。

以下を確認しながらDiagnostics(診断)チェックリストに必要事項を記入します。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

メモリ不足を示すメッセージが表示される場合 —

- 作業中のすべてのファイルを保存してから閉じ、使用していない開いているすべてのプログラムを終了して、問題が解決するか調べます。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、増設メモリを取り付けます。
- メモリモジュールを抜き差しして、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します (Dell Diagnostics(診断)プログラムを参照)。

その他の問題が発生する場合 —

- メモリモジュールを抜き差しして、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します。
- Dell Diagnostics を実行します(Dell Diagnostics(診断)プログラムを参照)。

マウスの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

マウスケーブルを確認します —

1. ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
2. マウス延長ケーブルを使用している場合、延長ケーブルを取り外してマウスをコンピュータに直接接続します。
3. コンピュータをシャットダウンし、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにキーボードケーブルを接続しなおした後、コンピュータを再起動します。

コンピュータを再起動します —

1. <Ctrl><Esc> を同時に押して、**スタート** メニューを表示します。
2. u と入力してからキーボードの矢印キーを押して、**シャットダウン** または **終了オプション** を選択して、<Enter> キーを押します。
3. コンピュータをシャットダウンして、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に示されているように、再度マウスケーブルを接続します。
4. コンピュータを再起動します。

マウスを確認します — 正常に機能している別のマウスをコンピュータに接続して、使用してみます。新しく接続したマウスが機能する場合、最初に接続していたマウスに問題があります。

マウス設定を確認します —

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2. **マウス** をクリックします。
3. 設定を変更してみます。

PS/2 マウスを使用している場合

1. セットアップユーティリティを起動して、**Mouse Port** オプションが **On** に設定されているか確認します。
2. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

マウスドライバを再インストールします — ドライバとユーティリティの再インストールを参照してください。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照してください。

ソフトウェアおよびハードウェアの拮抗を調べます — ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決を参照してください。

ネットワークの問題

以下を確認しながらDiagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入します。

 警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

ネットワークケーブルのコネクタを確認します — ネットワークケーブルがコンピュータ背面のネットワークコネクタおよびネットワークジャックの両方に、確実にと差し込まれているか確認します。

システムシャーシタイプによっては、コンピュータの前面または背面にあるネットワークライトを確認します — 接続スピードライトがオフの場合、ネットワーク通信が存在しないことを示しています。ネットワークケーブルを取り替えます。

コンピュータを再起動して、再度ネットワークにログオンしなおします

ネットワークの設定を確認します — ネットワーク管理者、またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークへの接続設定が正しくて、ネットワークが正常に機能しているか確認します。

ソフトウェアおよびハードウェアの拮抗を調べます — ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決を参照してください。

電源の問題

以下を確認しながら Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入します。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

電源ライトが緑色に点灯していて、コンピュータの反応が停止した場合 — コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、診断ライトを参照。

電源ライトが緑色に点滅している場合 — コンピュータはスタンバイモードに入っています。キーボードのキーを押すか、マウスを動かして通常の動作に戻します。

電源ライトが消灯している場合 — コンピュータの電源が切れているか、またはコンピュータに電力が供給されていません。

- 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方に確実にと装着しなおします。
- コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され電源タップがオンになっていることを確認します。また電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどをお使いの場合、それらを取り外してコンピュータに正しく電源が入るか確認します。
- 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。
- 主電源ケーブルと前面パネルケーブルがシステム基板に確実にと接続されているか確認します。

電源ライトが橙色および緑色に点灯しているか、または橙色に点灯している場合 — デバイスが故障しているか、または正しく取り付けられていない可能性があります。

- メモリモジュールを取り外してから、再度取り付けなおします（メモリを参照）。
- すべてのカードを取り外してから取り付けます。
- グラフィックスカードを取り付けている場合、取り外してから取り付けなおします。

電源ライトが橙色に点滅している場合 — コンピュータに電力は供給されていますが、内部で電源の問題が発生している可能性があります。

- 電圧切り替えスイッチの設定が、ご使用の地域の AC 電源に一致しているか確認します。
- プロセッサ電源ケーブルがシステム基板に確実にと接続されているか確認します。

電気的な妨害を調べます — 電気的な妨害の原因には、以下のものがあります。

- 電源ケーブル、キーボードケーブル、およびマウス延長ケーブル
- 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている
- 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

以下を確認しながら Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入します。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

メモ: プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタのマニュアルを確認します — プリンタのセットアップおよびトラブルシューティングの詳細に関しては、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタの電源が入っているかどうか確認します

プリンタケーブルの接続を確認します —

- ケーブル接続の情報については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- プリンタケーブルがプリンタとコンピュータに確実に接続されているか確認します。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。

Windows がプリンタを認識しているか確認します —

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2. **インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示する** をクリックします。

   プリンタが表示されたら、プリンタのアイコンを右クリックします。

3. **プロパティ** をクリックして、**ポート** タブをクリックします。パラレルプリンタの場合、**印刷先のポート** を **LPT1: プリンタポート** に設定します。USB プリンタの場合、印刷先のポート が **USB** に設定されているか確認します。

プリンタドライバを再インストールします — 手順については、プリンタに付属しているマニュアルを参照してください。

デフォルト設定の復元

コンピュータシステムの設定をデフォルト値にするには、次の手順を実行します — 1. コンピュータの電源を入れます(または再起動します)。 2. 画面の右上角に セットアップユーティリティを起動するには <F2> を押してくださいと表示されたら、すぐに<F2>を押します。 ここで時間をおきすぎて Microsoft® Windows® のロゴが表示された場合は、Windows デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、**スタート** メニューからコンピュータをシャットダウンし、もう一度やりなおします。 3. システム管理 で、メンテナンスオプションを選んで、画面の指示に従います。

シリアルまたはパラレルデバイスの問題

以下を確認しながら Diagnostics(診断)チェックリストに必要事項を記入します。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

メモ: プリンタに問題がある場合、プリンタの問題を参照してください。

オプション設定を確認します — 推奨される設定については、デバイスのマニュアルを参照してください。セットアップユーティリティを起動し(226 ページの「セットアップユーティリティ」を参照)、**シリアルポート #1** の設定(オプションのシリアルポートアダプタが取り付けてある場合は **シリアルポート #2** の設定)または **LPT ポートモード** の設定が推奨値と一致しているか確認します。
Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します — Dell Diagnostics(診断)プログラムを参照してください。

サウンドおよびスピーカの問題

以下を確認しながら Diagnostics(診断)チェックリストに必要事項を記入します。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

スピーカから音が出ない場合

メモ: MP3 プレーヤーの音量調節は、Windows の音量設定より優先されることがあります。MP3 の音楽を聴いていた場合、プレーヤーの音量が十分か確認してください。

スピーカケーブルの接続を確認します — スピーカのセットアップ図の指示通りにスピーカが接続されているか確認してください。オーディオカードをご購入された場合、スピーカがカードに接続されているか確認します。
サブウーハーおよびスピーカの電源が入っているか確認します — スピーカに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカにボリュームコントロールが付いている場合、音量、低音、または高音を調整して音の歪みを解消します。
Windows のボリューム調整 — 画面右下角にあるスピーカのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。
ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します — コンピュータの前面パネルにあるヘッドフォンコネクタにヘッドフォンを接続すると、自動的にスピーカからの音声は聞こえなくなります。
コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。
デジタルモードを有効にします — CD ドライブがアナログモードで動作している場合、お使いのスピーカは機能しません。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**サウンド、音声、およびオーディオデバイス** をクリックします。
2. **サウンドとオーディオデバイス** をクリックします。
3. **ハードウェア** タブをクリックします。
4. お使いの CD ドライブ名をダブルクリックします。
5. **プロパティ** タブをクリックします。
6. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスにチェックマークを付けます。

電気的な妨害を除去します — コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切り、干渉を調べます。

スピーカの診断プログラムを実行します

オーディオドライバを再インストールします — ドライバを参照してください。

デバイスオプション設定を確認します — セットアップユーティリティを起動して（セットアップユーティリティを参照）、**Audio Controller** オプションが **On** に設定されているか確認します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照してください。

ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます — ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決を参照してください。

ヘッドフォンから音が出ない場合

ヘッドフォンのケーブル接続を確認します — ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタに確実にと接続されているか確認します。

デジタルモードを無効にします — CDドライブがデジタルモードで動作している場合、お使いのヘッドフォンは機能しません。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**サウンド、音声、およびオーディオデバイス** をクリックします。
2. **サウンドとオーディオデバイス** をクリックします。
3. **ハードウェア** タブをクリックします。
4. お使いの CD ドライブ名をダブルクリックします。
5. **プロパティ** タブをクリックします。
6. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスのチェックマークを外します。

Windows で音量を調節します — 画面右下角にあるスピーカのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ビデオとモニタの問題

以下を確認しながら Diagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入します。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

画面に何も表示されない場合

メモ: トラブルシューティングの手順については、モニタのマニュアルを参照してください。

モニタのケーブル接続を確認します —

- グラフィックスカードをご購入された場合、モニタがカードに接続されているか確認します。
- お使いのモニタが正しく接続されているか確認します（コンピュータに付属している『クイックリファレンスガイド』を参照）。
- ビデオ延長ケーブルを使用していて、ケーブルを取り外すと問題が解決する場合、延長ケーブルに問題があります。
- コンピュータおよびモニタの電源ケーブルを交換し、電源ケーブルに障害があるかどうか確認します。
- 曲がったり壊れたピンがないか、コネクタを確認します。（モニタのケーブルコネクタは、通常ピンが欠けています。）

モニタの電源ライトを確認します — 電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかり押して、モニタの電源が入っているか確認します。電源ライトが点灯または点滅している場合、モニタには電力が供給されています。電源ライトが点滅する場合、キーボードのキーを押すかマウスを動かします。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。

モニタを確認します — 正常に機能している他のモニタをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいモニタが機能する場合、元のモニタに問題があります。

診断ライトを確認します — 診断ライトを参照してください。

カードの設定を確認します — セットアップユーティリティを起動して（セットアップユーティリティを参照）、**Primary Video** オプションが正しく設定されていることを確認します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

モニタセルフテストを実行します — 詳細に関しては、モニタのマニュアルを参照してください。

画面が見づらい場合

モニタの設定を確認します — モニタのコントラストと輝度の調整、モニタの消磁、およびモニタのセルフテストを実行する手順については、モニタのマニュアルを参照してください。

サブウーハーをモニタから離します — スピーカにサブウーハーが含まれている場合、サブウーハーがモニタから 60 センチ以上離れていることを確認します。

外部電源をモニタから離します — 扇風機、蛍光灯、ハロゲンランプ、およびその他の電気機器は、画面の状態を不安定にすることがあります。コンピュータの近くで使用している機器の電源を切ってみてください。

Windows のディスプレイ設定を調節します —

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
2. **画面** をクリックして、**設定** タブをクリックします。
3. **画面の解像度** および **画面の色** で別の設定にしてみます。

目次に戻る

目次に戻る

シャーシイントルージョンスイッチ

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- シャーシイントルージョンスイッチの取り外し
- シャーシイントルージョンスイッチの取り付け
- シャーシイントルージョンディテクタのリセット

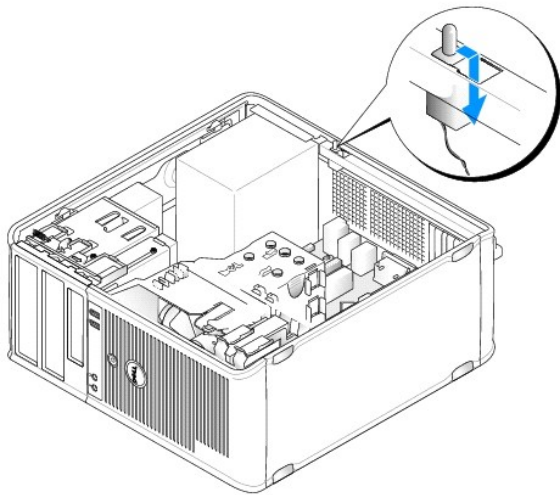
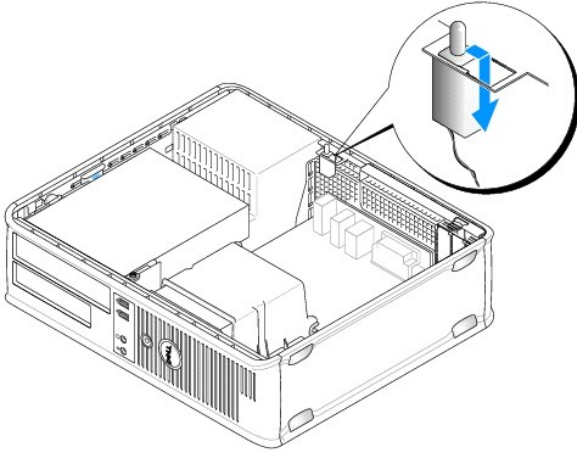
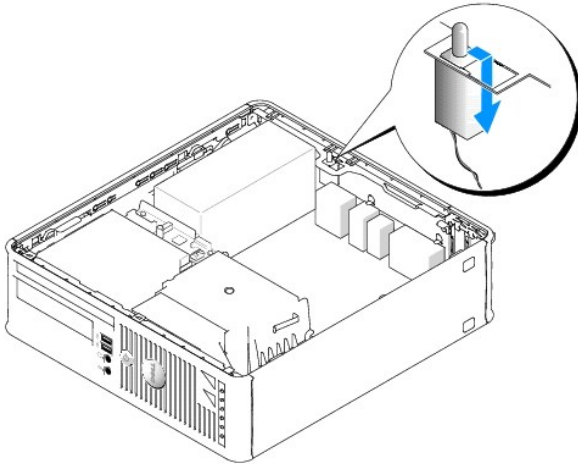
 警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

シャーシイントルージョンスイッチの取り外し

1. 作業を開始する前に の手順に従って操作してください。
2. スモールフォームファクターコンピュータのシャーシイントルージョンスイッチを取り外す場合は、ハードディスクドライブを取り外します（ドライブ を参照）。
3. システム基板からシャーシイントリュージョンスイッチケーブルを外します（ミニタワーコンピュータの場合は、システム基板コンポーネント を参照、デスクトップコンピュータの場合は、システム基板コンポーネント を参照、スモールフォームファクターコンピュータの場合は、システム基板コンポーネント を参照）。

   シャーシからシャーシイントルージョンケーブルを外す際は、ケーブルの配線経路をメモしておいてください。シャーシに付いているフックは、ケーブルをシャーシ内部の所定の位置に固定するためのものです。

4. シャーシイントルージョンスイッチをスロットから引き出し、スイッチとそのスイッチに付いているケーブルをコンピュータから外します。

ミニタワーコンピュータ

デスクトップコンピュータ

スモールフォームファクターコンピュータ

シャーシイントルージョンスイッチの取り付け

1. シャーシイントルージョンスイッチをスライドさせて注意深くスロットに入れ、ケーブルをシステム基板に再接続します。
2. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付け を参照）。

シャーシイントルージョンディテクタのリセット

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. 青色の DELL™ のロゴが表示された場合、すぐに <F2> を押します。

   ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やりなおします。
3. **Chassis Intrusion** オプションを選び、左右矢印キーを押して **Reset** を選択します。設定を **On**、**On-Silent**、または **Disabled** に変更します。

メモ: デフォルト設定は **On-Silent** です。

4. <Esc>を押し、左矢印キーあるいは右矢印キーで保存 / 終了をハイライトした後、コンピュータを再起動するために <Enter> を押し、変更を反映させます。

目次に戻る

[目次に戻る](#)

システム基板の交換

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

システム基板の取り外し：ミニタワー、デスクトップ、およびスモールフォームファクターコンピュータ

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

注意: コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

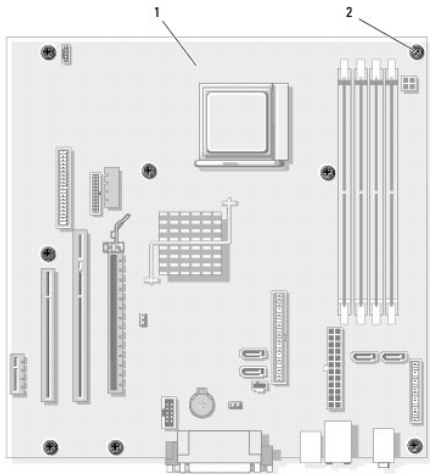
2. システム基板へのアクセスを妨げるコンポーネント（ 光学ドライブ、フロッピードライブ、ハードディスクドライブ、I/O パネルなど該当する場合）を取り外します。

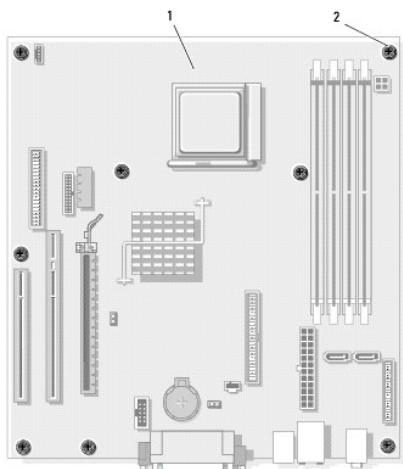
3. プロセッサおよびヒートシンクアセンブリを取り外します。
   - ミニタワーについては、プロセッサを参照してください。
   - デスクトップについては、プロセッサを参照してください。
   - スモールフォームファクターについては、プロセッサを参照してください。

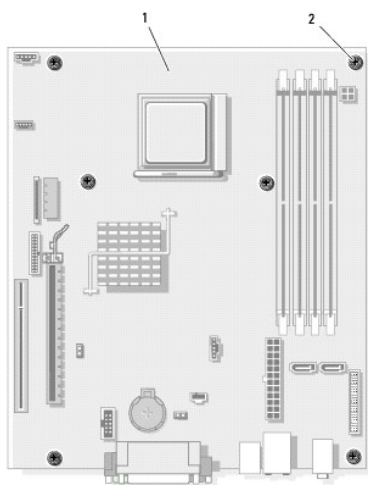
4. システム基板から全てのケーブルを外します。

5. システム基板からネジを外します。
   - ミニタワーのシステム基板のネジを参照
   - デスクトップのシステム基板のネジを参照
   - スモールフォームファクターのシステム基板のネジを参照

6. システム基板アセンブリをコンピュータ前方に引き出し、基板を持ち上げて取り外します。

ミニタワーのシステム基板のネジ

1	ミニタワーのシステム基板	2	ネジ（8）

デスクトップのシステム基板のネジ

1	デスクトップのシステム基板	2	ネジ（8）

スモールフォームファクターのシステム基板のネジ

1	スモールフォームファクターのシステム基板	2	ネジ（6）

取り外したシステム基板アセンブリを交換用のシステム基板のそばに置き、同等であることを確認します。

システム基板の交換：ミニタワー、デスクトップ、およびスモールフォームファクターコンピュータ

1. 基板を注意深くシャーシの位置に合わせ、コンピュータ後方へスライドさせます。
2. ネジを使って、システム基板をシャーシに固定します。
3. システム基板から取り外したコンポーネントおよびケーブルを取り付けます。
4. すべてのケーブルをコンピュータの背面にあるコネクタに接続しなおします。

5. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り付けを参照）。

目次に戻る

目次に戻る

メモ、注意、警告

メモ: コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

2007 年 11 月　　P/N RP699　　Rev. A02

目次に戻る

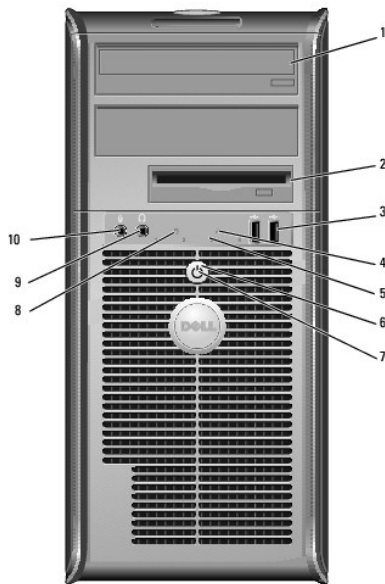
[目次に戻る]

ミニタワーコンピュータ

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- お使いのミニタワーコンピュータについて
- コンピュータ内部

お使いのミニタワーコンピュータについて

正面図

1	光学ドライブ（オプション）	（サポートされている場合は）メディアをドライブに挿入します。
2	FlexBay ドライブ	オプションのフロッピードライブまたはオプションのメディアカードリーダーを装着できます。
3	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスからの起動については、セットアップユーティリティを参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
4	LAN インジケータライト	このライトは、ローカルエリアネットワーク（LAN）接続が確立されていることを示します。
5	診断ライト	診断ライトは、診断コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細は、診断ライトを参照してください。
6	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意:** データの損失を防ぐため、電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。詳細に関しては、コンピュータの電源を切るを参照してください。 **注意:** お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
7	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで以下のようにさまざまな動作モードを示します。

		- 消灯 - コンピュータの電源は切れています。 - 緑色の点灯 - コンピュータは、通常の動作状態です。 - 緑色の点滅 - コンピュータは、省電力モードです。 - 黄色の点滅または点灯 - 電源の問題を参照してください。 省電力モードから復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスが設定されている場合、キーボードかマウスを使います。スリープモードおよび省電力モードからの復帰の詳細については、電力の管理を参照してください。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、システムライトを参照してください。
8	ハードディスクドライブ動作ライト	ハードディスクドライブがアクセスされているときに、このライトが点滅します。
9	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカを取り付けることができます
10	マイク用コネクタ	マイクのコネクタを使ってマイクを取り付けます。

背面図

1	カバーリリースラッチ	このラッチを使ってコンピュータカバーを開くことができます。
2	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
3	電圧切り替えスイッチ	お使いのコンピュータには、手動電圧切り替えスイッチが付いています。 手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、スイッチはお使いになる地域の AC 電源に最も合った電圧に設定してください。 **注意:** 日本の AC 電源は 100 V ですが、電圧設定スイッチは 115 V の位置に設定してください。 また、モニタやコンピュータに接続している周辺機器もお使いになる地域の AC 電源で動作するように設定してください。
4	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
5	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスを対応するコネクタに差し込みます。背面パネルコネクタを参照してください。
6	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。

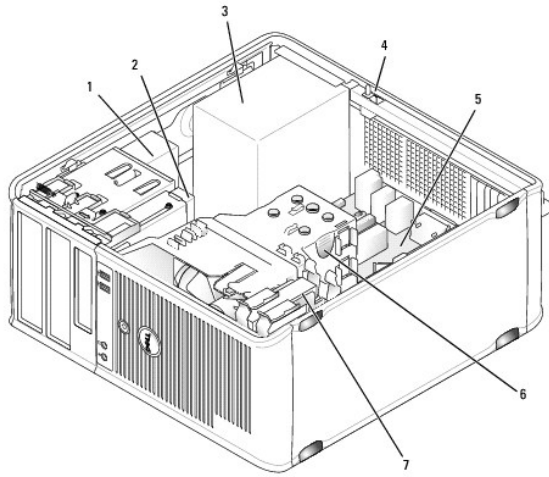
背面パネルコネクタ

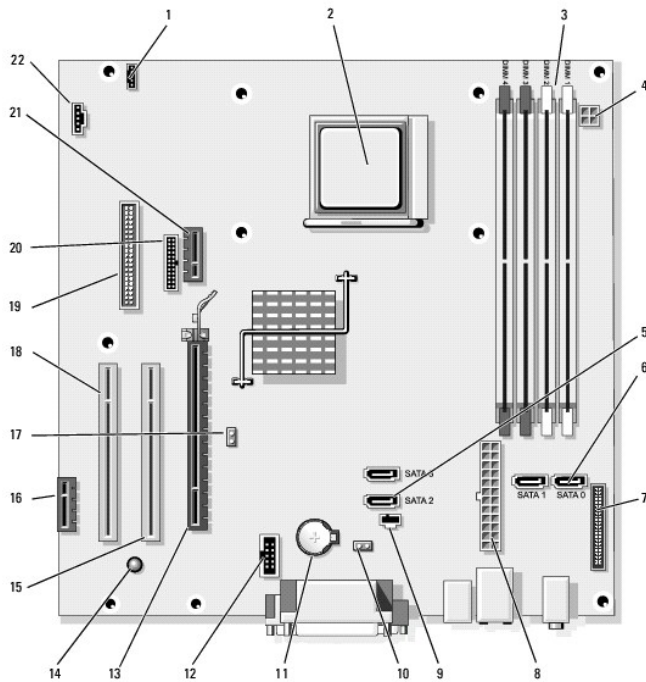
1	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ:** パラレルコネクタを持つカードが内蔵パラレルコネクタと同じアドレスに設定されていることをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細は、セットアップオプションを参照してください。
2	リンク保全ライト	l 緑色 - 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 橙色 - 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 黄色 - 1 Gbps（または 1000 Mbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l オフ - コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ:** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用して、ネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
4	ネットワーク動作ライト	黄色のライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している時に点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタを使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン入力コネクタ	ライン入力コネクタにカセットプレーヤー、CDプレーヤー、または VCR（ビデオカセットレコーダー）などの録音 / 再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	USB 2.0 コネクタ（5）	プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。
8	ビデオコネクタ	VGA 互換モニタからのケーブルを青色のコネクタに差し込みます。 **メモ:** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。キャップは取り外さないでください。お使いのモニタをグラフィックスカードのコネクタに接続します。 **メモ:** デュアルモニタをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
9	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細は、セットアップオプションを参照してください。

コンピュータ内部

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

警告: 感電防止のために、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータカバーを開く際に、ケーブルをシステム基板から外してしまうことがないよう注意してください。

1	光学ドライブ	2	フロッピードライブ	3	電源装置
4	シャーシイントルージョンスイッチ(オプション)	5	システム基板	6	ヒートシンクアセンブリ
7	ハードディスクドライブ				

システム基板コンポーネント

1	スピーカコネクタ(INT_SPKR)	2	プロセッサソケット(CPU)	3	メモリモジュールコネクタ(DIMM_1、DIMM_2、DIMM_3、DIMM_4)
4	電源コネクタ(PW_12V_A1)	5	SATA ドライブ コネクタ(SATA2、SATA3)	6	SATA ドライブ コネクタ(SATA0、SATA1)

7	前面パネルコネクタ（FRONTPANEL）	8	電源コネクタ（POWER1）	9	イントルージョンスイッチコネクタ（INTRUDER）
10	CMOS リセットジャンパ（RTCRST）	11	バッテリソケット（BATTERY）	12	内蔵 USB（USB1）
13	PCI Express x16 コネクタ（SLOT1）	14	スタンバイ電源（AUX_PWR_LED）	15	PCI コネクタ（SLOT2）
16	PCI Express x1 コネクタ（SLOT4）	17	パスワードジャンパ（PSWD）	18	PCI コネクタ（SLOT3）
19	フロッピードライブコネクタ（DSKT）	20	シリアルコネクタ（PS2/SER2）	21	オプションの DVI カードコネクタ（DVI_HDR）
22	ファンコネクタ（FAN_CPU）				

目次に戻る

目次に戻る

トラブルシューティングツールとユーティリティ

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

- Dell Diagnostics（診断）プログラム
- システムライト
- 診断ライト
- ビープコード
- エラーメッセージ
- ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決

Dell Diagnostics（診断）プログラム

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを使用する場合

コンピュータに問題が発生した場合、デルテクニカルサポートにお問い合わせになる前に（デルへのお問い合わせを参照）、この項のチェック事項を実行してから、Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行してください。

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。

注意: Dell Diagnostics（診断）プログラムは、Dell™ コンピュータ上でのみ機能します。

セットアップユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します（ セットアップユーティリティの起動を参照）。

Dell Diagnostics（診断）プログラムをハードディスクドライブまたは『Drivers and Utilities』メディアから起動します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムをハードディスクドライブから起動する場合

Dell Diagnostics（診断）プログラムは、ハードディスクドライブ上の隠されている診断プログラムユーティリティパーティションに格納されています。

メモ: お使いのコンピュータで画面イメージを表示できない場合は、デルにお問い合わせください（デルへのお問い合わせを参照）。

1. コンピュータをシャットダウンします。コンピュータの電源を入れます（または再スタートします）。
2. DELL™ のロゴが表示されたらすぐに<F12> を押します。

メモ: 診断ユーティリティパーティションが見つからないことを知らせるメッセージが表示された場合は、『Drivers and Utilities』メディア（オプション）から Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行してください。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やりなおします。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**Boot to Utility Partition** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
4. Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Main Menu** が表示されたら、実行したいテストを選択します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを Drivers and Utilities メディア（オプション）から起動する場合

1. 『Drivers and Utilities』メディアを挿入します。
2. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。

   DELL™ のロゴが表示されたらすぐに<F12> を押します。

   ここで時間をおきすぎて Windows のロゴが表示されたら、Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やりなおします。

メモ: 次の手順は、起動順序を1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスに従って起動します。

3. 起動デバイス一覧が表示されたら、**IDE CD-ROM Device** をハイライト表示して <Enter> を押します。

4. CD 起動メニューから **IDE CD-ROM Device** オプションを選択します。

5. 表示されたメニューから **Boot from CD-ROM** オプションを選択します。

6. 1 と入力して、『Drivers and Utilities』メディアのメニューを起動します。

7. 2 と入力して Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動します。

8. 番号の付いた一覧から **Run the 32 Bit Dell Diagnostics** を選択します。複数のバージョンがリストにある場合は、コンピュータに適切なバージョンを選択します。

9. Dell Diagnostics（診断）プログラムの メインメニュー が表示されたら、実行したいテストを選択します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー

1. Dell Diagnostics（診断）プログラムのロードが終了すると、**Main Menu** 画面が表示されるので、必要なオプションのボタンをクリックします。

オプション	機能
Express Test	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは 10～20 分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に **Express Test** を実行すると、問題を素早く特定できる可能性が増します。
Extended Test	デバイスの全体チェックを実行します。通常このテストは 1 時間以上かかり、定期的に質問に応答する必要があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択することができます。

2. テスト実行中に問題が検出されると、エラーコードと問題の説明を示したメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を記録し、画面の指示に従います。

   エラー状態を解決できない場合は、デルにお問い合わせください（デルへのお問い合わせを参照）。

メモ: 各テスト画面の上部には、コンピュータのサービスタグが表示されます。デルにお問い合わせいただく場合は、テクニカルサポート担当者がサービスタグをおたずねします。お使いのコンピュータのサービスタグは、セットアップユーティリティ の **System Info** オプションに表示されています。

3. **Custom Test** または **Symptom Tree** オプションからテストを実行する場合、該当するタブをクリックします（詳細については、以下の表を参照）。

タブ	機能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	検出されたエラー状態、エラーコード、問題の説明が表示されます。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics（診断）プログラムでは、セットアップユーティリティ、メモリ、および各種内部テストからすべてのデバイスの構成情報を取得して、画面左のウィンドウのデバイスリストに表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに取り付けられたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters	テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。

4. 『Drivers and Utilities』メディアから Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行している場合、テストが終了したら CD または DVD を取り出します。

5. テストが終了したらテスト画面を閉じて、**Main Menu** 画面に戻ります。Dell Diagnostics（診断）プログラムを終了しコンピュータを再起動するには、**Main Menu** 画面を閉じます。

システムライト

お使いの電源ボタンライトおよびハードディスクドライブライトは、コンピュータの問題を示すことがあります。

電源ライト	不具合の説明	推奨される処置
緑色の点灯	電源がオンで、コンピュータは正常に動作しています。デスクトップコンピュータでは、緑色のライトの点灯は、ネットワークが接続されていることを示します。	対応処置は必要ありません。
緑色の点滅	コンピュータは省電力モードです（Microsoft® Windows® XP の場合）。	電源ボタンを押したり、マウスを動かしたり、キーボードのキーを押すことで、コンピュータの操作を再開できます。
緑色に数回点滅したあとオフになる	設定エラーが発生しています。	固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
黄色の点灯	Dell Diagnostics（診断）プログラムがテストを実行中、またはシステム基板のデバイスが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	Dell Diagnostics（診断）プログラムが実行中であれば、終了するまで待ちます。 コンピュータが作動しない場合、デルに連絡してテクニカルサポートを受けてください。
黄色の点滅	電源装置またはシステム基板の障害が発生しました。	電源の問題を参照してください。
POST 中に、緑色の点灯とビープコード	BIOS 実行中に問題が検出されました。	ビープコードを使った診断に関しては、ビープコードを参照してください。また、特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します。
POST 中の緑色の点灯、ビープコードおよびビデオ表示なし	モニタまたはグラフィックスカードが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	特定の問題が起きているか診断ライトを確認してください（ビデオとモニタの問題を参照）。
POST 中の緑色の点灯、ビープコードはないがコンピュータがフリーズする	内蔵システム基板に欠陥がある可能性があります。	固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。問題が識別されない場合、デルにお問い合わせになりテクニカルサポートを受けてください。

診断ライト

警告： 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

問題のトラブルシューティングを容易にするため、お使いのコンピュータには前パネルに「1」、「2」、「3」、および「4」とラベルの付いた 4 つのライトが搭載されています。これらのライトは、緑色に点灯するか消灯しています。コンピュータが正常に起動した場合、起動プロセスが完了するとライトのパターンとコードが変化します。システム起動プロセスの POST が正常に終了すると、4 つのライトはすべて緑色に点灯します。POST プロセス中にコンピュータが誤動作した場合、LED に表示されるパターンで、プロセスのどこでコンピュータが停止したか識別できる場合があります。

メモ： 診断ライトの向きは、システムのタイプによって異なります。診断ライトは、縦向きまたは横向きのどちらかです。

ライトパターン	不具合の説明	推奨される処置
①②③④	コンピュータが通常のオフの状態、または BIOS に障害が起こっている可能性があります。 オペレーティングシステムが正常に起動すると、診断ライトは点灯しません。	コンピュータを使用可能なコンセントに接続し、電源ボタンを押します。
①②③④	BIOS 障害が発生した可能性があります。コンピュータは修復モードです。	BIOS Recovery Utility を実行し、BIOS の修復処理が完了するのを待って、コンピュータを再起動します。
①②③④	プロセッサに障害が起こっている可能性があります。	プロセッサを取り付けなおして、コンピュータを再起動します。
①②③④	メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しています。	l メモリモジュールが 1 つ取り付けられている場合は、そのモジュールを付けなおしてコンピュータを再起動します（メモリモジュールの取り外しと取り付け方法についての手順は、メモリを参照）。 l 取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、モジュールの 1 つを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 l 同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 l 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
①②③④	グラフィックスカードの障害が発生した可能性があります。	l コンピュータにグラフィックスカードを取り付けている場合、カードを取り外し、取り付けなおしてコンピュータを再起動します。 l それでも問題が解決しない場合、動作を確認済みのグラフィックスカードを取り付け、コンピュータを再起動します。 l 問題が解決しない場合、またはグラフィックスがコンピュータに内蔵されている場合、デルにお問い合わせください。
①②③④	フロッピードライブまたはハードディスクドライブの障害が発生した可能性があります。	すべての電源ケーブルおよびデータケーブルを接続しなおし、コンピュータを再起動します。
	USB の障害が発生した可能性があります。	すべての USB デバイスを取り付けなおし、ケーブル接続を確認して、コンピュータを再起動します。

	メモリモジュールが検出されません。	メモリモジュールが 1 つ取り付けられている場合は、そのモジュールを付けなおしてコンピュータを再起動します（メモリモジュールの取り外しと取り付け方法についての手順は、メモリを参照）。 取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、モジュールの 1 つを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
	メモリモジュールは検出されましたが、メモリの設定または互換性エラーが存在します。	特別なメモリモジュール / メモリコネクタ設置要件がないか確認します（メモリを参照）。 取り付けるメモリモジュールはコンピュータと互換性があるか確認します。 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
	障害が発生しました。 このパターンは、セットアップユーティリティを起動しているときにも表示され、問題があることを示しているわけではない場合があります（セットアップユーティリティの起動を参照）。	ハードディスクドライブおよび光学ドライブからシステム基板へケーブルが正しく接続されているか確認します。 モニタ画面に表示されるコンピュータメッセージを確認します。 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください。
	POST が終了すると、4 つの診断ライトすべてが緑色に短時間点灯してからライトが消え、通常の動作状態を示します。	特にありません。

ビープコード

お使いのコンピュータの起動時に、モニタにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビープ音が連続して鳴ることがあります。この連続したビープ音はビープコードと呼ばれ、問題を特定します。例えば、最初に長いビープ音が 1 度鳴った後に、短いビープ音が 2 回鳴るビープコードがあります。このビープコードは、コンピュータがメモリテストの失敗を検出したことを知らせます。

起動時にコンピュータがビープ音を発する場合、次の手順を実行します。

1. Diagnostics（診断）チェックリストにビープコードを書き込みます（Diagnostics（診断）チェックリストを参照）。
2. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行し、さらに重大な原因を識別します（Dell Diagnostics （診断）プログラムを参照）。
3. デルにお問い合わせいただき、テクニカルサポートを受けてください（デルへのお問い合わせを参照）。

コード	**原 因**
2 ショート、1 ロング	BIOS チェックサムエラー
1 ロング、2 ショート	メモリテストの失敗（メモリサイズ変更時のメモリの不具合）
1 ロング、3 ショート、2 ショート	メモリが取り付けられていない
1 ショート	F12 キーが押された

エラーメッセージ

以下を確認しながら Diagnostics（診断）チェックリストに記入します（ Diagnostics（診断）チェックリストを参照）。

警 告: 本 項の手 順を開 始する前に、『製 品 情報ガイド』の安 全にお使いいただくための注 意に従ってください。

メッセージが一覧にない場合、オペレーティングシステムまたはメッセージが表示された際に実行していたプログラムのマニュアルを参照してください。

ファイル名には次の文 字は使 用できません: \ / : * ? " < > | — これらの記号をファイル名に使用しないでください。
必 要な .DLL ファイルが見つかりません — 実行しようとしているプログラムに必要なファイルがありません。次の操作を行い、アプリケーションプログラムを削除して再インストールします。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プログラムの追加と削除** をクリックします。
2. 削除したいプログラムを選択します。
3. **削除** ボタンまたは 変更と削除 をクリックします。
4. インストール手順については、プログラムに付属されているマニュアルを参照してください。

警告! 前回このシステムを起動しようとして、Checkpoint [nnnn] で失敗しました。この問題を解決するには、この Checkpoint をメモしてデルテクニカルサポートにお問い合わせください — デルに連絡し(デルへのお問い合わせを参照)、サポート担当者にCheckpointコード(nnnn)を報告してください。

警告! 気温センサーが検出されません — ウルトラスモールフォームファクターコンピュータを除くすべてのタイプでは、I/O パネルとシステム基板にすべてのケーブルが正しく接続されていることを確認してから、コンピュータを再起動します。それでも問題を解決できない場合、またはウルトラスモールフォームファクターコンピュータをご使用の場合は、デルにお問い合わせください(デルへのお問い合わせを参照)。

接続での応答に失敗しました — ドライブの問題を参照してください。

コマンド名またはファイル名が違います — 正しいコマンドを入力したか、スペースの位置は正しいか、パス名は正しいかを確認します。

読み取りディスクに不正なエラー訂正コード(ECC)があります — ドライブの問題を参照してください。

コントローラに問題が発生しました — ドライブの問題を参照してください。

データエラー — ドライブの問題を参照してください。

使用可能メモリが減少しています — フリーズおよびソフトウェアの問題を参照してください。

ディスケットドライブ 0 でシークに失敗しました — ドライブの問題を参照してください。

ディスケット読み取りエラー — ドライブの問題を参照してください。

ディスケットサブシステムリセットが失敗しました — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します(Dell Diagnostics(診断)プログラムを参照)。

ディスケットの書き込みが防止されています — フロッピーディスクの書き込み防止ノッチをスライドさせて開きます。

ドライブの準備ができていません — フロッピーディスクをドライブに挿入します。

Gate A20 エラー — フリーズおよびソフトウェアの問題を参照してください。

ハードディスク構成エラー —

ハードディスクコントローラに問題があります —

ハードディスクドライブエラー —

ハードディスクドライブエラー —

ドライブの問題 を参照してください。

起動用メディアを挿入します — 起動可能なフロッピーディスクまたは CD を挿入します。

無効な設定情報。セットアップユーティリティを実行してください — セットアップ ユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を修正します(セットアップユーティリティの起動を参照)。

キーボードに問題があります — キーボードの問題を参照してください。

アドレス、読み取り値の予想値におけるメモリアドレスのエラー — フリーズおよびソフトウェアの問題を参照してください。

メモリ割り当てエラー —

1. コンピュータの電源を切り、30 秒待ってから再起動します。
2. プログラムを再度実行します。
3. 再度エラーメッセージが表示される場合、追加のトラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

アドレス、読み取り値の予想値におけるメモリアドレスのエラー_ —

アドレス、読み取り値の予想値におけるメモリダブルワード論理エラー_ —

アドレス、読み取り値の予想値におけるメモリ奇数 / 偶数論理エラー _ —

アドレス、読み取り値の予想値におけるメモリ書き込み / 読み取りエラー_ —

CMOS のメモリサイズが無効です —

フリーズおよびソフトウェアの問題を参照してください。

起動デバイスがありません —

- フロッピードライブが起動デバイスの場合、起動フロッピーディスクがドライブに挿入されていることを確認します。
- ハードディスクドライブが起動デバイスの場合、ケーブルが接続されていて、ドライブが適切に取り付けられていて、起動デバイスとしてパーティション分割されているか確認します。
- セットアップユーティリティを起動して、起動順序が正しいことを確認します（セットアップユーティリティの起動を参照）。

ハードディスクドライブに起動セクタがありません — セットアップユーティリティを起動して、コンピュータのハードディスクドライブ構成情報が正しいか確認します（セットアップユーティリティの起動を参照）。

タイマーチック割り込み信号がありません — Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

非システムディスクまたはディスクエラーです — 起動オペレーティングシステムの入ったフロッピーディスクと交換するか、ドライブ A からそのフロッピーディスクを取り出してコンピュータを再起動します。

非起動用ディスケットです — 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。

メモリまたはリソースが不足しています。いくつかのプログラムを閉じてもう一度やりなおします — すべてのウィンドウを閉じ、使用するプログラムのみを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、最初に使うプログラムを開きます。

オペレーティングシステムが見つかりません — デルにお問い合わせください（デルへのお問い合わせを参照）。

プラグアンドプレイ設定エラー —

1. コンピュータの電源を切り、コンセントから取り外します。次に、カードを 1 枚だけ残してすべて取り外します。
2. コンピュータの電源プラグを差し込み、コンピュータを再起動します。
3. メッセージが表示される場合、取り付けられているカードが誤動作している可能性があります。メッセージが再度表示されない場合、コンピュータの電源を切り、別のカードを 1 枚挿入します。
4. 誤動作しているカードがわかるまで、この手順を繰り返します。

読み取り失敗 —

要求のセクターが見つかりません —

リセット失敗 —

ドライブの問題 を参照してください。

セクタが見つかりません —

- Windows のエラーチェックユーティリティを実行して、フロッピーディスクまたはハードディスクドライブのファイル構造を調べます。手順については、Windows ヘルプを参照してください。
- 多くのセクターに障害がある場合、データをバックアップし、フロッピードディスクまたはハードディスクドライブを再フォーマットします。

シークエラー — ドライブの問題を参照してください。

シャットダウンの失敗 — Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

内部時計の停止 —

日付と時間が設定されていません。セットアップユーティリティを起動してください — セットアップユーティリティを起動し（セットアップユーティリティの起動を参照）、日付または時間を修正します。それでも問題が解消されない場合は、バッテリを交換します（バッテリの取り付けを参照）。

タイマチップカウンター 2 エラー — Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

プロテクトモードで予期せぬ割り込みあり — Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

警告：[プライマリ／セカンダリ] EIDE コントローラ上のドライブ [0/1] が、通常の仕様外の環境で動作していることを、デルのディスクモニタシステムが検知しました。直ちにデータをバックアップして、サポートデスクまたはデルに連絡し、お使いのハードディスクドライブを交換することをお勧めします — すぐに利用できる交換用のドライブがなく、そのドライブが唯一の起動ドライブではない場合、セットアップユーティリティを起動して（セットアップユーティリティの起動を参照）、問題が発生したドライブの設定を **None** に変更します。次に、ドライブをコンピュータから取り外します。

書き込みエラー —

選択されたドライブで書き込みエラー —

ドライブの問題を参照してください。

<ドライブ文字>:\ にアクセスできません。デバイスの準備ができていません — 選択したドライブは、そのメディアを読み取ることができません。メディアのタイプに応じて、フロッピー、CD、DVD または ZIP ディスクをドライブに挿入し再度試してみます。

ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決

OS のセットアップ中にデバイスが検出されないか、検出されても間違って設定されている場合、デバイスマネージャまたはハードウェアに関するトラブルシューティングを使用して非互換性を解決することができます。

Microsoft® Windows® XP

デバイスマネージャで非互換性の問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックして、**システム** をクリックします。
3. **ハードウェア** タブをクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
4. **デバイスマネージャ** リストで、間違って設定されているデバイスを確認します。

   間違って設定されているデバイスは黄色い感嘆符（**!**）で示され、デバイスが無効になっている場合には赤い X で示されます。

5. 感嘆符でマークされたデバイスをダブルクリックして、**プロパティ** ウィンドウを表示します。

   プロパティ ウィンドウの **デバイス** の状態領域に、再設定が必要なデバイスがレポートされます。

6. デバイスを再構成するか、または **デバイスマネージャ** からデバイスを削除します。デバイスの再構成の詳細に関しては、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

Windows XP のハードウェアに関するトラブルシューティングを使って非互換性を解決するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2. **検索** フィールドでハードウェアに関するトラブルシューティングと入力し、次に、矢印をクリックして検索を始めます。
3. **検索の結果** の一覧で、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
4. **ハードウェアに関するトラブルシューティング** 一覧で、**コンピュータにあるハードウェアの競合を解決します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

目次に戻る

目次に戻る

保証について

Dell™ Optiplex™ 740 ユーザーズガイド

デルの保証情報に関しては、『サービス & サポートのご案内』を参照してください。

目次に戻る